

- 一、左の諸穴の位置、並に禁穴禁灸を指摘せよ
- 春中、玉枕、魚際、臑中、伏兔 (昭和三年五月高知)
- 一、鳩尾、陰交、石門、肩井、氣舍の所在を記せ (大正十五年十月滋賀)
- 一、肩井の部位及び血管神經との關係並に肩井の刺灸に就て記せ
- 一、胃痛に對する刺灸の穴名 (昭和七年一月朝鮮成南)
- 一、曲池、三里、翳風、胃俞、客主人、大椎の經名及び解剖的位置
- 鳩尾、陰交、石門、肩井、氣舍 (昭和六年三月臺北)
- 一、膊神經叢部にある經穴を記せ (辰井高等鍼灸學院卒業試験問題)
- 一、郛門、内庭、天容の解剖的部位を記せ (昭和二年春福井)
- 一、肘關節及び膝關節周圍の穴名を記せ (昭和三年五月高知)
- 一、尺澤、委中、靈臺、懸顛、關門の部位並に解剖的關係及び禁灸の區別を記せ (昭和二年十一月愛媛)
- 一、腰神經叢薦骨神經叢部にある穴名と其等の叢を刺す刺灸の深さ (昭和二年十一月愛媛)
- 一、鎖骨下端の下部凹なる部、腋窩三寸の處、曲池の上三寸の處、經渠の直下拇指側橫紋の頭、外膝眼の下方六寸の處の經穴の名稱を  
挙げよ (昭和二年十一月愛媛)
- 一、附分、屋翳、膈俞、志室、三陰交の解剖的所見並に應用せらるゝ場合を記せ (昭和三年四月京都)
- 一、陽白、百會、水泉、曲池、三陰交の解剖的部位 (昭和六年三月山梨)

病理學(實は主として內科學)問題集

- 一、胃擴張の症候、鑑別灸治法如何 (大正八年十月富山) 胃擴張の症候を問ふ (昭和三年春福井)
- 一、慢性胃カタルに對する灸治の部位 (大正十一年五月佐賀)
- 一、胃カタルの灸治目的の部位を記せ (大正八年三月東京)
- 一、肋間神經痛の症候及び其類症鑑別を問ふ (昭和六年十月兵庫)
- 一、胃痙攣と膽石痛の灸治法 (昭和七年四月新潟)
- 一、胃痙攣の症候及び刺灸法 (昭和三年五月富山)
- 一、胃痙攣の症候と灸灸治法を記せ (大正八年四月秋田、大正八年十月滋賀)
- 一、神經性嘔吐の原因、症候、灸治點 (昭和七年三月山梨)
- 一、職業的痙攣に對する刺灸點灸の部位を語れ (大正八年四月秋田)
- 一、肋間神經痛の刺灸點並に刺灸上の注意如何 (大正八年五月香川)
- 一、肋膜炎に對する灸灸術の療法並に其利害如何 (大正十年二月大分)
- 一、肋膜炎の灸灸療法に就て左の事項を述べよ
- (イ) 施灸の時期 (ロ) 施灸の目的 (ハ) 施灸部位 (ニ) 其他必要事項 (昭和六年四月京都)
- 一、坐骨神經痛の刺灸點及び灸點 (昭和三年四月長野)

- 一、坐骨神経痛の症状及び鍼灸療法 (昭和三年五月富山)
- 一、坐骨神経痛の原因、症状、療法 (昭和六年十一月岩手)
- 一、胃の收縮を起すに足るべき刺鍼部位と同部の興奮によつて治癒し得べき疾病を挙げよ (昭和六年十月愛知)
- 一、痲疹を來す疾患を挙げ其の主なる差異を述べよ (昭和七年四月福井)
- 一、胃痙攣と子宮痙攣の區別 (昭和六年十月福井)
- 一、坐骨神経痛の刺鍼法如何 (大正八年三月静岡、大正九年十一月埼玉)
- 一、坐骨神経痛の刺鍼目的と部位を記せ (大正八年三月東京)
- 一、坐骨神経痛に對する灸治法 (大正八年三月東京)
- 一、局所療法の適應症と其奏效の理由 (昭和六年四月愛知)
- 一、坐骨神経痛に對する刺鍼點を孔穴によつて説明せよ (大正九年四月愛媛)
- 一、偏頭痛に對する鍼灸治法 (大正十年五月高知、大正十一年六月埼玉、大正十二年四月滋賀、大正十五年五月石川)
- 一、後頭神経痛の原因、症状、療法 (昭和七年三月山梨)
- 一、偏頭痛の症状と灸穴を述べよ (大正十年四月京都)
- 一、偏頭痛に對する灸の要穴 (昭和七年一月朝鮮咸南)
- 一、神經衰弱の主徴六ツを挙げ且つその鍼治法の目的につき説明せよ (昭和六年十月愛知)
- 一、顔面神経麻痺の症状 (昭和六年十月福井)
- 一、眩暈症並に遺尿症の對症療法 (大正八年十月熊本)

- 一、神經衰弱の原因、症状、療法 (昭和七年三月山梨)
- 一、顔面筋痙攣に對する刺鍼法に術式如何 (大正八年六月東京)
- 一、顔面神経の起始、經過並に分佈の大畧を述べ且つ顔面神経痛の鍼治方法を述べよ (大正八年十月大阪)
- 一、顔面神経麻痺の症状及び鍼治法 (昭和六年四月滋賀)
- 一、顔面神経麻痺の症状並に之に對する施鍼の主治を挙げ其奏效理由を記せ (昭和六年十月徳島)
- 一、顔面神経麻痺の原因、症状、療法 (昭和七年三月山梨)
- 一、腹筋痙攣の症状及び鍼灸如何 (大正八年十月大阪)
- 一、腸痙攣に對する鍼灸治法及び腸痙攣と腸カタルの鑑別を記せ (大正九年四月山口)
- 一、腸痙攣の症状及刺鍼の奏效理由を述べよ (大正九年四月愛知)
- 一、腹痛とは如何之を目的として施灸する疾病を示せ (大正九年四月大阪)
- 一、腹部疾病の禁忌症を記せ (大正八年十二月愛媛)
- 一、慢性腸カタルの原因症候並に鍼治法を記せ (大正九年十月兵庫)
- 一、胃擴張の鍼治法 (昭和六年四月福岡)
- 一、腸運動弛緩症に對する刺鍼目的及び刺鍼部位如何 (大正九年十月京都)
- 一、疝癪に對する鍼治法 (大正九年十月三重)
- 一、神經性心悸尤進症の症状を述べ且つ灸治點を記せ (大正八年十月大阪)
- 一、常習頭痛の鍼治法 (昭和七年四月滋賀)

- 一、三角筋ロイマチスの症状と療法を述べよ (大正八年十月大阪)
- 一、膀胱カタル、肋間神経痛の對症鍼灸法を述べよ (大正八年十月熊本)
- 一、股神経痛の刺鍼目的と其部位如何 (大正八年三月東京)
- 一、衄血に對する刺鍼點及び刺鍼法如何 (大正八年九月東京) 衄血の原因症狀治療法 (大正九年五月高知)
- 一、次記の病症に對する施灸療法の價值如何
  - 胃擴張、腹膜炎、脊椎カリエス、副癩丸炎 (昭和六年十月京都)
- 一、半身不隨の原因及び其灸治點 (昭和六年十月滋賀)
- 一、氣管枝喘息の原因、症候、灸治法 (昭和六年十月佐賀)
- 一、喉頭加答兒に對する刺鍼法 (大正十年四月島根)
- 一、上臼齒痛に對する刺鍼點 (大正十三年四月滋賀)
- 一、脊髄癆の主要症狀を詳記せよ (昭和七年春福井)
- 一、齒痛に對する施灸部位と其目的如何 (大正九年十月愛媛)
- 一、習慣性頭痛と偏頭痛中より何れか其一を選び目的を異にする鍼術の處法三種を記せ (昭和七年四月愛知)
- 一、三叉神経痛の壓痛點を述べよ (大正十一年六月埼玉)
- 一、顔面神経痙攣の原因、症候、鍼灸治療法 (昭和六年五月長野)
- 一、大後頭神経痛に對する刺鍼穴名を記せ (大正九年十月静岡)
- 一、大後頭神経痛に對する灸穴名を記せ (大正九年十月静岡)

- 一、膝神経に對する刺鍼點並に目的を記せ (大正九年十月岐阜)
- 一、腰骨神経痛の灸治點穴名並に方法を記せ (大正九年十月徳島)
- 一、艾の良否並に治療上の影響を記せ (大正九年十月岐阜)
- 一、筋肉ロイマチスと神経痛との區別並に兩者の治療法 (大正十五年四月新潟)
- 一、腰筋ロイマチスに對する灸治法如何 (大正九年二月大分、大正十年四月京都)
- 一、四頭股筋ロイマチスの症候と灸治法如何 (大正八年十月富山)
- 一、氣管枝擴張の症狀 (昭和七年四月佐賀)
- 一、慢性漿液性膝關節炎の症候及び灸治法如何 (大正十年富山)
- 一、慢性關節ロイマチスの症狀及び刺鍼法 (昭和三年五月富山)
- 一、傳染性皮膚疾患に就て記せ (昭和七年三月北海道)
- 一、擔骨神經痙攣治療に必要な灸穴を記せ (昭和二年十一月神奈川)
- 一、擔骨神經痙攣の症候と灸治法を記せ (大正九年四月愛知、昭和三年五月富山)
- 一、腓腸筋痙攣症に對する灸治法如何 (大正九年五月島根)
- 一、正中神経痛に對する鍼灸治療法を記せ (大正九年十二月和歌山)
- 一、膀胱痙攣に對する鍼灸法如何 (大正九年十月三重)
- 一、筋ロイマチスの灸治法如何 (昭和六年四月兵庫)
- 一、便秘に對する應用穴と其奏效の理由如何 (昭和六年十月京都)

- 一、胃痛に對する穴名 (昭和六年四月滋賀)
- 一、便秘に對する療法の大意 (昭和六年九月北海道)
- 一、子宮痙攣に對する刺鍼法如何 (大正八年三月廣島)
- 一、痲痛の種類其特徵並に鍼術の適否及び理由を問ふ (昭和子年四月大阪)
- 一、月經不順に對する灸治法並に取穴法を述べよ (大正八年十月京都)
- 一、子宮痙攣の症狀及び鍼治法は如何 (大正八年十月富山)
- 一、小便閉止及び蝦血の鍼治如何 (大正八年四月熊本)
- 一、動脈硬化症の原因、灸治法 (昭和七年春佐賀)
- 一、カタル性黄疽の原因症候及び治療穴を記せ (大正九年十月京都)
- 一、黄疽に對する主要穴並に刺鍼法如何 (大正十年二月大分)
- 一、癲癇とは如何なる疾病か (昭和七年四月福井)
- 一、黄疔の原因、症候並に灸治法 (昭和六年十月佐賀)
- 一、横膈膜痙攣の刺鍼部位と其方式を述べよ (大正八年十月奈良)
- 一、横膈膜痙攣症に對する灸治法如何 (大正九年十月京都)
- 一、慢性氣管枝炎とは如何、其原因症候豫後療法を問ふ (昭和二年秋和歌山)
- 一、慢性氣管枝カタルに對する治療法を述べよ (大正十年二月大分)
- 一、神経性心悸亢進症に對する鍼治法如何 (大正九年奈良)

- 一、慢性腹膜炎とは如何、其原因、症候、豫後、療法を問ふ (昭和二年秋和歌山)
- 一、肩胛關節常習性脱臼の灸治穴如何 (大正八年十月奈良)
- 一、上肢筋肉ロイマチスの鍼治法 (大正七年十二月北海道)
- 一、慢性鼻カタルの症候之に施す刺鍼穴名如何 (大正八年三月宮崎)
- 一、神経性消化不良の灸穴並に壯數如何 (大正八年十二月和歌山)
- 一、神経性消化不良に對する鍼治法を注意如何 (大正九年四月兵庫)
- 一、胃痙攣、胃潰瘍、神経性腸痙攣、盲腸炎、膽石痙攣、腎石痛、以上の疾病に就て各々其腹痛の特徴及び刺鍼の禁忌、適應を述べよ (昭和六年六月宮崎)
- 一、神経性心悸亢進に對する刺鍼點と奏效の理由を記せ (昭和二年春奈良)
- 一、神経性嘔吐の鍼治穴名 (昭和六年十月滋賀)
- 一、脊髄癆の原因、症狀 (昭和七年三月朝鮮京畿道)
- 一、脊髄癆の症狀 (昭和六年十月福井)
- 一、脊髄炎に對する鍼治の可否を記せ (大正九年四月兵庫)
- 一、下肢に刺鍼して腹部疾病に效ある實例と其理由を記せ (大正八年十月奈良)
- 一、中樞痙攣と末梢痙攣との鑑別 (昭和三年四月兵庫)
- 一、股神経の所在及び前股皮下神経痛の治療法を記せ (大正十二年十一月北海道)
- 一、失神とは如何、之が處置如何 (昭和三年三月山梨)

- 一、偏頭痛の類症鑑別方法並に之が刺鍼に際し用ふる經穴を挙げ其奏效する理由を記せ (昭和七年四月徳島)
- 一、股神經痛の原因、症狀、主治穴を述べよ (大正十二年四月滋賀)
- 一、僧帽筋ロイマチスに就いて述べよ (大正十二年四月滋賀)
- 一、腕關節の疼痛の原因は何か、並に鍼灸治法を問ふ (大正十二年四月滋賀)
- 一、ヒステリーの症狀を問ふ (昭和七年四月福井)
- 一、書癢の原因、症狀、豫後、療法を問ふ (大正十三年十月奈良)
- 一、神經性腸痛の原因及び鍼灸法 (大正十一年十月京都)
- 一、上膊筋萎縮症の原因及び治穴を記せ (大正十一年十月京都)
- 一、神經痛と神經炎との鑑別 (昭和三年六月三重)
- 一、神經痛と神經炎の區別何れが適應症なるか及び奏效の理由 (昭和六年四月愛知)
- 一、神經痛の原因、症狀、並に鍼灸法如何 (大正十一年四月兵庫)
- 一、腸痛とは如何之の鍼灸法及び奏效理由を述べよ (大正十一年三月富山、大正九年四月名古屋)
- 一、膀胱麻痺の區別及び鍼灸方法 (大正十一年六月富山) 膀胱麻痺の症狀及び刺鍼法 (昭和三年春富山)
- 一、漿液性關節炎の症狀、鑑別法及び灸治の奏效理由 (大正十一年六月富山)
- 一、臨牀上子宮及び膀胱の疾患に就き疼痛放散の差異 (昭和七年四月愛知)
- 一、便秘に對する鍼治點 (大正十一年六月埼玉)
- 一、常習性頭痛の症狀と主なる治穴及び奏效理由を問ふ (大正十一年六月富山)

- 一、提骨神經麻痺の原因、症狀、療法 (昭和六年三月山梨)
- 一、慢性氣管枝カタルの灸治點 (昭和三年五月茨城)
- 一、氣管枝喘息の區別、症狀、灸穴、奏效の理由 (大正十一年六月富山)
- 一、腦充血の原因、症狀及び之に對する刺鍼點部位、穴名を記せ (大正十二年六月宮崎)
- 一、腸痛の症狀及び之の刺鍼點部位穴名を問ふ (大正十一年六月宮崎)
- 一、腸チフスの鍼灸治療法 (昭和六年十月沖繩)
- 一、常習便秘の原因治療法 (昭和六年十月沖繩)
- 一、氣管枝喘息の原因、症狀、及び之に對する灸治點部位、穴名 (大正十二年六月宮崎)
- 一、灸治に適す可き肺結核の時期と其症狀及び應用穴 (大正九年五月奈良)
- 一、痔疾の治療法を記せ (大正十二年十一月北海道)
- 一、痔疾に對する灸治の部位を記せ (大正十一年五月佐賀)
- 一、中風とは如何なるものか之に對する施灸の時期並に其部位 (大正十五年奈良、大正十二年七月三重)
- 一、顔面神經麻痺の症狀及び之に對する鍼灸治療法を問ふ (大正十二年十一月北海道、大正十二年四月滋賀)
- 一、便秘を來す疾病中より灸治に適するもの及び其奏效理由 (昭和七年四月愛知)
- 一、坐骨神經痛の症狀及び其鍼灸法を問ふ (大正十五年滋賀、大正十二年十一月島根、大正十年四月滋賀、大正十二年十一月札幌)
- 一、脊髓性末梢神經障礙に就き灸治療法の適否を説明せよ (大正十五年四月愛知)
- 一、夜尿症の原因、症狀、療法 (昭和六年三月山梨、昭和七年春高知)

- 一、齒痛の種類及び適應症と不適應症とを區別し之に對する刺鍼方法を述べよ (大正十五年富山)
- 一、腹部消化器病の鍼治適應症を記せ (大正十三年十月北海道)
- 一、遺尿症に對する療法の大意 (昭和六年九月北海道)
- 一、夜尿症の灸治點 (昭和六年十月福岡、昭和七年一月朝鮮咸南、昭和七年三月北海道)
- 一、胃酸過多症の原因と徵候を記せ (大正十五年春福井)
- 一、胃痛の原因、症候及び之に對する刺鍼法を問ふ (大正十五年四月高田)
- 一、尺骨神經痛の原因、症候及び之に對する灸治法 (大正十五年四月高田)
- 一、猿手(熊手)、鷺手の原因(如何なる神經の疾患か)治療穴名 (昭和六年四月愛知)
- 一、前膊に於ける正中神經痛の治療法 (大正十年十一月福岡)
- 一、尺骨神經麻痺の刺鍼法 (昭和七年四月新潟)
- 一、三叉神經痛の原因並に症候を問ふ (大正十二年十一月福岡)
- 一、遺尿症の原因及び治療法を問ふ (大正十二年十一月福岡)
- 一、尿道加答兒の灸治點 (昭和三年四月鳥根)
- 一、肋間神經痛の原因症候及び之が鍼灸療法を問ふ (昭和三年四月滋賀、昭和六年五月長野)
- 一、麻痺と痙攣に就て記せ (昭和七年三月北海道)
- 一、麻痺の回復する理由を述べよ (大正十三年十月東京)
- 一、慢性性乳房炎と化膿性乳房炎との區別及び灸術の方法 (大正十五年春富山)

- 一、不眠症に對する鍼灸穴 (大正十五年高知)
- 一、末梢神經痛とは如何之に對する灸治の方法 (大正十五年春富山)
- 一、化膿菌の傳染経路及び之によりて惹起せらるる疾病の名稱を列記せよ (昭和六年九月北海道)
- 一、肺結核に對する施灸の時期と之に應用する經穴名並に其奏效する理由 (昭和六年十月奈良)
- 一、創傷傳染病に就て (昭和七年三月北海道)
- 一、急性熱性傳染病の種類及び傳染経路 (昭和六年十月佐賀)
- 一、慢性子宮内膜炎の症候と治穴及び奏效理由 (大正十四年十月富山)
- 一、灸治の禁忌症及び部位を記せ (大正十四年四月北海道)
- 一、下肢に來る麻痺の原因、症候及び灸治法 (大正十年四月鹿兒島)
- 一、鼓腸の原因、症候、治療法如何 (昭和六年十一月岩手)
- 一、腰腹神經痛の症候及び治穴を述べよ (大正十三年四月京都、大正十三年四月秋田)
- 一、腰痛に對する灸治點 (昭和六年四月福岡)
- 一、膀胱麻痺の症候と其灸點法を問ふ (大正十三年一月岡山、大正十二年十月奈良)
- 一、利尿筋の麻痺症候に對する鍼灸法と要穴を記せ (昭和六年九月青森)
- 一、ヒステリー症の原因、症候、豫後、療法 (大正十三年三月福岡)
- 一、偏頭痛の原因、症候と鍼灸治療法 (大正十三年五月山口) 偏頭痛の鍼治法 (昭和二年十一月長崎)
- 一、疼痛に對する鍼灸の適否を論ぜよ (大正十三年十月兵庫)

- 一、水腫と浮腫の區別を論ぜよ (大正十三年四月北海道)
- 一、ロイマチスと神経痛の鑑別及び之等に對して鍼灸點を用ふるや理由を述べよ (不詳)
- 一、急性筋ロイマチスの原因、症候、治療法 (大正十三年福岡、大正十五年秋田)
- 一、盲腸炎の原因症候並に點灸の利害 (昭和三年四月鹿兒島)
- 一、肥大性頸髓硬膜炎の主治及び之に對する鍼治療可否 (昭和六年十月鹿兒島)
- 一、後頭神経痛の症候 (大正十五年四月長岡)
- 一、顔面神経痛の症候及び刺鍼點如何 (大正七年十二月愛媛)
- 一、胃痙攣の灸療法の目的及び方法 (昭和六年四月香川) 顔面神経麻痺の處置を記せ (昭和二年春福井)
- 一、斜頸の原因的類別並に鍼術の適不適及び其療法如何 (大正九年四月大阪)
- 一、頸部刺鍼を應用す可き場合を詳記し且其鍼療部位の一例を詳記せよ (大正七年九月大阪)
- 一、次に就き鍼術の適否を問ふ
  - 肋膜炎、肋間神経痛、胸筋ロイマチス、喘息 (昭和七年四月兵庫)
  - 坐骨神経痛の症候及び鍼灸療法 (昭和三年四月秋田)
  - 坐骨神経痛の原因、症候並に鍼灸の要穴を問ふ (大正八年三月山梨)
  - 坐骨神経痛の症候及び刺鍼點灸穴を記せ (大正八年十月静岡、大正九年十月徳島)
  - 腓骨神経麻痺の原因及び刺鍼法 (昭和六年十月富山)
  - 脚氣の症候及び鍼灸療法 (昭和三年四月秋田、昭和六年三月臺北)

- 一、脚氣の徵候及び其處置法を問ふ (昭和六年十月宮城)
- 一、脚氣の症候並に灸治點を舉げて奏效理由を記せ (大正八年四月富山)
- 一、マラリヤとは何ぞ灸治の可否及灸治點 (昭和三年三月東京)
- 一、喘息の原因、症候及び灸治點如何 (大正八年三月山梨) 喘息に對する鍼治法 (昭和二年秋廣島)
- 一、腸疝痛の主なる徵候及び類別並に刺鍼點を述べよ (大正八年三月山口)
- 一、前腹壁より刺鍼して奏效する胃疾患及び其理由又禁忌症を問ふ (昭和六年四月愛知)
- 一、脊髄麻痺と脚氣麻痺との區別 (大正八年三月山口)
- 一、胃痙攣に對する刺鍼點を解剖學的名稱を以て記せ (昭和七年三月北海道)
- 一、慢性肩胛關節ロイマチスの症候を記せ (大正八年三月山口)
- 一、肩背部に於ける神経痛の灸治法 (昭和七年四月新潟)
- 一、腕關節ロイマチスの灸治法 (大正十三年十月青森)
- 一、腰筋ロイマチスの原因、症候、並に刺鍼點と奏效理由如何 (大正八年四月富山)
- 一、腰筋ロイマチスの原因、症候、灸治法を記せ (大正九年十月兵庫)
- 一、三角筋ロイマチスに對する採穴を求む (大正九年四月福井、大正十二年四月福井、大正十五年春富山)
- 一、胃擴張の原因、症候如何 (昭和二年春福井)
- 一、急性胃カタルの原因、症候、鍼治法如何 (大正八年四月熊本、大正九年十月鹿兒島)
- 一、慢性腸加答兒灸治療法の施灸部位と其の目的及び奏效の理由を舉げよ (昭和六年十月愛知)

- 一、顔面神経麻痺に對する鍼治點を擧げ且つ鍼治療法の禁忌症を問ふ (昭和七年四月島根)
- 一、膀胱麻痺の原因症狀治療法 (昭和三年五月高知)
- 一、膀胱麻痺の原因及び灸治法 (昭和六年四月福岡)
- 一、腸充血の原因、症候及び鍼治法と奏效理由如何 (大正八年四月富山)
- 一、膀胱カタル末期の症候及び治療如何 (大正九年十月京都)
- 一、消渴とは何ぞ其灸治法 (大正十年五月大阪)
- 一、腸充血、腸貧血の處置如何 (大正七年九月北海道) 腸充血の灸治法 (昭和二年十一月廣島)
- 一、肋間神経痛の原因、症候、鑑別法、灸治法及び奏效理由如何 (大正八年四月富山)
- 一、腓腸筋痙攣及び萎縮の原因、症候と鍼灸治穴を述べよ (大正八年十月京都)
- 一、咳嗽に對する治療方針如何 (昭和七年四月兵庫)
- 一、子宮内膜炎の急性と慢性との區別及び其灸治法如何 (大正九年四月京都)
- 一、慢性腸カタルの原因、症候、鍼治法如何 (大正九年十月兵庫)
- 一、慢性腸加答兒の灸治法 (昭和六年十月富山)
- 一、肘關節ロイマチスの原因、治療法如何 (大正九年十一月福井)
- 一、尿道加答兒に對する灸治法並に其施灸部位穴名如何 (昭和六年六月宮崎)
- 一、偏頭痛に對する穴名と艾の製法を問ふ (昭和七年四月島根)
- 一、疝氣とは何ぞ其治療法 (昭和三年四月富買實地)

- 一、俗に小兒の疳又は蟲と稱するは如何なる疾病か之に對する鍼治法如何 (大正八年十月三重)
- 一、脚氣衝心症に對して醫師の來るまでの處置如何 (大正七年九月北海道)
- 一、下肢の運動障礙は如何なる場合に來るや其主例を五つあげて鍼術の適否を詳記せよ (大正九年十二月大阪)
- 一、原因的方面より見て鍼が坐骨神経痛に對する禁忌及び適應症を例を擧げて説明し、適應症に對しては其鍼治法を述べよ (昭和七年四月鹿兒島)
- 一、患者あり、俄然左側の前額部、上眼瞼及び眼球に劇痛を覺へ、顔面は初めは蒼白なりしも後潮紅し頻々瞬目し且つ流涙し苦惱に堪へざる狀を呈するも患部に腫脹發赤削口もなく、既往に於て之と同様の疾病を経過せることありといふ、之に對する刺鍼灸の法如何 (大正七年六月廣島)
- 一、水腫とは何ぞ且つ灸の對症的療法如何 (大正九年五月島根)
- 一、官能的疾患、器質的疾患とは何か之に對する鍼治の適否を記せ (大正九年四月大阪)
- 一、飛沫傳染病の名稱を列記せよ (昭和六年九月北海道)
- 一、陰囊腫大の類別及び副睾丸炎の鍼治法如何 (大正九年四月大阪)
- 一、慢性腎臟炎に對し施灸の部位と目的を記せ (大正十五年十月奈良)
- 一、消化不良の施灸點 (大正十五年十月静岡)
- 一、腹水の原因、症候及び鍼灸治療法 (昭和六年五月長野)
- 一、問診とは何ぞや視診とは何ぞや (大正十五年十月愛知)
- 一、症候學とは何ぞや (辰井高等鍼灸學院卒業試験問題)



- 一、炎症とは何ぞや (大正十年春北海道)
- 一、神経痛とは何ぞや (辰井高等鍼灸學院卒業試験問題)
- 一、膀胱痙攣の原因、症状、之が鍼によつて治療するの理由 (辰井高等鍼灸學院卒業試験問題)
- 一、悪吐の原因、症状、治療穴名、並に鍼によつて奏效するの理由 (同)
- 一、三叉神経痛の原因、症状、治療穴名、並に鍼によつて奏效するの理由 (同)
- 一、肘關節炎の原因、症状、主治穴名並に、之が灸によつて治療するの理由 (同)
- 一、乳兒脚氣の原因、症状、鍼治法 (同前)
- 一、急性腸膜炎の原因、症状、鍼治法 (同前)
- 一、疫癘の原因症状 (同前)
- 一、消化器病中より灸術の適するものと適せざるものとを區別して列記せよ (昭和七年春長崎)
- 一、マラリヤとは何ぞ、並に之に對する處置 (同前)
- 一、ハイネ、メジン氏病の原因、症状、鍼灸療法 (辰井高等鍼灸學院卒業試験問題)
- 一、肺結核の灸治法 (大正十一年六月島根)
- 一、咳嗽に對する鍼灸治法 (昭和六年四月石川)
- 一、筋肉疲労の原因及び回復法 (昭和三年四月長野)
- 一、腦溢血の原因症状及び其半身不隨に對する鍼灸療法を問ふ (昭和三年四月滋賀)
- 一、炎症とは何ぞ、施術の可否其二三の例を記せ (昭和三年五月高知)

- 一、肩の凝りの原因と治療法 (昭和三年六月三重)
- 一、夜驚症の原因、症候、並に療法 (昭和六年三月山梨)
- 一、炎症に對し鍼灸施行の可否 (昭和六年十月宮城)
- 一、皮膚の傳染病に就て記せ (昭和六年十月富山)
- 一、腦出血後の半身不隨症に對する刺鍼法及主治穴 (昭和六年十月富山)
- 一、胃及腸下垂症の症候並に灸治法如何 (昭和六年十月鹿兒島)
- 一、急性腸炎に對する施灸時期、施灸部位、及施灸量(施灸點數、壯數)等に就き治驗例の一を擧げて説明せよ (昭和七年四月鹿兒島)
- 一、神経性消化不良の原因、鍼治法 (昭和七年五月高知)

縣別試驗問題一覽

第九編 縣別試驗問題一覽 (766)

福岡縣 (大正十四年十一月)

- 一、腎臓の位置、形狀並に其機能を問ふ
- 一、前膊撓骨側の筋肉及び主なる血管、神経の名稱を擧げよ
- 一、膀胱麻痺の原因、症候及び鍼治法を問ふ
- 一、鍼治を禁すべき場合を擧げよ
- 一、熱を用ひて消毒すべき品名方法を問ふ (以上鍼術)
- 一、肝臓の位置、形狀並に其機能を問ふ
- 一、腹筋の名稱及び之に分佈する血管、神経は如何
- 一、風池、陽關、孔最の解剖的位置並に其部に於ける灸治の適應症を問ふ
- 一、灸治を禁すべき場合を擧げよ
- 一、消毒薬品の種類及び其應用を問ふ (以上鍼術)

徳島縣 (大正十四年十月)

- 一、坐骨神経の經過及び分佈状態
- 一、血液の生理的作用
- 一、筋肉各部の名稱及び其の生理的作用を問ふ
- 一、刺鍼部及び手指の消毒法に就て
- 一、鍼術刺戟の神経に及ぼす影響如何
- 一、消毒薬五種をあげて其稀釋度及び其用法を記せ
- 一、薦骨部點灸の適應症及び其奏效の理由如何

和歌山縣 (大正十四年十一月)

- 一、前膊に於ける屈筋の名稱を列擧せよ
- 一、脈搏の起る理由を問ふ
- 一、承扶、承靈、承漿の解剖的位置及び其禁鍼灸を示せ
- 一、前脛骨筋の起始、停止及び作用
- 一、腎臓の位置及び機能
- 一、坐骨神経を説明せよ
- 一、氣管枝喘息の鍼灸術
- 一、昇汞に就て

山形縣 (大正十四年十月)

- 一、股動脈の起始、經過、枝別を記せよ
- 一、消化液の名稱及び作用を説明せよ
- 一、天柱、曲差、肩外、腹結、水泉の部位を問ふ
- 一、胃加答兒の症候及び鍼治法を示せ
- 一、消毒の目的及び昇汞、酒精、石炭酸の消毒の用途を示せ
- 一、偏頭痛に對する灸治法
- 一、喘息に對する灸治法

愛媛縣 (大正十四年十一月)

(767) 第九編 縣別試驗問題一覽

長野縣 (大正十四年十一月)

- 一、下肢を構成する骨の名稱
- 一、胸鎖乳嚔筋の起始、停止、其作用
- 一、横隔膜の位置及び作用
- 一、動脈とは何ぞ
- 一、常習便秘に對する鍼灸術
- 一、石炭酸に就て

◎同伊那町の分

- 一、腹腔内に在する臓器の名稱

- 一、肘關節の構造及び深在動脈竝に神經を問ふ
- 一、血管の種類及び血液循環に就て
- 一、鍼の感通とは如何及び局部に起る變化を問ふ
- 一、左の經穴に就て知る所を記せ
  - 上關、天鼎、心俞、天府、承筋
- 一、細菌を死滅せしむるには如何なる方法に依るや
- 一、消毒藥の種類及び稀釋度を問ふ
- 一、灸の醫治的效能のある理由

富山縣 (大正十四年十月)

- 一、鎖骨の位置、形狀竝に聯接を問ふ
- 一、睡眠を催す理由如何
- 一、刺鍼により上喉頭神經を刺鍼したる時は如何なる反應ありや
- 一、顔面痛の刺鍼法を記せ
- 一、被術者が腸チフス患者たりし場合は如何なる處置を

なすべきや

大阪府 (大正十五年三月)

- 一、理學的消毒法とは如何
- 一、施灸温度の達せざる深部内臟機能に反應する理由
- 一、灸痕の再生機能を記せ
- 一、皮膚の構造を記せ
- 一、體温發生の理由及び四時同温を保つ理由如何
- 一、九鍼とは何ぞや竝に現今多くは何鍼を使用せるや
- 一、臍を中心として其上下、左右各二穴竝に大谿、肩引の解剖的部位、禁鍼の區別及び同穴の應用を記せ
- 一、灸治に由りて深部臟器の病變を調節し得る理由如何之が二例を示せ
- 一、隱白、至陽、陽池、附分、京門の解剖的部位、竝に禁灸の區別
- 一、最も完全なる理學的消毒二種を擧げ之を説明せよ

一、排泄物に適當なる消毒藥の名稱、稀釋度を問ふ

埼玉縣 (大正十四年十二月)

- 一、運動神經とは如何
- 一、消毒藥の名稱
- 一、蒸氣消毒と瓦斯消毒との差異
- 一、神經を刺戟する時は如何になるや (以上鍼術)
- 一、血液の作用
- 一、頸部の血管、神經の名稱
- 一、燒却法
- 一、筋肉ロイマチスの療法及び五臟、腹結の部位
- 一、胃加答兒に對する灸穴及び刺戟が脊髓の如何なる神經を経て遠心性に移るや (以上灸術)

山梨縣 (大正十四年三月)

- 一、脾臟の位置、形狀、作用

一、上膊諸筋の名稱及び起始、停止を問ふ

一、皮膚の生理的作用

一、顔面神經麻痺の原因、症候、療法

一、左記の穴名の解剖的部位を問ふ

翳風、三焦俞、承扶

一、昇求使用上の注意事項

福岡縣 (大正十五年四月)

- 一、坐骨神經の起始、及び經過を問ふ
- 一、肺臟の位置、形狀及び機能は如何
- 一、風府、氣海、大包の解剖的部位竝に分佈する血管、神經の名稱を記せ
- 一、鍼術の疾病に效ある理由を記せ
- 一、藥品を用ひずして消毒すべき方法を問ふ(以上鍼術)
- 一、顔面神經の起始及び經過を問ふ
- 一、心臓の位置、形狀及び機能は如何

- 一、慢性胃加答兒の症候竝に灸治法を問ふ
- 一、項部竝に腹部に於ける禁穴の部位を記せ
- 一、灸治に應用する消毒の方法を問ふ (以上灸術)

兵 庫 縣 (大正十五年四月)

- 一、上肢の主なる血管、竝に神経の名稱を擧げ且つ其經過の概要を問ふ
- 一、瓦斯交換に就て詳記せよ
- 一、鍼の治療的作用を問ふ
- 一、齒痛に對する鍼治の方法竝に其效果如何
- 一、鍼治に用ゆる消毒藥の種類及び應用 (以上鍼術)
- 一、皮膚の構造及び作用を問ふ
- 一、血液の循環を記せ
- 一、灸の血液に對する影響を問ふ
- 一、脚氣に對する灸治の方法竝に效果如何
- 一、クレゾール液の製法竝に效果如何 (以上灸術)

愛 知 縣 (大正十五年四月)

- 一、上膊に於ける主なる血管、神経の名稱及び位置を問ふ
- 一、反射作用を説明し其類別を擧げよ
- 一、消毒藥として昇汞、石炭酸及びアルコールの使用法を問ふ
- 一、胃痛に對する鍼術の處置法
- 一、脳神経と交感神経とに對する鍼術反應の差異及び其結果を説明せよ (以上鍼術)
- 一、脊柱各部の名稱、形狀を問ふ
- 一、血液循環は如何なる任務ありや
- 一、消毒の目的を問ふ
- 一、神経性心悸亢進に對し天柱、肺俞に點灸して奏效する理由
- 一、脊髄性末梢神経障礙に就て灸治療法の適否を説明す

べし (以上灸術)

北 海 道 (大正十五年四月)

- 一、迷走神経の起始、經過、及び分佈を記せ
- 一、四頭股筋の起始、停止、及び作用を記せ
- 一、腓腸筋痙攣の原因となるべきものを記せ
- 一、左記の二項に就て記せ
  - 充血と鬱血の區別、咯血と吐血の區別
- 一、刺鍼時消毒せず行ふ時の危険を記せ
- 一、蚤、蠅、蚊の蟲類が媒介する主なる傳染病の名稱を記せ (以上鍼術)
- 一、縫匠筋の起始、停止及び作用
- 一、唾液の性状及び作用を記せ
- 一、偏頭痛の原因となるべきものを記せ
- 一、左記の區別を記せ
  - 外出血と内出血の區別、水腫と浮腫の區別

一、消毒藥として昇汞水の調製法及び消毒に適する物件を記せ

一、微毒患者を取扱たる時の豫防上の注意を記せ (以上灸術)

島 根 縣 (大正十五年四月)

- 一、上肢の諸筋の名稱、作用及び上膊に分佈する神経の名稱
- 一、胃の消化作用及び胃に分佈する神経の名稱
- 一、頸部及び顔面の刺鍼に際し特に注意すべき事項
- 一、氣管枝喘息に刺鍼の有效なる理由及び刺鍼點
- 一、消毒の必要なる理由
- 一、二十倍の石炭酸水、五百瓦を作れ
- 一、灸治の血管及び血液に及ぼす作用
- 一、遺尿症に對する刺鍼の目的

鹿 兒 島 縣 (大正十五年四月)

- 一、遠心性神経及び求心性神経の區別に就て説明せよ
- 一、骨盤の位置、形状、男女の差異及び構成する骨の名稱に就て説明せよ
- 一、鍼術に於ける興奮並に鎮靜作用に就き例を擧げて記述せよ

- 一、顔面痛の原因、症候、並に鍼灸法如何
- 一、理學的消毒の方法並に其應用範圍に就て説明せよ
- 一、結晶石炭酸の溶解に注意すべき事項及び三つの石炭酸水は凡そ幾倍に當るや且其稀釋法に就て説明せよ
- 一、支溝、陽池、合谷の解剖的部位、刺鍼灸點

京 都 府 (大正十五年四月)

- 一、背部諸筋の名稱、並に血管神経との關係
- 一、腎臓の位置、形状、機能、構造
- 一、頸部に有る經穴の名稱及び刺鍼法式並に注意
- 一、鍼に依る刺激の強弱は如何なる方法にて行ふや

- 一、妊娠時に於ける腹部、腰部、薦骨部に施灸の可否如何
- 一、百會、腹哀、章門、命門、陽谷、肩貞より禁灸穴を除き其他の穴の部位、解剖的所見、並に醫治的效用を問ふ
- 一、理學的消毒方法の種類及び其異なる點を説明せよ
- 一、主なる消毒藥五種を擧げ其應用及び其溶解法を問ふ

德 島 縣 (大正十五年四月)

- 一、上膊を通過する神経の名稱、分佈部位
- 一、睪臓の位置、形状及び機能
- 一、心音の發生する理由を説明せよ
- 一、施鍼に際し消毒せざる場合に發する疾病の種類及び其症狀
- 一、風池、翳風の部位、並に之に刺鍼する時は如何なる疾病に效ありや

- 一、心臟疾患に對する施灸の可否同理由を記せ
- 一、施灸の皮膚及び血液に及ぼす關係

福 井 縣 (大正十五年四月)

- 一、ミハエル氏菱形窩の解剖に就て知る處を知せ
- 一、股神経と血管、筋肉との關係
- 一、内外呼吸にて知る處を記せ
- 一、鍼の消毒に就て日常實施する方法を明記せよ
- 一、坐骨神経痛の壓痛點を擧げ其穴名及び解剖的位置を記せ
- 一、腹部に鍼を禁ずる理由を問ふ
- 一、遺尿症の原因及び處置を記せ
- 一、手の皮神経の分佈圖を記せ
- 一、胃の機能に就て
- 一、腸の蠕動を亢進せしむる灸治法を問ふ
- 一、胃酸過多症の原因及び症候を記せ

- 一、灸點施術後化膿する事あり其原因及び豫防法を問ふ
- 一、瘰癧門、不容、關元の穴の解剖的位置を記せ

靜 岡 縣 (大正十五年六月)

- 一、交感神経中樞の部位を記せ
- 一、發汗の作用を説明せよ
- 一、肩貞の解剖的部位、及び之れに關する神経、血管を記せ
- 一、胸部に於ける禁穴を記せ (以上鍼術)
- 一、顔面神経の分佈を記せ
- 一、曲垣の解剖的位置並に之に關する血管、神経を記せ
- 一、體温發生を記せ
- 一、灸痕の化膿する理由及び化膿の處置
- 一、脚氣に對する施灸點
- 一、頭部の禁灸點を記せ (以上灸術)

石 川 縣 (大正十五年五月)

- 一、心臟の位置、構造及び作用
- 一、肩胛骨の所在及び筋、神経の名稱
- 一、消毒の種類を明細に説明せよ
- 一、頰會、大椎、上腕、尺澤、内關、陰廉の解剖的部位並に分佈する神経の名稱

滋賀縣 (大正十五年五月)

- 一、胸廓を構成する骨の名稱及び其内にある諸器官の名稱
- 一、胃液の消化作用を問ふ
- 一、交感神経の作用を問ふ
- 一、上肢に分佈する主なる血管、神経の名稱を挙げよ
- 一、腹壁にある筋肉の名稱を問ふ
- 一、坐骨神経痛の症狀及び其鍼灸法を記せ
- 一、慢性便秘の症狀及び鍼灸治法を記せ
- 一、普通使用する消毒薬の名稱及び其稀釋度を問ふ

奈良縣 (大正十五年五月)

- 一、肩胛筋の名稱並に之に分佈する神経は如何
- 一、呼吸の器械的作用を記せ
- 一、交感神経に對する鍼の生理的作用を記せ
- 一、喘息に對する刺鍼の部位、及び其目的を記せ
- 一、鍼術を行ふに際し消毒の必要なる理由を述べよ
- 一、理學的消毒法を詳記せよ (以上鍼術)
- 一、肝臟の位置、形狀並に其機能を記せ
- 一、大腿前側に於ける神経の名稱並に其起始、經過、分佈を述べよ
- 一、灸の温の深達作用に就て知る所を記せ
- 一、中風とは如何なるものなりや之に對する施灸の時期並に其部位を記せ
- 一、千倍昇汞水と三十三倍の石炭酸水との調製法及び消毒上の用途を問ふ

- 一、灸治上消毒の必要なる理由を説明せよ (以上灸術)

熊本縣 (大正十五年四月)

- 一、下肢を形成する骨の名稱
- 一、肝臟の生理的作用
- 一、神道、委中の解剖的部位及び肋間神経分佈區域にある禁鍼灸の穴名を記せ
- 一、氣衝、腹哀は何經に屬するや三角筋中にある穴名をあげよ
- 一、煮沸消毒とは如何
- 一、重なる消毒薬に就て記せ

富山縣 (大正十五年五月)

- 一、膝關節の構造を問ふ
- 一、腸の消化作用に就て記せ
- 一、急慢性の三角筋ロイマチスに對する施鍼を問ふ

三重縣 (大正十五年七月)

- 一、齒痛の種類及び適應症、不適應症を區別し適應症に對する刺鍼の方法を問ふ
- 一、手の消毒を問ふ
- 一、細菌死滅の場合を問ふ
- 一、鬱滯性乳房炎と化膿性乳房炎との鑑別法及び施灸法を問ふ
- 一、末梢神経麻痺とは如何なるものなるか之に對する灸術の方法を問ふ
- 一、心臟の位置及び作用
- 一、知覺神経と運動神経との區別
- 一、神経痛に對し刺鍼の效ある理由及び其方式
- 一、承扶、合谷の部位並に意義及び肩部、頸部に於て刺鍼上特に注意を要する穴名及び其理由
- 一、鍼具と患部の消毒法

- 一、傳染性患者に施鍼後の消毒法 (以上鍼術)
  - 一、胸部臓器の名稱
  - 一、脊髄の位置及び作用
  - 一、大小灸の利害得失を記せ
  - 一、曲池及び小兒斜差の穴の部位及び主治竝に身體中灸を禁すべき部位及び理由
  - 一、理學的消毒法は皮膚の消毒に適するや否や
  - 一、二%石炭酸の溶解法及び使用法 (以上灸術)
- 神奈川縣 (大正十五年五月)
- 一、直腹筋の起始、停止竝に之れに分佈する神經の名稱
  - 一、上肢の主なる淺在靜脈の名稱及び經過を述べよ
  - 一、血行に及ぼす鍼の作用を述べよ
  - 一、胃痙攣の要穴を記せ
  - 一、主なる消毒二種を述べよ
  - 一、鍼器の消毒方法を述べよ (以上鍼術)

- 一、脊柱を説明せよ
  - 一、皮膚の構造及び機能を記せ
  - 一、局部的温熱刺戟の效用
  - 一、身柱、命門、長強の解剖的部位
  - 一、患者の皮膚消毒方法
  - 一、理學的消毒法の種類は如何 (以上灸術)
- 宮崎縣 (大正十五年六月)
- 一、頸部に於ける主なる血管、神經竝に筋の名稱
  - 一、皮膚の構造竝に作用
  - 一、消毒方法の種類及び消毒の名稱
  - 一、腦貧血に對する刺鍼點竝に其穴名を記せ
  - 一、靈墟、神封、神道の解剖的部位竝に禁鍼穴名を記せ
  - 一、肋膜炎に對する灸治點竝に其穴名を記せ
  - 一、期門、日月、人迎の解剖的部位、竝に禁灸穴名を記せ

- 青森縣 (大正十五年九月)
- 一、上肢の血管、神經の名稱
  - 一、肺の位置、形狀、機能
  - 一、齒痛に對する刺鍼法及び其目的
  - 一、鍼の効用に就て記せ
  - 一、消毒藥の種類及び應用 (以上鍼術)
  - 一、皮膚の構造及び機能
  - 一、坐骨神經の徑路を問ふ
  - 一、胃痛に對する灸治法
  - 一、灸の有効なる理由を記せ
  - 一、消毒を行ふ理由を記せ
  - 一、消毒藥の種類を記せ (以上灸術)
- 東京警視廳 (大正十五年九月)
- 一、神經の種類に就て述べよ

- 一、胃の生理的作用に就て述べよ
  - 一、消毒の種類、金屬製品の消毒法
- 栃木縣 (大正十五年十月)
- 一、僧帽筋の所在、形狀、分佈する神經は如何
  - 一、迷走神經の作用
  - 一、關節炎に對する治療上の注意を問ふ
  - 一、坐骨神經痛に對する治療法
  - 一、胃痙攣に對する治療法
  - 一、消毒を行ふ理由及び消毒の順序
  - 一、消毒藥の名稱及び二三の溶解法
- 茨城縣 (大正十五年十月)
- 一、上肢に分佈する神經を述べよ
  - 一、心臟に就て知る處を述べよ
  - 一、石炭酸とは如何なるものなるや及び用途(%)割合

- 一、從來鍼術の衰退せる理由
- 一、現今次第に灸治の發展しつゝある理由
- 一、上眼窩神経痛に對する刺鍼點
- 一、十四經に就て知る丈述べよ

兵庫縣 (大正十五年十月)

- 一、食物の消化、吸収の概要を問ふ
- 一、坐骨神経の徑路に就て記せ
- 一、皮膚刺戟の治療に於ける價值如何
- 一、胃潰瘍、肺炎、盲腸炎、筋肉ロイマチス、偏頭痛に對する鍼の適否を記し其適するもの、理由を記せ
- 一、消毒薬として必要なる條件を問ふ (以上鍼術)
- 一、血液成分及び其作用の概要を記せ
- 一、氣管枝喘息に對する灸治の價值を詳細に記せ
- 一、灸の禁忌症を挙げ其理由を記せ
- 一、日光消毒的價値に就て記せ (以上灸術)

大阪府 (大正十五年十月)

- 一、血液の生理的作用を列記せよ
- 一、腹部内臓の名稱及び其位置
- 一、胃筋弛緩症(胃アトニー)に適應すべき經穴の名稱、部位、並に其刺鍼方如何
- 一、刺鍼に直接、間接及び反射の三刺戟に就き各々其長所を記せ
- 一、經穴とは何ぞ現今醫學上よりの見解を述べよ
- 一、施灸せば組織に如何なる變化を來すや
- 一、蒸氣消毒法に就て記せ
- 一、酒精の消毒力に就て記せ

滋賀縣 (大正十五年十月)

- 一、肺の位置及び作用を問ふ
- 一、上肢を構成する骨の名稱を挙げよ

- 一、坐骨神経の徑路を問ふ
- 一、左の經穴の所在を記せ
- 鳩尾、陰交、石門、肩井、氣舍
- 一、偏頭痛の原因症狀及び其鍼灸治法を問ふ
- 一、胃痙攣の鍼灸治法を述べよ
- 一、鍼治、灸治の禁忌を問ふ
- 一、酒精及び石炭酸の用ひ方を述べよ

福岡縣 (大正十五年十月)

- 一、腹筋の名稱夫れに分佈する神経の名稱
- 一、血液運行に就て記せ
- 一、折鍼したる時の處置
- 一、坐骨神経痛の症候及び鍼治法
- 一、鍼術に消毒の必要なる理由 (以上鍼術)
- 一、肝臓の位置、形狀及び機能
- 一、總頸動脈の起始、經過竝に神経との關係

- 一、灸の壯數、大小は何に由りて定むるや
- 一、常習便秘に於ける灸治法
- 一、灸術に於ける消毒の必要なる理由 (以上鍼術)

大分縣 (大正十五年六月)

- 一、肩胛關節の構成竝に之を通過する血管、神経の分佈
- 一、腎臓の生理的機能を記せ
- 一、消毒薬の種類並に其溶解法を記せ
- 一、腎俞、腎關、三陰交の部位及び適應症
- 一、鍼の筋肉機能に及ぼす作用を説明せよ
- 一、施灸せば皮膚に如何なる變化を來すや

奈良縣 (大正十五年十月)

- 一、迷走神経の起始、經過竝に其機能を記せ
- 一、腹筋の名稱、起始、停止竝に之に分佈する血管を挙げよ



- 一、翳風、郡門、四白、消澤、陽陵泉の位置竝に其部の神經と此の穴を應用する疾病を挙げよ
- 一、鍼の誘導法とは如何且つ反射作用の差異を問ふ
- 一、蒸氣消毒の方法竝に其應用を述べよ
- 一、鍼術家に最も適當なる消毒藥品三種を挙げ其調製方法竝に應用を記せ (以上鍼術)
- 一、腋窩動脈の起始、經過竝に靜脈、神經との關係を述べよ
- 一、睪臓の位置形狀、構造竝に其機能を記せ
- 一、灸術の治療的原理に就て知る處を記せ
- 一、慢性腎臟炎に對し施鍼部位と目的を記せ
- 一、理學的消毒と化學的消毒との利害を述べよ
- 一、生石灰の消毒上の應用を詳記せよ (以上鍼術)

岐 阜 縣 (大正十五年十月)

- 一、腰神經叢の分枝を問ふ

- 一、蒸氣消毒に適せるもの三つを挙げよ
- 一、消化液の種類及び其作用
- 一、鍼治家として常に心得べき要件三つを挙げよ
- 一、腰部に灸する時は如何なる疾患に效ありや
- 一、鎮咳とは如何、此に刺鍼すべき場合及び目的
- 一、灸柱の温度の及ぶ深さを問ふ

島 根 縣 (大正十五年十月)

- 一、迷走神經の起始及び其分佈する内臓の名稱
- 一、腸の消化作用、健康大人の體温、脈搏及び呼吸數
- 一、痙攣に對する鍼の作用
- 一、胸部刺鍼に際し特に留意すべき事項
- 一、蒸氣消毒法、施術部の消毒法
- 一、疼痛に對する灸の作用
- 一、腦出血の灸治點

愛 知 縣 (大正十五年十月)

- 一、股動脈及び膝關動脈の所在、徑路を記せ
- 一、拮抗筋を説明し其數例を挙げよ
- 一、消毒の必要なる理由
- 一、神經痛の刺鍼法(雀啄術)と廻旋術とは何れが最も善く奏效するかを説明せよ
- 一、深肺骨神經の分佈する經穴と其適應症及び奏效する理由を説明せよ (以上鍼術)
- 一、筋とは如何
- 一、延髓の機能
- 一、施灸には消毒の必要ありや
- 一、關元俞の施灸は腸加答兒に奏效するや否や其理由を説明すべし
- 一、天突の適應症及奏效する理由を説明せよ (以上灸術)

靜 岡 縣 (大正十五年十月)

- 一、消化器の名稱及び位置を記せ

- 一、腎臓の生理的作用を記せ
- 一、麻痺に對し鍼治の有效なる理由を問ふ
- 一、腦貧血に對する鍼治法
- 一、鍼治の禁忌症
- 一、消毒藥の種類及び消毒方法
- 一、灸術の適應症及び禁忌症を記せ
- 一、痙攣に對する灸治の效用を記せ
- 一、消化不良に對する施灸點
- 一、施灸後の注意

和 歌 山 縣 (大正十五年十一月)

- 一、大腿に分佈する神經の名稱を問ふ
- 一、横紋筋と滑平筋との生理上の差異如何
- 一、青靈、扶突、陰陵泉、強間の解剖的位置及び其禁鍼灸を示せ
- 一、夜驚症の鍼療法を問ふ

- 一、遺尿症の灸療法を問ふ
- 一、神経性嘔吐の症候及び鍼灸療法を問ふ
- 一、鍼術施術時に於ける消毒の順序及び三%の石炭酸水一リットルを製する方法を問ふ
- 一、施灸部の化膿する理由及び三%の石炭酸を一リットル製する方法を問ふ

鹿兒島縣 (大正十五年十月)

- 一、骨の主要成分に就て説明せよ
- 一、大小循環の區別及び健康大人の常態(安靜時)に於ける脈搏數、體温、呼吸數に就て述べよ
- 一、消毒の必要なる理由
- 一、酒精と、石炭酸水とは消毒上幾何の優劣ありや
- 一、手の太陰肺經に於ける禁鍼灸の穴名を擧げて之が血管、神經との關係を記せ
- 一、盲腸炎の原因、症候竝に鍼灸療法如何

京都府 (大正十五年十月)

- 一、骨盤の構造及び肝臟の機能
- 一、正中神經と筋肉及び脈管との關係
- 一、大杼、風門、肺俞の部位、竝に此の穴を應用する主なる疾病を擧げ其奏效する理由を説明せよ
- 一、胃痛に對する刺鍼の部位竝に各部刺鍼法式及び目的を記せ

長野縣 (大正十五年十一月)

- 一、肩胛骨の位置、形狀及び聯接
- 一、泌尿器の名稱
- 一、肺動脈の起始、經過
- 一、胃の消化作用を問ふ
- 一、慢性胃加答兒の鍼灸治法
- 一、理學的消毒法を説明せよ

- 一、理學的消毒法二種を擧げ其施行方法の異なる點を説明せよ
- 一、消毒藥品を列記し其各々に就て用途を詳記せよ

長崎縣 (大正十五年十一月)

- 一、下肢に於ける骨及び血管の名稱竝に位置を記せ
- 一、消化液の名稱竝に所在を記せ
- 一、乘風、横竹、飛陽の位置、筋、血管、神經の關係
- 一、坐骨神經の鍼治療法を記せ
- 一、鍼術に必要な消毒法を記せ
- 一、化膿とは如何なるものなりや竝に原因を記せ (以上鍼術)
- 一、股動脈經過竝に靜脈との關係を記せ
- 一、頸部の血管、神經の名稱及び位置を記せ
- 一、復溜、歸來、委陽の位置、筋、血管、神經の關係
- 一、後股皮下神經の分佈區域に位する穴名を記せ

東京府 (昭和二年三月)

- 一、手指の消毒に用ゆる藥品名、稀釋法
- 一、灸術に消毒の必要とする理由を説明せよ (以上鍼術)

一、胸神經の名稱

- 一、腎臟の生理的作用
- 一、消毒用石炭酸水の溶解法を記せ
- 一、左記物品に適應する消毒方法の名稱二種類を記せ  
衣類、食器、鍼具、書籍、唾痰 (以上鍼術)

一、胃の位置及び構造

- 一、動脈血と靜脈血との差異
- 一、蒸氣消毒に適應する物品の名稱を列記せよ
- 一、消毒用藥品の名稱及び其稀釋度を列記せよ (以上鍼術)

東京府 (大正十二年十二月)

- 一、胸廓を構成する骨及び筋の名稱

- 一、腎臓の機能は如何
- 一、煮沸消毒とは何か及び昇末水、石炭酸水の稀釋度其應用、適、不適物、鍼具の消毒

- 一、血液の成分
- 一、血液循環の原因及び血液循環の狀況
- 一、燒却消毒とは何か及び石炭酸水の稀釋度其應用、皮膚の消毒法、施灸時の消毒法

兵 庫 縣 (昭和二年四月)

- 一、皮膚の構造竝に作用を問ふ
- 一、消毒液の種類及び其作用
- 一、失鍼に對する處置如何
- 一、強刺激及び弱刺激の鍼治上の價値如何
- 一、呼吸の目的及び種類をあげて説明せよ (以上鍼術)
- 一、坐骨神經の起始、經過、竝に分佈如何
- 一、血液循環に就て知る處を記せ

- 一、灸の醫治應用如何
- 一、施灸に對する注意事項如何
- 一、脊髓の中樞機能に就て記せ (以上灸術)

京 都 府 (昭和二年四月)

- 一、下肢に於ける神經及び血管の關係を問ふ
- 一、交感神經に對する鍼の作用
- 一、月經困難に應用する主要なる經穴と其應用する理由を説明せよ
- 一、消毒藥四種を挙げ其稀釋度及び稀釋法を説明せよ
- 一、手指消毒の目的及び消毒順序を述べよ (以上鍼術)
- 一、下肢に於ける神經と血管との關係を問ふ
- 一、頭蓋の縫合に就て述べよ
- 一、灸治の免疫體に及ぼす影響を記し其理由を説明せよ
- 一、大白、兪府、三焦俞の應用せらるる場合竝に其有效なる理由を説明せよ (以上鍼術)

大 阪 府 (昭和二年四月)

- 一、腸管の名稱を上部より順位に記せ
- 一、皮膚の生理的作用
- 一、頸部に於ける刺鍼の作用竝に其應用を記せ
- 一、血行に及ぼす鍼の作用及び其手技方法を記せ
- 一、灸治の種類を挙げ且つ其臨牀上の撰擇を述べよ
- 一、天柱、殷門、天宗、人迎、腹哀の解剖學的部位竝に禁穴の區別を記せ

高 知 縣 (昭和三年五月)

- 一、燒却消毒とは如何且つ其適否を述べよ
- 一、昇末水の稀釋度竝に之が使用上の利害を述べよ
- 一、骨盤を構成する骨の名稱及び連接
- 一、肺臓の位置、形狀及び其作用を略記せよ
- 一、鍼術の手技及び其種類

- 一、黃疸の原因、症候及び鍼治法
- 一、消毒とは如何なるものなるか竝に消毒と殺菌との區別
- 一、昇末水の消毒上の特徴及び缺點
- 一、灸治の適應症及び不適應症
- 一、脚氣の症候及び灸治法

福 岡 縣 (昭和二年五月)

- 一、腰部に於ける筋の名稱及び之に分佈する神經の名稱
- 一、横隔膜の位置、形狀及び機能
- 一、胃瘧瘰の症狀及び鍼治法
- 一、副神經麻痺の症狀及び鍼治法
- 一、熱を用ひて消毒を行ふ方法を説明せよ (以上鍼術)
- 一、肺臓の位置、形狀及び機能
- 一、咀嚼筋の名稱及び之に分佈する神經の名稱
- 一、遺尿症の灸治法

- 一、脚氣の症狀及び灸治法
- 一、化膿は如何なる場合に起るや (以上灸術)

徳島縣 (昭和二年四月)

- 一、頸部に於ける迷走神経の経過を問ふ
- 一、含水炭素の消化に就て記せ
- 一、鍼術家としての必要なる藥品の名稱並に使用方法
- 一、鍼術により頸筋ロイマチスの治療法
- 一、遺尿症の施灸法と其效を奏する理由
- 一、施灸部の化膿する理由

鹿兒島縣 (昭和二年五月)

- 一、肝臓の位置、形状及び如何にして之を觸知し得るや  
説明せよ
- 一、心尖搏動の位置並に赤血球及び白血球の作用に就き  
説明せよ

- 一、理學的消毒法とは如何なるものなりや

- 一、手指の消毒に就て説明せよ

- 一、經穴とは何ぞ近世醫學上よりの見解を述べよ

- 一、頸部に於て刺鍼上特に注意を要する穴名を挙げよ

- 一、神経痛に對する刺鍼の效ある理由及び其方式

- 一、施灸せば血液成分に如何なる變化を來すや

- 一、灸を禁すべき場合を問ふ

奈良縣 (昭和二年五月)

- 一、腰神経叢の位置並に之れより發する神経の名稱及び  
其分佈を記せ
- 一、喉頭の位置、構造並に其作用を記せ
- 一、指に存する經穴名と其部位を記せ
- 一、神経性心悸亢進に對する刺鍼點と刺鍼の奏效する理  
由を記せ
- 一、鍼術者に消毒の必要なる理由を述べよ

- 一、理學的消毒法を擧げ且つ各消毒法の長所、短所を記  
せ (以上鍼術)

- 一、甲狀項軸(幹)より發する血管の名稱並に其分佈を記  
せ

- 一、皮膚の構造並に其の生理的作用

- 一、灸の血液に及ぼす作用を記せ

- 一、六つ灸の部位と之れに應用する疾病に就て知る所を  
記せ

- 一、施灸に際し消毒の必要なる理由を述べよ

- 一、法定石炭酸水、昇汞水の調製法並に其應用を記せ

千葉縣 (昭和二年五月)

- 一、胃の生理的作用
- 一、施鍼法並に折鍼したる場合又は抜けざる場合の處置  
法を問ふ
- 一、下肢に分佈する主要なる血管及び神経の名稱並に經

過

- 一、衝門、清冷淵、陽陵泉の部位を問ふ

- 一、消毒の目的

- 一、鍼術に施す場合の消毒の順序を問ふ

- 一、灸の生理的作用並に其種類を挙げよ

- 一、背部の正中線に位する穴名を問ふ

- 一、灸を施す場合の消毒法の順序を問ふ

福井縣 (昭和二年五月)

- 一、脾液の生理を述べよ

- 一、左記の事項を明記せよ

- (イ) 心臓の位置。(ロ) ミハエルス氏菱形窩

- 一、左記物件の消毒方法を記せ

- (イ) 喀痰。(ロ) 鍼管。(ハ) 書籍

- 一、不適なる鍼術より起る疾病を挙げよ

- 一、膈筋、箕門、丘墟の解剖的位置を述べよ

- 一、顔面神経麻痺の處置を記せ (以上鍼術)
- 一、灸の温度の深達程度を述べよ
- 一、胃擴張の症狀及び處置を記せ
- 一、梁門、内庭、天容の解剖的位置を記せ
- 一、蒸氣消毒に適當する物品の名稱を記せ
- 一、迷走神経の作用を記せ
- 一、下腿部の皮下神経の分佈を述べよ (以上灸術)

滋賀縣 (昭和二年五月)

- 一、胸廓を構成する骨の名稱
- 一、肺臟の位置及び其作用
- 一、前脛骨動脈の經過を記せ
- 一、坐骨神経の徑路を問ふ
- 一、坐骨神経痛の鍼灸治法
- 一、耳の前後にある穴名
- 一、偏頭痛の症候、鍼灸治法を問ふ

一、石炭酸の用途を問ふ

北海道 (昭和二年四月)

- 一、消化作用に就て記せ
  - 一、血液の成分に就て記せ
  - 一、上肢を支配する脊髄神経中樞の高さを挙げよ
  - 一、腰部の刺鍼を挙げよ
  - 一、脚氣の主要症候及び其の鍼療法を問ふ
  - 一、施鍼時の消毒法を問ふ
  - 一、皮膚の構造及び官能に就て記せ (以上鍼術)
  - 一、火傷の種類及び症狀を述べよ
  - 一、灸治の作用に就て
  - 一、灸の禁忌症及び禁忌部位を挙げよ
  - 一、消毒薬五種を挙げ其使用方法を記せ
  - 一、左の病原體の浸入門戸を記せ
- 腸チフス、結核、梅毒、ペスト、丹毒 (以上灸術)

- 一、上膊諸筋の名稱竝に起始、附着點及び作用を記せ
- 一、腎臟の位置、及び生理的作用を記せ
- 一、胃加答兒の症狀及び鍼灸術を記せ
- 一、坐骨神経痛に對する鍼灸術を記せ
- 一、消毒薬の名稱及び其用法を記せ

秋田縣 (昭和二年四月)

- 一、三叉神経の分佈に就て記せよ
- 一、泌尿器の名稱竝に尿分泌の機能を挙げよ
- 一、消毒薬五種以上を挙げて其用法を記せ
- 一、膀胱麻痺に對する刺鍼點の部位、穴名を挙げよ
- 一、臍中、靈臺、陽關、承扶の解剖的位置竝に禁鍼、要穴の區別
- 一、解谿、三陽絡の解剖的部位を挙げよ

宮崎縣 (昭和二年五月)

- 一、慢性胃加答兒に於ける施灸部位の穴名を挙げよ
- 一、心兪、秩邊、人迎、會陽の解剖的部位竝に禁鍼、要穴の區別

青森縣 (昭和二年九月)

- 一、大腿に於ける血管、神経及び其名稱を記せ
- 一、胃の機能を記せ
- 一、顔面神経に對する刺鍼點竝に目的を記せ
- 一、鍼治の有効なる理由を記せ
- 一、患部の消毒法を記せ
- 一、消毒の目的竝に消毒薬の種類を記せ (以上鍼術)
- 一、尺骨神経の徑路を記せ
- 一、皮膚の作用を記せ
- 一、胃擴張に對する灸治法を記せ
- 一、灸治を施す場合の心得事項を記せ
- 一、手指を消毒する目的如何

一、消毒薬の種類を記せ (以上灸術)

三 重 縣 (昭和二年六月)

一、關節とは如何

一、肺の作用を記せ

一、胸部、腹部に於ける禁鍼灸穴を記し鍼の注意を記せ

一、管鍼法と捻鍼との利害得失如何

一、鍼の消毒の必要なる理由

一、手指消毒法如何 (以上鍼術)

一、皮膚中に存在する必要なる器官

一、腹部内臓の名稱

一、灸が血液生理に及ぼす影響如何

一、古来より禁灸穴中著名なる穴五穴を挙げ其禁すべき理由を記せ

一、如何なる場合に消毒を行ふや

一、消毒薬の種類及び用法 (以上灸術)

栃 木 縣 (昭和二年五月)

一、尺骨の位置を記せ

一、三叉神経の起始及び分佈部位を記せ

一、皮膚の生理的作用を記せ

一、施術前消毒の必要なる理由を記せ

一、消毒薬品の名稱及び二、三の調製法を記せ

警 視 廳 (昭和二年九月)

一、皮膚の構造を記せ

一、消化液の種類及び名稱を記せ

一、施術局部の消毒の方法を記せ

一、唾痰の消毒の方法を記せ

奈 良 縣 (昭和二年十月)

一、顔面神経の起始、經過竝に其分佈を記せ

一、肝臓の位置、形状及び作用を記せ

一、刺鍼は如何なる部に禁すべきや且其理由を記せ

一、胃弛緩症に對する施術の部位、穴名竝に奏效する理由を説明せよ

一、鍼術業者に消毒の必要なる理由を明記せよ

一、理學的消毒各種の利害を述べよ (以上鍼術)

一、足部に於ける動脈の名稱經過分佈を記せ

一、前膊前側筋の名稱、起始、停止、竝に同側を通過する神経を記せ

一、灸の血液に及ぼす作用を記せ

一、肺俞、巨骨、中髎、公孫の部位竝に應用疾病を記せ

一、灸術業者に消毒の必要なる理由を説明せよ

一、法定昇汞水、石炭酸水の調製方法竝に之れが應用上の利害を記せ (以上灸術)

岐 阜 縣 (昭和二年十月)

一、理學的消毒と化學的消毒の異なる點を挙げよ

一、心臓、胃、子宮に分佈する神経の名稱及び起始を問ふ

一、鍼の反射作用とは如何、適例二三を挙げ且つ頸部孔穴名及び部位を列記せよ

一、捻、管、打法の優劣竝に鍼の細大、長短の異なる理由 (以上鍼術)

一、理學的消毒と化學的消毒の異なる點

一、三叉神経の作用及び各枝通過する裂孔の名稱

一、急性ロイマチスに對する灸術及び其目的

一、各種灸炷に發する温度及び肩胛部にある經穴の名稱竝に部位を問ふ (以上灸術)

大 阪 府 (昭和二年十月)

一、心臓の位置及び各部の名稱を詳記せよ

一、血液の生理的作用を問ふ

- 一、鍼術とは如何其應用上特異なる點を記せ
- 一、禁鍼穴中主要なる五穴を擧げ其部位竝に理由を記せ
- 一、艾とは何ぞや竝に治療上の撰擇を記せ
- 一、承靈、條口、大敦、臍會、腰俞の解剖的部位竝に禁灸の區別を記せ
- 一、理學的消毒方法とは如何
- 一、石炭酸は如何なる目的に如何にして使用するや

佐賀縣 (昭和二年十月)

- 一、胃の位置、形狀、構造
- 一、鍼の效用如何
- 一、灸治の效用如何
- 一、皮膚の生理的作用如何
- 一、膀胱加答兒の原因、症候、鍼治法如何
- 一、神經性腸痛の原因、症候及び灸治法
- 一、消毒藥の種類及び性状如何

滋賀縣 (昭和二年十月)

- 一、骨盤を構成する骨の名稱を問ふ
- 一、咀嚼筋の名稱及び之に分佈する神經の名稱を問ふ
- 一、尺骨動脈の起始及び其分佈を述べよ
- 一、三角筋の起始、停止を問ふ
- 一、坐骨神經痛の原因、症狀、及び鍼灸治法を記せ
- 一、常習頭痛の原因、症狀及び鍼灸治法を記せ
- 一、背部に於ける禁灸穴を問ふ
- 一、胸部、腹部に於ける禁灸穴を問ふ
- 一、リゾールの性状及び溶解法、用途を問ふ

島根縣 (昭和二年十月)

- 一、坐骨神經の起始、經過、枝別
- 一、尿の性状、成分及び其排泄路
- 一、有熱時に於ける刺鍼の可否、可とせば其刺法

- 一、頸部及び胸部の禁忌點
- 一、熱による消毒法を列擧し各其方法を簡單に説明せよ
- 一、左記の消毒藥の製法
  - 五%石炭酸水、五十倍クレゾール水三百グラム
- 一、有熱時に於ける施灸の可否、可とせば其施灸法
- 一、施灸禁忌の部位

長野縣 (昭和二年十月)

- 一、鎖骨の位置、形狀、聯接
- 一、膀胱に就て記せよ
- 一、飲用したる水分は何れの部を通じて體外に排泄せらるゝや
- 一、腦神經は何對ありや其名稱を擧げよ
- 一、臍より恥骨軟骨接合に至る經穴の名稱及び間隔を問ふ
- 一、クレゾール石鹼水に就て記せ

兵庫縣 (昭和二年十月)

- 一、脊髄神經の名稱竝に其分佈如何
- 一、發汗の生理及び汗の成分を記せ
- 一、胃擦摩に對する治療方法如何
- 一、施鍼中突然患者卒倒せり如何なる處置をとるや
- 一、淋巴及び淋巴腺に就て詳記せよ (以上鍼術)
- 一、血液循環に就て知る所を記せ
- 一、大後頭孔を通過するものゝ名稱
- 一、灸を禁すべき部位を問ふ
- 一、三角筋ロイマチスの施灸法
- 一、尿の分泌竝に排泄を記せ (以上灸術)

臺南 (昭和二年四月)

- 一、腦髓、脊髄と末梢神經とは何なるや
- 一、上肢筋の名稱を記せ

- 一、消化管の作用
- 一、血液循環の理を記せ
- 一、消毒法、消毒の種類、目的並に化學的消毒とは如何
- 一、糞便、手指、衣類、鍼、「ナイフ」、喀痰、以上に對し最も適當なる消毒法を記せ

○

茨城縣 (昭和二年十月)

- 一、打撲より來る腰痛に鍼灸の可否
- 一、治療に際し消毒の順序方式
- 一、腎臓の位置、形狀、生理的作用、マルピキー氏小體に就て
- 一、鍼灸に消毒の必要なる理由
- 一、二%百瓦の石炭酸の中に石炭酸何程含有するや

熊本縣 (昭和二年十月)

- 一、肩胛筋の名稱及び之に分佈する神經

- 一、呼吸作用とは如何なる事をいふや及び呼吸器に屬する器管の名稱
- 一、督脈經に於ける禁鍼灸の穴名及び盲腸炎の症狀及び鍼灸點を示せ
- 一、膝關節部に於ける經穴名
- 一、理學的消毒法とは如何なるものなりや
- 一、消毒藥の種類及び用法

徳島縣 (昭和二年十月)

- 一、股神經の分佈狀態
- 一、生殖器の名稱及び位置
- 一、凝血現象を説明せよ
- 一、鍼の血液循環に及ぼす作用如何
- 一、鍼術の理想的消毒法は如何
- 一、灸の筋肉に對する作用如何
- 一、灸痕化膿の理由並に其狀態如何

京都府 (昭和二年十月)

- 一、プーバルト氏靱帯とは如何並に其下を通る主なる血管、神經に就て記せ
- 一、消化作用とは如何なる事か
- 一、前膊及び腕關節前面の經穴の名稱及び部位を記せ
- 一、腸疝痛に對する刺鍼點及び各其奏效する理由如何
- 一、内臟疾患の場合に起る皮膚知覺異常と灸治との關係を記し其奏效する理由を説明せよ
- 一、腰椎各側に於ける穴名、部位、並に其應用する場合
- 一、消毒法の意義を問ふ
- 一、煮沸消毒法及び其應用に就て記せ

神奈川縣 (昭和二年十一月)

- 一、上肢淺靜脈に就て記せ
- 一、腎臓及び副腎の位置並に機能を述べよ

- 一、拔鍼後、赤點を生ずる理由及び消失せしむる方法如何

長崎縣 (昭和二年十月)

- 一、後頭部に於ける經穴の解剖的部位を問ふ
- 一、鍼術に要する器具の消毒方法
- 一、術者の手指の消毒方法 (以上鍼術)
- 一、頭蓋骨、顔面骨の名稱及び數を記せ
- 一、心臓の位置及び構造
- 一、灸的刺戟と神經作用との關係
- 一、捻骨神經麻痺治療に必要な灸穴を記せ
- 一、理學的消毒とは如何
- 一、昇汞及び石炭酸の取扱上の注意を述べよ (以上灸術)
- 一、股動脈の部位及び枝別に就て記せ
- 一、迷走神經の機能に就て記せ
- 一、臍會、人迎、公孫の位置、其部の解剖的關係を記せ



- 一、偏頭痛に對する鍼治法を記せ
- 一、化學的消毒法に就て記せ
- 一、鍼の消毒法に就て記せ

和歌山縣 (昭和二年十月)

- 一、肩胛部に於ける筋肉、血管、神經の關係を記せ
- 一、神經の傳達機能及び反射運動を説明せよ
- 一、晴明、曲澤、承筋の解剖的部位及び其禁鍼を示せ
- 一、小兒急癇の原因、症候及び療法を問ふ

- 一、理學的消毒法と化學的消毒法の區別及び左記物品の消毒法を問ふ

被服、ゴム管、鍼、爪洗刷毛、手術部

- 一、石炭酸水は何倍のものを用ふるや其調製法を問ふ
- 一、承光、長強、隱白の解剖的位置及び其禁鍼を記せ
- 一、月經困難症の原因、症候及び療法を問ふ

廣島縣 (昭和二年十月)

- 一、胸鎖乳嚔筋の起始停止及び神經との關係

- 一、(イ)尿の主なる成分(ユ)心臟制止神經

- 一、氣管枝喘息に對する鍼治法

- 一、翳風、承滿、肩外、殷門、乳根の解剖的部位並に内に存在する器管の名稱

- 一、腦充血の灸治法

- 一、會陽、合陽、環跳、勞宮、水分の解剖的部位

山口縣 (昭和二年十一月)

- 一、腦神經の名稱並に分佈を記せ

- 一、胸腔内臓器の名稱並に分佈を記せ

- 一、顔面神經麻痺の症候及び治療術式を記せ

- 一、興奮法の手技目的、生理的變化及び治療の例を示せ

- 一、消毒の目的及び各種消毒法を記せ

- 一、灸の血液成分に及ぼす影響及び蛋白質療法とは如何

- 一、消毒の目的及び各種消毒法を記せ

山を説明せよ

- 一、折鍼の處置如何

- 一、有、無癩痕灸の優劣を述べよ

- 一、副神經麻痺の症候並に灸治法を記せ

臺北 (昭和二年十一月)

- 一、下肢に分佈する血管、神經の名稱を記せ

- 一、腰部に於ける脊髓の中樞とは如何

- 一、鍼灸術に關する注意を記せ

- 一、大椎の位置及び血管、神經の名稱を記せ

- 一、石門と三陽絡の位置を舉げよ

- 一、翳風の位置と深部の血管、神經の名稱を記せ

- 一、神經性消化不良の原因、症候と刺鍼點を舉げよ

- 一、肋間神經痛の原因、症候と刺鍼點を舉げ採穴せしむ

- 一、灸の種類、艾の製造法並に灸の傳來せし時期を記せ

- 一、管鍼の先祖と其人の傳記を記せ

- 一、頭部を循る知覺神經の名稱及び起始、經過を問ふ
- 一、消化液の名稱及び腸の機能を問ふ
- 一、鍼の人體に及ぼす作用
- 一、尺澤、委中、靈臺、懸顛、幽門の部位並に解剖的關係及び禁鍼灸の區別を記せ
- 一、灸の血管、神經に及ぼす影響

鹿兒島縣 (昭和二年十一月)

- 一、頸、項部に就き解剖的説明を與へよ

- 一、皮膚の生理的作用に就て説明せよ

- 一、アルコール及び石炭酸水に就き消毒上の價值並に使用上注意すべき事項に就て説明せよ

- 一、臍の上下左右に存する穴名並に解剖的所見を述べよ

- 一、神經性消化困難に應用する主要なる穴名と各々其理

一、消毒の方法と消毒薬の名稱を挙げよ

山 梨 縣 (昭和三年三月)

- 一、傳染病患者に接したる時の注意を記せ
- 一、腎臓の位置、形狀、作用
- 一、胸廓を構成する筋の名稱
- 一、天柱、人迎、腎兪、會陰の解剖的部位
- 一、肋間神経痛の症候、療法
- 一、消毒の理由並に鍼灸術に於ける消毒の方法

東 京 府 (昭和三年三月)

- 一、上膊骨の名稱を挙げよ (第一日目)
- 一、呼吸に就て記せ
- 一、消毒の必要なる理由
- 一、酒精にて消毒する方法 (第二日目)
- 一、上膊の筋及び主なる動脈の名稱

一、消化作用を述べよ

一、施術局所の消毒に使用する薬液の名稱及び濃度

一、熱を用ひて行ふ消毒方法

一、知覺神経及び運動神経の病的變化に對する鍼の作用

一、通谷、商曲の部位

一、心臟の位置、形狀各部の名稱 (第三日目)

一、尿に就いて記せ

一、消毒の目的を達するに必要な條件

一、消毒用昇汞水使用上の注意

一、神経痛とロイマチスとの鑑別及び施灸法

一、マラリヤとは何ぞ灸治の可否及び灸治法

一、肩髃、支溝の部位

兵 庫 縣 (昭和三年四月)

- 一、瓦斯交換に就て記せ
- 一、中樞麻痺と末梢麻痺との鑑別

一、澁鍼を來す理由其際拔鍼の方法如何

一、次の諸疾患に對する鍼術治療の適否並に其理由如何

(イ)便秘、(ロ)腦膜炎、(ハ)ロイマチス、(ニ)脊髄

癆、(ホ)ヒステリー

一、煮沸消毒方法に就て記せ (以上鍼術)

一、皮膚の構造並に作用

一、神経の種類及び作用

一、皮下靜脈上に施灸すれば如何なる影響を來すべきか

一、穴とは何ぞや

一、石炭酸水の製法と其用途を問ふ (以上灸術)

大 阪 府 (昭和三年四月)

- 一、顔面神経の徑路を詳記せよ
- 一、血液の生理的作用を列記し之を簡単に説明せよ
- 一、鍼治療に伴ふ危害は如何なる場合に來るや且つ之が豫防に關する注意を詳記せよ

一、神道、大谿、巨膠、筋縮、陽池の部位と禁鍼穴の區別を挙げ且つ巨膠、筋縮の主治を記せ

一、施灸の皮膚、血管及び神經に及ぼす變化を問ふ

一、通谷、陽綱、漏谷、天膠、巨關の解剖學的部位並に禁灸の區別を挙げ且つ天膠、巨關の應用を記せ

一、消毒薬としてのアルコールを説明せよ

京 都 府 (昭和三年四月)

一、胃の位置、形狀、構造並に機能を記せ

一、撓骨神経の經過に就き筋肉、脈管との關係を記せ

一、理學的消毒法の種類並に各消毒の際注意すべき點を記せ

一、左の事項を説明せよ

(イ)消毒液を作る上に於ける倍及びび% (プロセント)

の意義

(ロ)昇汞水の消毒作用に於ける利害得失

- 一、氣管枝喘息に對する經穴及び各其應用の理由を問ふ
- 一、神經痛に對する刺鍼法竝に坐骨神經痛に應用する經穴の名稱及び部位を問ふ
- 一、高熱患者に對する施灸の可否の症例を擧げ其理由を説明せよ
- 一、附分、屋翳、膈俞、志室、三陰交の部位解剖的所見竝に應用せらるゝ場合を記せ

茨城縣 (昭和三年五月)

- 一、頸部を構成する骨及び筋肉、脈管
- 一、消毒の順序及び要式、使用藥品
- 一、半身不隨に對する刺鍼點の部位を一々解剖的に説明せよ
- 一、慢性氣管枝加答兒の灸治點

鹿兒島縣 (昭和三年四月)

を問ふ

- 一、肋間神經痛の原因、症候及び之が鍼灸治法を記せ
- 一、腦溢血の原因、症候及び其半身不隨に對する鍼灸治法を問ふ
- 一、昇汞の性状及び消毒用昇汞水の調製法を問ふ

島根縣 (昭和三年四月)

- 一、顔面神經の起始及び經過
- 一、皮膚の作用
- 一、胃の諸症中鍼治の禁忌症及び禁忌の理由
- 一、率丸炎の刺鍼點及び其有效なる理由
- 一、消毒藥としての昇汞水
- 一、左記の消毒藥の製法
- 一、2%クレゾール水五百瓦、二十倍石炭酸水八百瓦
- 一、煮沸消毒法
- 一、尿道加答兒の灸治點

- 一、心臟瓣膜の位置、名稱及び機能に就て説明せよ
- 一、體温發生の根源及び其調節作用に就て説明せよ
- 一、理學的消毒とは如何(注意其他一切記すべからず)
- 一、胸椎各側に於ける穴名、部位竝に解剖的所見を述べよ
- 一、肋間神經痛に對する刺鍼點及び刺鍼上の注意
- 一、前頸部刺鍼上特に注意を要する理由を述べよ
- 一、灸の神經系統に及ぼす影響
- 一、盲腸炎の原因、症候竝に點灸の利害を述べよ

滋賀縣 (昭和三年五月)

- 一、上肢に關する三つの大なる關節の名稱及び之等を構成する骨の名稱を記せ
- 一、胃の位置、形狀、作用及び之に分佈する神經、血管を問ふ
- 一、二頭股筋の起始、停止竝に之に分佈する神經と動脈

一、脚氣八處の穴名

熊本縣 (昭和三年五月)

- 一、頭蓋骨に就て知るところを示せ
- 一、消化とは如何なる作用なるや消化器に屬する器官の名稱を示せ
- 一、側胸部の穴名及び氣衝の解剖的部位其血管、神經との關係
- 一、便秘に對する鍼灸の處置
- 一、手指の消毒法

徳島縣 (昭和三年四月)

- 一、肝臟の位置及び構造を記せ、且つ其機能を述べよ
- 一、上肢神經の名稱及び其徑路を述べよ
- 一、肋間神經痛の原因、症候竝に其鍼灸法
- 一、アルコール(酒精)、石炭酸、リゾール、昇汞、以上

の消毒薬の使用法

- 一、慢性關節ロイマチスの原因、症候及び其灸治法を述べよ
- 一、無癩痕灸と有癩痕灸の方法及び其各優劣を記せよ

高 知 縣 (昭和三年四月)

- 一、皮膚の構造並に生理的作用を記せ
- 一、體温調節に就て述べよ
- 一、炎症とは何ぞ施術の可否及び其二三の例を示せ
- 一、膀胱麻痺の原因、症候及び鍼治法を示せ
- 一、純アルコールよりも稀アルコールが奏效確實なる理由如何
- 一、鍼術消毒の必要なる理由を説明せよ
- 一、化膿は如何なる場合に起るや
- 一、風池、陽關、孔最の解剖的位置並に適應症を記せ

山 口 縣 (昭和三年五月)

- 別せよ
- 一、施灸に就て記せ
- 一、白環俞、肩貞、會陽の解剖的部位を記し禁穴、要穴を區別せよ

秋 田 縣 (昭和三年五月)

- 一、頭蓋を構成する骨の名稱
- 一、肝臓の位置、構造及び機能
- 一、脚氣の症候及び之に對する鍼灸術を記せ
- 一、坐骨神経痛の症候及び鍼灸術を記せ
- 一、消毒薬の名稱及び其應用

奈 良 縣 (昭和三年五月)

- 一、頭神經叢の位置並に之より發する神経の名及び其共分佈を記せ
- 一、横隔膜に就て詳記せよ

- 一、正中神経の經過及び作用を問ふ

- 一、肝臓の位置、形状及び作用を問ふ
- 一、ヘッド氏帯と經穴との關係を記せ

- 一、主なる消毒薬の種類及び調製法を記せ (以上鍼灸共通)

- 一、顔面神経麻痺の各性質を記し刺鍼點及び手技を記せ
- 一、偏頭痛の各性質を記し灸治點及び術式を問ふ

宮 崎 縣 (昭和三年六月)

- 一、下肢の主なる神経、血管の名稱及び下腿に於ける筋名を挙げよ
- 一、皮膚の構造及び其生理的作用に就て記せ
- 一、消毒の目的を達するに必要な條件を挙げよ (以上共通)
- 一、肋間神経痛の症候及び之に對する鍼治法並に刺鍼點穴名を記せ
- 一、承筋、心俞、天突の解剖的部位を記し禁穴要穴を區別せよ

- 一、人迎、天府、神門、解谿、大迎の部位並に其部に存する血管、神経の名稱を記せ

- 一、腹部刺鍼上注意すべき事項を記せ

- 一、手指の消毒方法を述べよ

- 一、鍼術業者に適當なる消毒藥品三種を挙げ其性状と調製方法並に應用を記せ (以上鍼術)

- 一、坐骨神経の起始、經過、分岐並に其分佈を記せ

- 一、前膊動脈の經過並に筋肉との關係を記せ

- 一、灸の赤血球、白血球に及ぼす影響に就て知るところを記せ

- 一、子宮内膜炎の灸治點を挙げ各其奏效する理由を記せ

- 一、各種の理學的消毒方法に就て注意すべき點を挙げよ

- 一、灸術業者として消毒智識を要する理由を述べよ (以上灸術)

香 川 縣 (昭和三年五月)

- 一、頭蓋骨の名稱個數及び神經の名稱を問ふ
  - 一、横隔膜の位置、形狀及び其作用を問ふ
  - 一、(イ)消毒の意義を問ふ (ロ)業務上必要なる消毒薬の名稱及び其用法を問ふ
  - 一、腋窩を通過する神経、血管、筋及び其筋との關係を問ふ
  - 一、(イ)肘關節及び膝關節周圍の穴名を記せ
  - 一、(ロ)左記の諸穴の位置、竝に禁鍼、禁灸穴を指摘せよ
- 脊中、玉枕、魚際、臑中、伏兎
- 一、胃病に對する鍼療法如何
  - 一、腸疾患に對する灸療法如何

三 重 縣 (昭和三年六月)

- 一、胃の消化作用
- 一、皮膚の知覺作用とは如何

- 一、鍼の大小に對する利害得失は如何
- 一、止血法として鍼の效ある理由
- 一、化學的消毒の方法に就て知る處を記せ
- 一、施術部より侵入し易き傳染病の名稱及び其豫防消毒方法 (以上鍼術)
- 一、坐骨神經に就て知る處を記せ
- 一、内分泌に就て知る處を記せ
- 一、外分泌に就て知る處を記せ
- 一、艾灸と温灸との利害得失
- 一、胃擴張に對する施灸點三穴竝に其解剖的部位を記せ
- 一、昇汞水の消毒上の用途
- 一、施術時に行ふ消毒方法 (以上灸術)

青 森 縣 (昭和三年九月)

- 一、坐骨神經の徑路を問ふ
- 一、心臟の位置、形狀及び機能を問ふ

- 一、鍼治により鎮靜作用を起さしむるには如何なる神經に如何なる刺激を施すべきや
- 一、鍼の消毒法を問ふ
- 一、消毒薬の名稱竝に使用法を問ふ (以上鍼術)
- 一、前膊に於ける筋及び神經の名稱を問ふ
- 一、左の臓器の位置、形狀及び機能を問ふ (イ)心臟、(ロ)胃、(ハ)肝臓、(ニ)脾臓
- 一、坐骨神經痛の灸療法を問ふ
- 一、灸の方法と適應症を問ふ
- 一、消毒の目的を問ふ
- 一、消毒薬の種類及び使用法を問ふ (以上灸術)

和 歌 山 縣 (昭和三年九月)

- 一、膀胱の位置、形狀及び之に分佈する血管神經如何
- 一、唾液の生理的作用を記せ
- 一、三多石炭酸水の調製法及び其用途を問ふ

- 一、理學的消毒法とは如何鍼灸術者としての應用を述べよ (以上鍼灸共通)
- 一、神經性消化不良の症候及び鍼療法を問ふ
- 一、玉枕、曲池、跗陽の解剖的位置及び禁鍼を示せ (以上鍼術)
- 一、夜盲症の原因及び灸療法を問ふ
- 一、扶突、少商、隱白の解剖的部位及び禁灸を示せ (以上灸術)

山 口 縣 (昭和三年十一月)

- 一、皮膚の構造竝に生理的作用を問ふ
- 一、坐骨神經の起始經過に就て記せ
- 一、消毒法に幾種在りや且つ施行上の注意を問ふ
- 一、單刺術、雀啄術、廻旋術の手技、竝に生理的作用を記せ
- 一、月經困難症の原因症候竝に治療を問ふ
- 一、腦溢血の原因症候竝に治療法を問ふ (以上鍼術)

- 一、皮膚の構造並に生理的作用を問ふ
- 一、坐骨神経の起始經過を記せ
- 一、灸の生理的作用及び灸の大小壯數は何に由りて定めらるや

- 一、消毒法に幾種在りや並に施術上の注意を問ふ
- 一、月經困難症の原因並に治療法を問ふ
- 一、中風の原因症候並に治療法を問ふ (以上灸術)

愛媛縣 (昭和三年十一月)

- 一、胸部を構成する骨の名稱及び聯接を問ふ
- 一、鍼治に於ける制止作用は如何例を示せ
- 一、延髓の機能を問ふ (以上鍼灸共通)
- 一、左の經穴の解剖的位置及び禁灸を問ふ  
志室、三陽絡、會陽、腹哀、百會 (以上鍼術)
- 一、灸治の不可なる場合を問ふ
- 一、延髓の機能を問ふ

- 一、自己の使用せる消毒薬の名稱を選んだ理由を問ふ (以上灸術)

大阪府 (昭和三年十月)

- 一、腋窩動脈の經過及び其分佈する筋の名稱を記せ
- 一、腦神経の作用を挙げよ
- 一、急性、慢性捻骨神経痛の治療法、及び刺鍼後疼痛の増劇せし場合の處置を問ふ
- 一、大包、天容、痞根の解剖的部位、神經、血管の關係並に其應用を問ふ
- 一、直射光線の殺菌作用及び其應用を問ふ
- 一、皮膚面消毒薬としてリゾールの使用法を問ふ (以上鍼術)
- 一、皮膚の構造を詳記せよ
- 一、體温の起る生理的作用を記せ
- 一、有熱患者にする施灸の可否並に其理由を問ふ
- 一、同名異穴の穴名を挙げ其解剖學的的部位並に禁穴の區

別を記せ

- 一、熱を應用する消毒法を列記し且つ之に要する時間及び温度的關係を記せ

- 一、手の消毒に適する藥品名及び其稀釋度を問ふ (以上灸術)

京都府 (昭和三年十月)

- 一、甲状腺の構造並に作用に就て記せ
- 一、頸部に於ける主要血管並に神經の經過に就て記せ
- 一、消毒と清潔と異なる點を説明せよ
- 一、消毒に適せる「フォルマリン」水の調製法及び消毒應用上に於ける適不適を述べよ (鍼灸術共通)
- 一、上肢の主なる神經の神経痛に對する刺鍼穴名及び刺鍼方式如何
- 一、子宮疾患に應用する經穴及び各其應用の目的を記せ (以上鍼術)
- 一、胃酸過多症に對する主治要穴に應用する理由

- 一、腦戸、鄰門、心俞、期門、膝關の部位、應用する場合 (以上灸術)

福岡縣 (昭和三年十月)

- 一、脾臟の位置、形狀を問ふ
- 一、上肢に分佈する主なる神經の名稱を問ふ
- 一、齒痛に對する鍼治法を問ふ
- 一、顔面神經麻痺の症候及び鍼治法を問ふ
- 一、鍼術施術時に消毒を行ふ理由並に其順序方法を述べよ (以上鍼術)
- 一、肩胛骨の位置、形狀及び其機能を問ふ
- 一、膝の位置、形狀及び其機能を問ふ
- 一、灸の壯數及び大小を定むる場合を説明せよ
- 一、坐骨神経痛の症狀及び灸治法を問ふ
- 一、灸治に際し消毒を行ふ理由及び其順序、方法を説明せよ (以上灸術)

熊本縣 (昭和三年十月)

- 一、頸部に於ける主なる神経及び血管の關係を問ふ
- 一、腎臓の生理的作用を述べよ
- 一、極泉、湧泉、水泉、天泉、廉泉、曲泉、陰陵泉は何經に屬するや且解剖的部位を記せ
- 一、慢性胃加答兒の症狀及び要穴
- 一、主なる消毒藥品の名稱及び其用法

静岡縣 (昭和三年九月)

- 一、顔面骨の名稱
- 一、正中神経の経路を記せ
- 一、膽汁の作用 (以上鍼灸共通)
- 一、左の穴の位置を示せ
- 一、(イ)承靈 (ロ)和謬 (ル)合谷
- 一、鍼の興奮作用とは如何

岡山縣 (昭和三年十月)

- 一、胃瘵學に對する施鍼法 (以上鍼術)
- 一、脚氣に對する灸治法及び其施灸の時期
- 一、神経性胃痛に對する施灸點
- 一、施灸後血液に及ぼす變化如何 (以上鍼術)
- 一、鍼の消毒法
- 一、皮膚の消毒及び消毒薬の稀釋度
- 一、坐骨神経の位置及び經過
- 一、歩行は如何にして營まるゝや
- 一、後頭神経痛の症候及び治療法
- 一、慢性腸カタルの症候及び治療法
- 一、血管及び筋肉に及ぼす施灸の變化 (鍼灸共通)

鹿児島縣 (昭和三年十月)

- 一、人體に於ける新陳代謝機能に就き其概要を述べよ

茨城縣 (昭和三年十月)

- 一、脾臓の位置、形狀竝に其觸知せらるべき事項を擧げて説明せよ
- 一、結核豫防上喀痰の處置に就き注意すべき事項を擧げて説明せよ
- 一、側腹部に於ける穴名、部位竝に解剖的所見を述べよ (鍼灸共通)
- 一、刺鍼刺戟の強弱を調節する諸種の條件を列記せよ (鍼術)
- 一、坐骨神経痛の原因、症候竝に鍼治法
- 一、灸の腸蠕動に及ぼす影響如何
- 一、膀胱麻痺の原因、症候竝に灸治法 (灸術)
- 一、三叉神経の起始、分佈
- 一、敬禮時(不明瞭)の姿體を鍼灸家として如何と見るや
- 一、消化作用を系統的に述べよ
- 一、牛乳飲用時に於ける胃の作用

山形縣 (昭和三年九月)

- 一、消毒とは如何竝に(リゾールの稀薄度數の色の鑑別法) (以上學說)
- 一、無癩痕灸治の價値と適應症
- 一、神経性消化不良の灸治點
- 一、四華の穴とは如何 (以上實地)
- 一、心臟、肺臓に循る血管、神経の名稱如何
- 一、小腸と大腸の生理的作用の異なる所を記せ
- 一、刺鍼禁忌の部位及び其禁忌症を記せ
- 一、慢性胃加答兒の症狀及び療法を記せ
- 一、昇末水、アルコール、石炭酸及び煮沸消毒の鍼に對する消毒の適否及び其方法を記せ
- 一、中風竝に關節脫臼に就て (實地) (以上鍼術)
- 一、膀胱の位置、形狀及び構造を記せ
- 一、脊柱の機能及び主なる中樞を記せ

- 一、赤血球、白血球の生理的作用及び灸治により起る處の影響を記せ
- 一、慢性氣管枝炎に對する解剖的灸治點及び其效果、壯數を記せ
- 一、石炭酸、クレゾール、昇水水中灸治に必要な消毒藥品を擧げ一々其用法を記せ
- 一、顔面神經麻痺及び遺尿症の治療法竝に部位 (以上灸術)

岐 阜 縣 (昭和三年十月)

- 一、三叉神經の分佈を記せ
- 一、皮膚の構造及其作用 (以上鍼灸共通)
- 一、頸部に刺鍼して失神卒倒することあり其理由竝に是を覺醒せしむべき鍼術を問ふ (大久保道齋氏による)
- 一、急性腸加答兒に對する鍼術の可否及其理由竝に天突の解剖的位置と刺鍼時の注意事項を擧げよ
- 一、副神經の通ずる孔穴に刺鍼せよ

- 一、アルコールに就て、及リゾール、石炭酸の使用法 (鍼灸共通)
- 一、腓腸筋痙攣の實地刺鍼 (以上鍼術)
- 一、灸の消化器に及ぼす作用竝に足の内外髁の上方三指横徑の部に在る孔穴名と之に該當する血管神經を問ふ
- 一、灸の血液及淋巴液に及ぼす反應を問ふ (以上灸術)

島 根 縣 (昭和三年十月)

- 一、背部諸筋の名稱竝に其作用
- 一、鼠蹊窩を構成する筋の名稱及之を通過する血管と神經の名稱
- 一、消毒の必要なる理由
- 一、消毒方法の種類を列擧せよ (以上鍼灸共通)
- 一、神經痛に最も適當なる刺鍼手技
- 一、腰部の刺鍼は如何なる疾患に有效ありや (以上鍼術)
- 一、腰部の施灸は如何なる疾患に有效なりや

臺 中 州 (昭和三年八月)

- 一、灸の白血球に及ぼす影響 (以上灸術) (實地問題)
- 一、子宮内膜炎に施す灸治穴名
- 一、後頭神經痛に施す灸治穴名 (以上灸術)
- 一、結膜充血に施すべき鍼治穴名
- 一、喘息に應用する穴名
- 一、肩井、肩外、肩中、大杼等の穴に刺鍼せしむ (以上鍼術)

北 海 道 (昭和三年八月)

- 一、人體に於ける血液循環に就き知る所を記せ
- 一、下肢を支配する脊髄神經の高さを問ふ
- 一、氣管枝喘息の鍼治療法を問ふ
- 一、刺鍼の禁忌部位を記せ
- 一、鍼及び刺鍼部の消毒を記せ
- 一、敗血症とは如何なる疾病なるや其の原因及症狀を問ふ

- 一、灸の作用に就て説明せよ
- 一、艾の大小に就て説明せよ
- 一、禁灸の場合
- 一、鍼術とは如何なる事か
- 一、鍼の筋神經に對する作用
- 一、禁鍼部位
- 一、筋肉の疲勞する原因及び之が回復法如何
- 一、麻痺とは如何なる疾病を言ふや
- 一、筋肉とは如何なるものか併せて其種類を問ふ
- 一、鎖骨の位置形狀及び聯接を記せ
- 一、石炭酸の稀釋法及び強液使用時の注意
- 一、普通アルコールと無水アルコールの差異

秋 田 縣 (昭和三年十月)



一、背部に於ける主なる筋肉の名稱起始附着及其作用を記せ

一、膀胱の位置形状構造及其機能を記せ

一、胃瘧に對する、鍼、灸術を記せ

一、脚氣の症狀及鍼、灸術を記せ

一、消毒藥の種類及其應用を記せ (以上學說)

一、消毒法の實施

一、前膊及肩部に於て各一穴を取穴し其解剖的位置の應用を語り正規の方法により各種の手法を試みよ且つ鍼に就いて語れ

一、通常多く用ひらるゝ大きさの艾炷を作れ。稍々大なる及び稍々小なる艾炷を作り、施灸せよ。艾炷の大きさの標準如何上膊及肩部に各一穴取穴せよ (以上實地)

石川縣 (昭和三年十月)

一、脊髓の機能を記せ

一、腸管の位置形状機能を記せ (以上鍼灸共通)

一、坐骨神經痛に對する刺鍼法を記せ

實地

一、鍼具及手指の消毒法を記せ

灸の部

一、坐骨神經痛に對する灸治法を記せ

一、消毒法の種類を記せ

愛知縣 (昭和三年十月)

鍼術

一、脊椎骨各部の名稱及其の數

一、皮膚の知覺

一、消毒藥として石炭酸、アルコールの使用法

一、肝臟充血に就て鍼治療法の處方例三種を擧げ各方奏效の理由を説明せよ

一、心臟肺臟に直接刺鍼の不可なる理由を説明すべし

灸術

一、左記各部の位置を問ふ

(イ)胸腺 (ロ)深在股動脈 (ハ)舌骨 (ニ)第四腦室

(ホ)大圓筋

一、大腸の作用

一、消毒藥として昇汞の利害を問ふ

一、灸の血液成分に變化を及ぼす理由を説明せよ

一、腹痛中不適應症を三種擧げ理由を説明せよ

徳島縣 (昭和三年十月)

一、腦髓神經の種類に就て知覺運動を區別せよ

一、消化液の種類及其作用を記せよ

一、造血作用を説明せよ

一、施鍼による刺戟の強弱方法如何

一、パセドー氏病の症候及鍼治法

一、上部腰椎の兩側に施灸せる場合は生理的に如何なる

作用を及ぼすや

一、腹膜炎の症候及び之に對する施灸の時期

福井縣 (昭和三年十月)

鍼術

一、鼠蹊管に就て知る事を記せ

一、肺の機能を述べよ

一、無水アルコールと普通アルコールとの消毒上の差異を擧げよ

一、術者の手指と被術者の患部と何れを先に消毒するか及其の理由を問ふ

一、ミハエル氏菱形窩の部位及其に存する經穴五個を記せ

一、合谷、三陰交の所在及之れに通ずる神經を問ふ

灸術

一、腕骨の名稱を問ふ

- 一、體温の調節作用を述べよ
- 一、消毒薬の種類及用法を問ふ
- 一、自己の使用せる消毒薬の名稱及之を撰びたる理由を問ふ

- 一、三角筋ロイマチスの灸治法を問ふ
- 一、三里、五里は何處に在るか其治病の效用を問ふ

長野縣 (昭和三年十月)

- 一、肋骨に就て
- 一、二頭膊筋及三頭膊筋の起始停止及作用
- 一、肺臓に於ける瓦斯交換とは何ぞや
- 一、交感神経に就て
- 一、顔面神経麻痺の鍼治點
- 一、石炭酸に就て (以上學說)
- 一、膝關節炎の鍼治點を指壓せよ
- 一、前脛骨筋に横刺せよ (以上實地)

千葉縣 (昭和四年五月)

- 一、肺の生理的作用
- 一、頸部にある血管神経の名稱
- 一、消毒の目的
- 一、刺鍼前後の消毒法に就て
- 一、雀啄術とは如何
- 一、腦戸、心兪、環跳の部位

島根縣 (昭和四年四月)

- 一、下腿後部諸筋の名稱並に分佈する神経の名稱
- 一、左の臓器の位置並に機能
- 一、肝臓、脾臓、腎臓、脾臓、心臓
- 一、興奮刺鍼を應用する場合並に部位
- 一、理學的消毒法の種類を列舉し其各々に就き簡單に説明せよ

- 一、施術局部の消毒を要する理由並に其方法三つを例示せよ

奈良縣 (昭和三年九月)

- 一、三叉神経第三枝下顎枝に就て記せ
- 一、腸の生理的作用に就て記せ
- 一、刺鍼の深さは如何なる標準に依りて定むべきか
- 一、心臓疾患に於ける鍼術の適應症並に應用する經穴を挙げ其奏效する理由を説明せよ
- 一、業務上消毒の必要なる理由を説明せよ
- 一、昇末水、石炭酸水、クレゾール水の消毒上の優劣を記せ (以上鍼術)
- 一、股動脈の起始、經過、枝別並に靜脈、神経との關係を記せ
- 一、腎臓の位置、形狀及び其作用を記せ
- 一、少澤、腰眼、隱白、脾兪、二間の部位並に應用する

疾病を記せ

- 一、各種理學的消毒法に就て説明せよ
- 一、消毒の意義を説明せよ (以上灸術)

愛知縣 (昭和四年四月)

- 一、皮膚の構造を問ふ
- 一、血液の成分及び血量を問ふ
- 一、消毒の必要なる理由
- 一、胃の疾病につき鍼術の興奮作用と沈靜作用と禁忌症とを分類して、其病名を挙げ且つ簡單なる理由を附すべし
- 一、押手の效害につき五例以上理由を附して説明せよ (以上鍼術)
- 一、腦の十二對神経幹の名稱及び位置
- 一、毛髮の作用
- 一、灸術を施す場合は如何なる消毒法を行ふや

- 一、灸の最新學說を記せ
- 一、灸の大小壯數と病症部位との關係及理由を説明せよ  
(以上灸術)

山 梨 縣 (昭和四年三月)

- 一、咀嚼筋の起始停止及名稱
- 一、腎臟の位置形狀構造及生理的作用
- 一、下肢に分佈する神經の名稱
- 一、楳竹承扶肩井腎俞の解剖的部位
- 一、偏頭痛の原因症候及治療法
- 一、化學的消毒とは如何 (以上鍼灸術共通)
- 一、坐骨神經痛の原因症候治療の穴名及指壓せしめ合谷に一鍼せしむ (以上實地)

東 京 府 (昭和四年三月)

- 一、神經の種類

- 一、皮膚の生理的作用
- 一、金屬製品に適當な消毒法
- 一、蒸氣消毒に適當な物品
- 一、頸部肩部に刺鍼せしむ (以上鍼術第一日)
- 一、皮膚の效用
- 一、消化作用を述べよ
- 一、中風の灸は何處になすや
- 一、熱氣消毒の種類を列記し且つ其一方法を詳記せよ
- 一、皮膚の消毒と其目的
- 一、中風の灸を實現せしむ (以上灸術第一日)
- 一、腦神經の名稱
- 一、呼吸の生理的作用を述べよ
- 一、刺鍼時消毒を怠る時は如何なる結果を來すや
- 一、左記物品に適應する消毒方法の名稱を記せ  
衣類、鍼具、蒲團、硝子器、紙屑
- 一、孔穴水泉懸鐘の解剖的部位及それに通ずる神經の名稱

- 一、胸腹部及腹部に疼痛ある病氣にして鍼治を禁すべき病名
- 一、肩胛部に刺鍼せよ續いて雀啄廻旋振顫の諸技を行へ  
(以上鍼術第二日)

三 重 縣 (昭和四年二月)

- 一、延髓の位置形狀機能
- 一、皮膚と粘液膜の區別
- 一、鍼の血液に及ぼす影響
- 一、消炎法としての鍼の效用
- 一、鍼治に特に消毒の必要な理由
- 一、傳染病患者に對したる時の其の手指は如何にして消毒すべきか (以上鍼術)
- 一、白血球に就て知る所
- 一、甲狀腺に就て

北 海 道 (昭和四年三月)

- 一、灸に關する最近學說
- 一、遺尿症に對する施灸點三穴
- 一、井水汚水の消毒に就て
- 一、灸痕より侵入し易き傳染病及び其の豫防 (以上灸術)
- 一、迷走神經に就て記せ
- 一、骨髓及骨膜に就て記せ
- 一、窒息とは何ぞや
- 一、三叉神經痛の主なる原因及療法を記せ
- 一、丹毒の原因及症狀を記せ
- 一、手指の消毒法を記せ (以上鍼術)
- 一、坐骨神經に就て記せ
- 一、唾液の分泌及作用に就て記せ
- 一、浮腫とは何ぞや浮腫の伴ふ疾病を記せ
- 一、腰痛の主なる原因及療法を記せ

- 一、禁灸穴に就て記せ
- 一、消毒薬として昇汞石炭酸及び酒精の使用上の注意を記せ (以上灸術)

咸鏡南道 (昭和四年三月)

- 一、鍼の種類を問ふ
- 一、刺鍼禁忌の部位及場合
- 一、誘導法の刺戟手技
- 一、頭蓋を構成する骨の名稱
- 一、胃痛に於ける鍼の禁忌症 (以上鍼術)
- 一、人體に於ける五器官の名稱
- 一、肺臟の構造及生理的作用
- 一、偏頭痛の症狀及療法
- 一、顔面神経痛の症狀
- 一、灸の適應症 (以上灸術)

秋田縣 (昭和四年四月)

- 一、上膊筋の名稱、起始、附着及び作用
  - 一、肝臟の位置構造及び生理作用
  - 一、顔面神経麻痺の症狀及び鍼灸療法
  - 一、急性筋ロイマチスの症狀及び鍼灸療法
- 長崎縣 (昭和四年四月)
- 一、三叉神経の分佈を記せ
  - 一、筋運動の起る理由を記せ
  - 一、消毒、水分、解糖の位置及び其の部に於ける筋、血管、神経の關係を記せ
  - 一、膝關節部に位する經穴の名稱を記せ
  - 一、自己の使用せる消毒薬の名稱及び之を選びたる理由を記せ
  - 一、施鍼に際し消毒せざる場合に發する疾病の種類及び症狀を記せ

口答試問

大 阪 府 (昭和四年四月)

- 一、脚氣の鍼治法
- 一、三陰交の取穴法 (以上鍼術)
- 一、顔面神経の經過を記せ
- 一、白血球の作用に就て知るところを記せ
- 一、陽谷、懸樞、陰廉の位置及び其の部に於ける筋血管神経の關係を記せ
- 一、三角筋部に位する經穴の名稱を記せ
- 一、消毒法の意義を記せ
- 一、灸術を施すに消毒の必要なる理由及び其の消毒の方法を記せ

口答試問

- 一、突然右季肋部に疼痛を發し腹部及び右肩に放散する模様を呈し最も婦人に來るが、如何なる病氣か、病名及び其の灸治法
- 一、頷厭穴を正確に取穴せよ (以上灸術)

鹿兒島縣 (昭和四年五月)

- 一、顔面神経の起始及經過を詳記せよ
- 一、腎臟の生理的作用を記せ (以上鍼灸共通)
- 一、鍼術の效ある炎症性疾患を記し其の中、二例に就き奏效する理由を説明せよ
- 一、神経性消化不良症に對する主要なる穴名五個を挙げ其の部位と血管神経との關係を挙げよ (以上鍼術)
- 一、呼吸器系に於ける灸の適應症三種を掲げて其の奏效する理由を述べよ
- 一、神門、前頂、條口、筋縮、關元俞の解剖的部位並に禁灸の區別を挙げ且つ筋縮、關元俞の應用を記せ (以上灸術)
- 一、消毒に普通アルコールを使用する理由を説明せよ日光消毒に就いて記せ (以上鍼灸共通)

- 一、皮膚の構成竝に其生理的機能に就いて述べよ
- 一、腎臓及膀胱の位置形狀竝に其作用に就き大要を述べよ
- 一、稀酒精の製法其應用範圍に就て説明せよ
- 一、肺瘻、膀胱瘻、腎瘻、上膠、及び胃瘻の部位に各穴の應用せらるゝ場合を問ふ
- 一、鍼の興奮作用とは如何なる事か且つ興奮作用を目的とする刺鍼を説明せよ
- 一、腸神経痛に對する施灸の方法如何
- 一、肺結核に對する施灸の方法竝に奏效する理由を説明せよ
- 一、脊髄炎の症候竝に施灸の利害を述べよ (以上鍼灸共通)
- 一、後頸部に刺鍼せしむ
- 一、後頭神経痛に對する刺鍼點竝に身體中刺鍼する際部位に由り痛みの異なるや否や竝に其理由 (以上鍼術)

- 一、瘰癧門、卒谷、天柱、神庭、璇璣の各穴を指壓せしめ竝に解剖的部位を問ふ
  - 一、神経痛と神経麻痺との施灸に對する壯數竝に大小の區別を問ひ其理由を質す (以上鍼術)
  - 但し各受験人により肋間神経痛竝に坐骨神経痛を左の意味のもとにて問はれし人あり
- 山口 縣 (昭和四年五月)
- 一、腹筋の名稱及作用を問ふ
  - 二、三叉神経の起始經過及枝別を記せ
  - 三、後頭部に存する經穴を解剖的に説明せよ
  - 四、痔核の症候を舉げ鍼術の療法を記せ
  - 五、消毒藥として「リゾール」石炭酸昇汞の溶解法を問ふ
  - 六、顔面神経麻痺の原因症狀及鍼術法 (以上鍼術)
  - 一、鍼術に同じ
  - 二、同

- 三、同
  - 四、痔核の症狀を舉げ灸術の療法を記せ
  - 五、鍼術に同じ
  - 六、顔面神経麻痺の原因症狀及灸術療法 (以上灸術)
- 奈良 縣 (昭和四年五月)
- 一、迷走神経の起始、經過分佈を記せ
  - 一、腹筋の起始停止竝に分佈する血管神経を記せ
  - 一、腹部に直接刺鍼を要する場合を舉げ且つその注意事項を記せ
  - 一、客主人、腦戸、或中、照海「足」、章門「肝經」の解剖的部位を記せ
  - 一、施鍼に適當する消毒方法を記せ
  - 一、昇汞水の消毒上の利害得失を記せ (以上鍼術)
  - 一、内頸動脈の起始經過枝別を記せ
  - 一、膝關節の形成竝に此部に於ける血管神経の關係を記せ

- せ
- 一、六腑(ロツブ)の穴とは何ぞ且つ其の部位を記せよ
  - 一、灸の麻痺に效ある理由を説明せよ
  - 一、消毒の意義竝に灸術に必要な理由を説明せよ
  - 一、消毒藥の種類竝に主なる使用の場合を記せ (以上灸術)
- 岩手 縣 (昭和四年五月)
- 一、坐骨神経の起始、徑路及分佈を記せ (共通)
  - 一、泌尿器の名稱及び機能 (共通)
  - 一、鍼治適應症及禁忌症に就て (鍼術)
  - 一、灸治の適應症及禁忌症に就て (灸術)
  - 一、肋間神経痛の原因症狀及鍼治法を記せ (以上鍼術)
  - 一、肋間神経痛の原因症狀及灸治法を記せ (以上灸術)
  - 一、施術に際し患者の局所術者の手指及び鍼の消毒法を記せ (鍼灸)
  - 一、上膊神経麻痺に對する灸治點を記せ

實地試験

- 一、神經性食道疾患の病名及び鍼灸は效あるか、竝に其の治療法、灸の大小壯數治療の目的鍼の術式
- 一、神經痛と神經炎の區別法
- 一、關節神經痛と神經炎は主にどんな所に來るか鍼灸は效あるか
- 一、股關節神經痛、神經炎の治療法
- 一、風池に實地に刺鍼せしむ

滋賀縣 (昭和四年五月)

- 一、消化器系臓器の名稱を列記せよ
- 一、正中神經の作用を問ふ
- 一、坐骨神經痛の原因
- 一、腰痛の原因
- 一、坐骨神經痛に對する穴名を問ふ
- 一、消毒藥の種類竝に其の製法

一、施術部位化膿したる時の處置法

高知縣 (昭和四年五月)

- 一、上膊筋の名稱起始停止竝に其の作用
  - 一、唾液に就て知る處を記せ
  - 一、瓦斯消毒方法に就て知る處を記せ
  - 一、蒸氣消毒の要約竝に注意を記せ (以上鍼灸術共通)
- 鍼術
- 一、風門、天府の部位及其の主治を問ふ
  - 一、神經性消化不良の症狀鍼灸法を詳記せよ

灸術

- 一、竹杖に就て知る處を記せ
- 一、狭心症の原因灸灸法を問ふ

石川縣 (昭和四年四月)

- 一、顔面神經の經過及分佈を記せ血液の成分に就て知る

所を記せ

- 一、坐骨神經に對する刺鍼灸灸法を記せ
- 一、消毒の必要なる理由を記せ (鍼灸共通)

灸術實地

- 一、喘息に對する灸灸法及び艾の大小良否の鑑別

鍼術實地

- 一、刺鍼上の注意及び運鍼

埼玉縣 (昭和四年四月)

- 一、胃の位置、形狀、作用
- 一、皮膚の機能を記せ
- 一、鍼術に於ける消毒の目的を問ふ
- 一、胸部の刺鍼法及刺鍼點
- 一、鍼灸の效用
- 一、下肢の麻痺に對する刺鍼法 (以上灸術)
- 一、二は共通

一、施灸に關する注意事項

- 一、胃瘰癧の施灸法

- 一、脚氣の施灸法

- 一、灸の禁忌症 (以上灸術)

静岡縣 (昭和四年四月)

- 一、坐骨神經の徑路を記せ
- 一、三角筋の起始、停止
- 一、皮膚に對する消毒法
- 一、便秘症の刺鍼法
- 一、翳風の主治病如何 (以上鍼術)
- 一、三角筋の起始停止、皮膚に對する消毒法は鍼灸共通
- 一、灸の生理的作用
- 一、腦溢血の施灸時期及最も有效なる施灸點 (以上灸術)

長野縣 (昭和四年五月)

- 一、眼窠を構成する骨を略圖にて説明せよ
- 一、靱帯の性状種類竝に作用を述べよ
- 一、坐骨神経の起始經過竝に枝別
- 一、尿の分泌作用に就いて
- 一、脚氣に對する鍼灸療法
- 一、消毒薬の種類竝に各消毒薬の稀釋法を述べよ

熊 本 縣 (昭和四年五月)

第一科 (鍼灸共通)

- 一、腹筋の名稱及其の作用を問ふ
- 一、肺臓の生理的作用を問ふ

第二科 (鍼灸共通)

- 一、第四肋間に在る穴名を挙げ且つ其の禁鍼禁灸を記せ
- 一、水溝と氣戸の解剖的部位及び之に分佈する神経

第三科 (鍼灸共通)

- 一、結核菌の附着せる衣類の消毒法

京 都 府 (昭和四年四月)

第三科

- 一、瓦斯を用ふる消毒の方法、竝に應用に就て記せ
- 一、石炭酸水と「クレゾール」石鹼と消毒上似たる點及異なる點を記せ

第一科

- 一、肺の構造竝に作用に就て記せ
- 一、坐骨神経の經過に就き筋肉脈管との關係を記せ

第二科

- 一、肺炎「カタル」に應用すべき經穴と其部を挙げ灸治方法及其注意事項に就て述べよ
- 一、施灸の疾病豫防に對する效果及其理由 (以上灸術)

第一科

- 一、肺の構造竝に作用に就て記せ
- 一、坐骨神経の經過に就き筋肉脈管との關係を記せ

第二科

- 一、坐骨神経痛の刺鍼法及之に用ふる經穴の名稱と部位
- 一、胃及腸疾患に應用する刺鍼部位と其の奏效理由 (以上灸術)

- 一、肩の凝りの原因症狀竝治療穴名をいひつゝ指壓せよ
- 一、腓腸筋痙攣の原因症狀及治穴をいひつゝ指壓せよ
- 一、先づ自己の大腿に刺鍼して後余の肩上一穴を撰び刺鍼せよ (以上鍼術實地)

- 一、皮膚病に就き灸の適應症竝に禁忌症を挙げ其の理由を説明せよ

- 一、膀胱疾患の灸の適應症と禁忌症を挙げよ
- 一、膀胱加答兒の原因症狀治療穴名竝に其の解剖的部位 (以上灸術實地)

- 一、喉頭加答兒の症狀と經穴
- 一、關節ロイマチスの症狀と膝關節の説明
- 一、風池實地刺鍼 (以上鍼術實地)

一、艾の良否の鑑別

- 一、胃の疾患の名稱及び不適應症名及び理由
- 一、胃の六ツ灸 (以上灸術實地)

德 島 縣 (昭和四年四月)

鍼灸術共通(學說)

- 一、上肢神経の徑路を説明せよ
- 一、反射機能とは如何
- 一、榮養素に就て知る所を詳記せよ

鍼 術

- 一、施鍼の各種神経纖維に及ぼす影響如何
- 一、腦性小兒麻痺の症候及び施鍼法

灸 術

- 一、氣海の穴を求むる方法及其部に於ける施灸の作用
- 一、胃擴張の症候及び其の施灸法消毒法

消毒法(口門)

- 一、手指消毒の方法
  - 一、一%と二%の倍量
  - 一、一%の石炭酸水と二%の石炭酸水の殺菌力の差如何
  - 一、純酒精と含水酒精との殺菌力如何  
(各人によりて多少異なり居るも各人とも主として石炭酸水、酒精、細菌に就て試問せり)
- 實地試験
- 一、痙攣は何に依つて起るか
  - 一、痙攣は何神経の興奮なるか
  - 一、知覺神經及び分泌神經に痙攣ありや
  - 一、二頭腓筋痙攣の爲肘關節強直の場合の刺鍼點を指壓せしめて穴名を問ふ(週前圓筋に刺鍼せしむ)(以上鍼術)
  - 一、淋疾に灸療するや否や。するとせば其の採穴法竝に尿道に分佈する神經如何 (以上灸術)

兵庫縣 (昭和四年四月)

- 一、體温の調節は如何にして行はるゝか
  - 一、腹腔内臓器の名稱及其の機能を記せ
  - 一、傳染病と灸との關係
  - 一、灸の治病上效果ある所以を問ふ
  - 一、左のものに對し最も適切なる消毒方法を記せ  
(イ)衣類寝具 (ロ)硝子器陶器 (ハ)手指 (ニ)唾痰
- 福岡縣 (昭和四年四月)
- 一、腋窩動脈の起始、經過及靜脈神經との關係
  - 一、胃の位置、形狀、機能を問ふ
  - 一、鍼術の治病に效ある理由を説明せよ
  - 一、肋間神經痛の症狀及其鍼治法を記せ
  - 一、皮膚の消毒は如何にして行ふや
- 廣島縣 (昭和四年四月)
- 一、大坐骨孔を通過する血管神經の名稱を記せ

- 一、蛋白質の消化は如何にして行はるゝや
- 一、齒痛の種類を挙げ鍼治法を記せ
- 一、慢性腸加答兒の主なる症狀及灸點部位を記せ
- 一、下關、人迎、乘風、膻俞、承滿、大橫、承山、環跳、橫竹、腰俞の部位竝に足に巡る神經の名稱を記せ  
(鍼灸共通)

佐賀縣 (昭和四年四月)

- 一、骨の種類及構造を記せ
- 一、血液の凝固作用を記せ
- 一、氣管枝喘息の症狀及灸治法を記せ
- 一、腎盂炎の症狀及鍼治法を記せ
- 一、痛風の鍼治法を記せ
- 一、遺尿症の鍼治法を記せ
- 一、石炭酸の中毒症狀を記せ

福井縣 (昭和四年四月)

- 一、左に就て記載せよ  
(イ)腦室 (ロ)下頸叢 (ハ)僧帽筋の位置
- 一、左の作用を問ふ  
(イ)赤血球 (ロ)體温の調節
- 一、ヒステリーの症狀を明記せよ
- 一、左の藥品にて鍼を完全に消毒する方法を問ふ  
(イ)アルコール (ロ)石炭酸
- 一、後頭神經痛の壓痛點を挙げ其の解剖的位置を問ふ
- 一、グロツシツヒ氏手指の消毒方法を記せ
- 一、左に就て知る事を記せ  
(イ)血漿 (ロ)縱膈腔 (ハ)股輪
- 一、唾液の作用を問ふ
- 一、神經痛の原因を明記せよ
- 一、アルコールの消毒上效果ある理由を問ふ
- 一、フェウルブル氏手指消毒法を記せ
- 一、灸點後の皮膚組織の變化を説明せよ



臺灣臺北州 (昭和四年五月)

- 一、腋窩を通過する神経血管の名稱
- 一、血液の働きに就き知る處を記せ
- 一、神経痛の原因及症候を述べよ
- 一、消毒の目的
- 一、法定消毒薬品の名稱 (鍼灸共通)

朝鮮京畿道 (昭和六年十二月)

- 一、筋の種類
- 一、唾液腺の種類及其作用
- 一、肋膜炎と肋間神経痛の鑑別點
- 一、鍼の筋の興奮性に及ぼす影響
- 一、灸の腸蠕動に及ぼす影響

東京府 (昭和四年九月)

- 一、下肢に分佈する血管、神経を問ふ
- 一、尿に就て記せ
- 一、煮沸消毒に就て
- 一、作業衣の薬物的消毒に就て詳記せよ (以上鍼灸共通)
- 一、胃兪、腎兪の部位
- 一、後頭部に刺鍼して卒倒する事あり其理由、處置法
- 一、頸部に寸三の二番鍼にて刺入せしめ、振旋法、刺動法、廻旋法を行はしむ

臺灣臺南州 (昭和四年九月)

- 一、頭蓋腔を構成する骨の名稱
- 一、血液の生理的作用
- 一、腹腔内臓器の名稱及其生理的機能を簡單に述べよ
- 一、皮膚の生理的作用
- 一、消毒方法の種類
- 一、消毒は何故に必要なるか其理由

- 一、昇汞の使用法 (以上鍼灸術共通)

大阪府 (昭和四年十月)

- 一、腦髓より發する十二對神経の名稱を記せ
- 一、消化液の名稱及作用を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、小兒鍼の適應症を列記し、其奏效する理由を記せ
- 一、全身中大なる神経四種を挙げ其各々に就て最も適當なる刺鍼穴一つの解剖的部位を記せ (以上鍼術)
- 一、鍼灸により疾病の治癒する理由を記せ
- 一、天府、委陽、腰眼、大横の解剖的位置竝に禁穴の別を挙げ其中二穴の應用病名を記せ (以上灸術)
- 一、煮沸及び蒸氣消毒に要する時間と温度との關係を問ふ
- 一、アルコールの殺菌作用を問ふ (以上鍼灸術共通)

京都府 (昭和四年十月)

- 一、消毒の定義
- 一、通常使用する消毒薬四種を挙げ各の稀釋度を記せ
- 一、心臟の構造及作用
- 一、正中神経の經過に就き筋肉、脈管との關係を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、坐骨神経痛の灸治法(穴名及部位)及豫後
- 一、左記の病名は灸の適應症なりや否や及其理由を記せ
  - (イ)急性肺炎 (ロ)動脈硬化症 (ハ)子宮筋腫
  - (ニ)常習便秘 (ホ)鼠蹊ヘルニヤ (以上鍼術)
- 一、胃の疾患に應用する背腰部の經穴五つを挙げ且つ其部位と奏效の理由を記せ
- 一、刺鍼の血液に及ぼす作用に就て知る所を記せ (以上鍼術)

奈良縣 (昭和四年十月)

- 一、胸部大動脈の位置、枝別分佈を記せ
- 一、利尿作用に就て記せ

- 一、刺鍼時に於ける押手の效用と其注意を記せ
- 一、常習便秘に對する刺鍼の部位、其奏效する理由を問ふ
- 一、理學的消毒法と化學的消毒法との優劣點を述べよ
- 一、石炭酸の性状を記し並に消毒上の應用を述べよ  
(以上鍼術)
- 一、脛骨神經の起始、經過並に其分佈を記せ
- 一、肝臟の位置、形狀並に其作用を問ふ
- 一、風池、陽谿、命門、幽門、照海の部位並に應用する疾患の名稱を問ふ
- 一、灸の肺結核に對して奏效する理由の知る處を記せ
- 一、灸術業者に消毒知識の必要なる理由を記せ
- 一、昇汞水とクレゾール水との消毒上の優劣を記せ  
(以上灸術)

長野縣 (昭和四年十月)

- 一、大腿骨を圖にて示し各部の名稱を記入せよ

- 一、腋窩を構成する筋の名稱及此處を通過する血管神經は如何
- 一、血壓に就て知る處を記せ
- 一、便秘及腦充血に鍼術灸術の效ある理由並に其施術點は如何
- 一、呼吸とは何ぞや
- 一、鍼術灸術に用ひらるゝ各種消毒藥の作用特徴及用法如何

神奈川縣 (昭和四年十月)

- 一、前膊に於ける主要なる動脈及神經を記せ
- 一、肺臟の作用を記せ
- 一、指先口唇等知覺最も鋭敏なる部位を選び刺鍼するは如何なる場合なるか其效果を舉げよ
- 一、小兒病中吐乳の治療法如何
- 一、施鍼に用ふる金屬器具類の消毒方法

- 一、消毒方法の種類を挙げよ (以上鍼術)
- 一、泌尿器各部の名稱及作用
- 一、胃の位置を問ふ
- 一、温熱刺戟が皮膚を隔て、内臟作用に及ぼす理由を問ふ
- 一、消毒法の必要なる理由
- 一、消毒藥品名を知れるだけ記せ (以上灸術)

鳥取縣 (昭和四年十月)

- 一、頸部に於ける器管の名稱及其の位置を問ふ
- 一、脊髓の位置、構造及其作用を問ふ
- 一、消毒の目的及消毒藥の稀釋法を問ふ
- 一、顔面神經の分佈を問ふ並に其作用を記せ
- 一、肺臟の位置形狀及其生理的作用を記せ

- 一、消毒の目的及消毒藥の稀釋方法を述べよ (以上灸術)

岡山縣 (昭和四年十月)

- 一、正中神經の起始、經過、枝別を記せ
- 一、大小循環の區別
- 一、クレゾール石鹼の長所と短所
- 一、昇汞水の適應及使用上の注意
- 一、鍼の刺鍼部位の分類と其作用
- 一、血壓の下降する灸治法
- 一、下痢の刺鍼點並に作用 (以上鍼灸術共通)

鹿兒島縣 (昭和四年十月)

- 一、肋膜及腹膜に就て説明せよ
- 一、赤血球及白血球に就て説明せよ
- 一、次に掲ぐる經穴の部位並に血管神經の名稱を問ふ  
(イ)三裏(下脚) (ロ)伏兔 (ハ)大横 (ニ)天樞

- (ホ)腎俞 (ヘ)天柱 (ト)神庭 (以上鍼灸術共通)
- 一、坐骨神経痛に對する刺鍼法並に刺鍼刺戟程度に就いて説明せよ

- 一、鍼の交感神経に及ぼす影響に就て述べよ (以上灸術)
- 一、再施灸と白血球増多との關係に就て述べよ
- 一、腸アトニー症に對する灸治法如何 (以上鍼術)

福岡縣 (昭和四年十月)

- 一、腹部筋の名稱と分佈する神経の名稱を問ふ
- 一、門脈に就て知る所を記せ
- 一、神経痛と炎症痛との鑑別を問ふ
- 一、石炭酸の性状並に其の稀釋法 (以上鍼術)
- 一、動脈管と靜脈管との構造上に於ける差異を問ふ
- 一、呼吸運動の目的を問ふ
- 一、腰痛の原因、症候及灸法を問ふ
- 一、吃逆の灸治法を問ふ (以上灸術)

滋賀縣 (昭和四年十月)

- 一、交感神経の所在及分佈 (鍼灸術共通)
- 一、血液の效用を記せ
- 一、三叉神経痛の原因 (以上鍼術)
- 一、常習便秘の原因症状及鍼治法灸治法
- 一、腦充血に對する穴名
- 一、石炭酸の性状並に溶解法及び其の用途 (以上鍼灸術共通)

岐阜縣 (昭和四年十月)

- 一、肩胛筋の名稱及之に分佈する神経の名稱を問ふ
- 一、呼吸の目的を問ふ並に其種類を記せ
- 一、消毒薬として必要なる條件を挙げ酒精使用上の注意を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、小兒淺刺鍼の效ある理由並に胃に該當する穴名を問ふ

ふ

- 一、膀胱加答兒に對する刺鍼の可否及理由 (以上鍼術)
- 一、門脈系に及ぼす灸點及其作用
- 一、心臟興奮症より來る不眠症に對する灸點及び目的並に上膊に於ける撓尺骨神經部の經穴名を挙げよ (以上灸術)

和歌山縣 (昭和四年十月)

- 一、膝關節は如何なる筋によりて構成せらるゝや及此部を通過する主なる血管、神経を問ふ
- 一、尿の分泌機能を詳記せよ
- 一、陽池、缺盆、犢鼻の解剖的位置及其部に分佈する血管神經を記し且つ其禁鍼灸を示せ
- 一、腰痛を起す疾病を列舉し其の鍼治に適する疾病の刺鍼點及其目的を詳記せよ
- 一、慢性三角筋ロイマチスの症候及び灸治法を記し其奏

效する理由を詳記せよ

- 一、消毒藥品五種を記し例を挙げて其稀釋度及用途を記せ
- 一、理學的消毒法の應用範圍を問ふ

兵庫縣 (昭和四年十月)

- 一、血液は如何にして淨化せられるや
- 一、中樞麻痺と末梢麻痺の區別
- 一、腰痛に對する刺鍼法を問ふ
- 一、刺鍼に經穴の價値如何
- 一、温熱的消毒の種類を記せ (以上鍼術)
- 一、運動神経と感覺神経との別如何
- 一、肋間神経痛の症状を問ふ
- 一、艾灸と温灸との作用上の相異如何
- 一、ロイマチスに對する灸の效果如何
- 一、日光消毒の價値に就て述べよ (以上灸術)

栃 木 縣 (昭和四年十月)

- 一、上膊に分佈する神経並に筋肉の名稱を問ふ
- 一、唾液腺の名稱と其生理的作用
- 一、煮沸消毒方法に就て
- 一、消毒薬二三の製法を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、肋間神経痛に對する刺鍼法
- 一、橈骨神経の徑路にある穴名を問ふ (以上鍼術)
- 一、灸術の手法
- 一、頸部に於ける禁灸部位 (以上灸術)

愛 知 縣 (昭和四年十月)

- 一、上膊中央部の横断面を圖解せよ
- 一、神経の反射機能とは如何及び其例をを挙げよ
- 一、鍼術に應用すべき消毒薬三種を挙げ其使用方法を詳述せよ

- 一、肩胛上部に施鍼して貧血を起すことあり其の療法及理由如何
- 一、鍼術刺戟の分類を問ふ (以上鍼術)
- 一、腦室の位置及形狀を問ふ
- 一、神経の傳達機能を問ふ
- 一、灸術と消毒との關係
- 一、加答兒性黄疽に對する施灸法及奏效の理由
- 一、傳染病に於ける施灸の效害 (以上灸術)

三 重 縣 (昭和四年十一月)

- 一、神経とは如何なるものか
- 一、生理的排泄物に就き知る所を記せ
- 一、手の厥陰心包經の穴名と禁鍼穴を記せ
- 一、經穴とヘッド氏帯との關係に就き記せ
- 一、昇汞水の消毒效果
- 一、乾熱消毒と濕熱消毒との差異如何 (以上鍼術)

愛 媛 縣 (昭和四年十一月)

- 一、皮膚の作用
- 一、淋巴腺の作用
- 一、足の厥陰肝經の穴名及禁灸穴
- 一、施灸點の擬定上注意すべき事項
- 一、消毒の意義
- 一、蒸氣消毒に就て注意すべき事項 (以上灸術)

朝鮮慶尙南道 (昭和四年十一月)

- 一、下顎神経の起始、經過及び分佈の個所を問ふ
- 一、腎臓の構造及尿排泄の順序を問ふ
- 一、刺鍼の効用につき例を挙げて説明せよ
- 一、右の經穴につき解剖的關係及知る所を述べよ
- 一、頭維、地五會、缺盆、會宗、石門
- 一、灸の最も適せる疾病を挙げて其有效なる理由を詳記せよ (以上鍼灸術共通)

德 島 縣 (昭和四年十月)

- 一、迷走神経の徑路及び分佈する臓器の名稱
- 一、白血球の作用
- 一、胃擴張とは如何なるものなるや及び其の療法を記せ
- 一、前頸部に存在せる經穴の名稱
- 一、手指の消毒方法
- 一、淋巴管とは如何なるものなるや、並に淋巴腺の構造を説明せよ
- 一、大腿中央部を横斷して該部に現はる、筋肉、血管、神経の名稱を列記し且其神経の徑路を説明せよ
- 一、内呼吸と外呼吸に就て説明せよ
- 一、酒精、石炭酸、昇汞の使用方法を記せ
- 一、天柱、風市の二穴を求め是に一寸の直鍼をすれば如何なるものを刺すか
- 一、腦神經衰弱の主なる症狀及鍼治法 (以上鍼術)

- 一、曲骨、横骨の二穴を求め、之に施灸すれば、生理的に如何なる關係を及ぼすか
- 一、結核性肋膜炎の症候及之に對する施灸法 (以上灸術)

福井縣 (昭和四年十月)

- 一、ブーバルト氏靱帶下を通ずる血管及筋肉關係を問ふ
- 一、體温に就て知る所を記せ
- 一、アルコールとクレゾール石鹼液との殺菌作用を問ふ
- 一、消毒と清潔の區別を問ふ
- 一、脊髄癆の原因及症狀を問ふ
- 一、尺骨神經麻痺の症狀を問ふ (以上灸術)
- 一、百會、風池、肩外、合陽、解谿の位置竝に其適應すべき疾病を問ふ
- 一、吃逆に對する鍼治法、試驗委員に刺鍼し雀啄術を行はしむ (以上鍼實地)
- 一、消化器に附屬する腺の名稱及位置を問ふ

- 一、乳糜管とは如何なるものなりや
- 一、沃度丁幾の消毒的效果を記せ
- 一、作業衣の藥物的消毒法に就て詳記せよ
- 一、炎症とは如何なるものなるか之に對する灸術の可否竝に其理由を問ふ
- 一、腓骨神經麻痺の症狀を問ふ (以上灸術)
- 一、四頭股筋に存する經穴名及其部位を問ふ
- 一、胃擴張に對する灸治法 (以上灸實地)

廣島縣 (昭和四年十月)

- 一、下眼窩動脈の分枝及分佈を問ふ
- 一、凝血作用を説明すべし
- 一、次の穴の部位竝に其部に分佈せる神經を記せ  
隱白、腎俞、横骨、上廉、臍子髁
- 一、ヒステリー發作と癲癇の鑑別竝に治療の目的及方法を記せ (以上鍼術)

- 一、膝關節神經痛とロイマチスとの鑑別竝に灸治の目的及方法を記せ (以上灸術)
- 一、三%石炭酸水十五リットルを製するには如何にすべきか (鍼灸術共通)

島根縣 (昭和四年十月)

- 一、上膊を運動する筋の名稱及各筋に分佈する神經の名稱
- 一、胃の位置、形狀、各部の名稱及作用 (以上鍼灸術共通)
- 一、折鍼の原因
- 一、皮膚鍼應用の場合 (以上鍼術)
- 一、(イ)石炭酸と稀酒精と何れが消毒力大なるや竝に其理由
- 一、(ロ)三%石炭酸水四百瓦の作り方
- 一、(イ)日光消毒の有效理由及實施上注意すべき事項
- 一、(ロ)消毒藥としての石炭酸に就て (以上鍼灸術共通)

一、艾の成分

- 一、呼吸器病中灸の適應症を挙げ各其効果を説明せよ (以上灸術)
- 一、氣管枝喘息の刺鍼點
- 一、常習便秘の治療法
- 一、肩胛間部に一鍼せしむ (以上實地)

富山縣 (昭和四年十月)

- 一、肝臟の機能を問ふ
- 一、膝窩窩に於ける脈管神經に就て記せ
- 一、灸治の奏效の理由を述べよ
- 一、喘息の點灸法及穴名を問ふ
- 一、刺鍼の方式を問ふ
- 一、疝痛の刺鍼法及穴名を記せ
- 一、丹毒に就て知る所を記せ
- 一、アルコールの性状竝に應用を問ふ (以上鍼灸術共通)

熊本縣 (昭和四年十一月)

- 一、肋膜及腹膜に就て説明せよ
- 一、赤血球及白血球に就て説明せよ
- 一、消毒の目的竝に化學的消毒に就て説明せよ (以上鍼灸術共通)
- 一、次に掲ぐる經穴の部位竝に血管神經の名稱を問ふ
  - (イ)足の三里 (ロ)伏兎 (ハ)大横 (ニ)天樞
  - (ホ)腎俞 (ヘ)天柱と神庭
- 一、坐骨神經痛に對する刺鍼法竝に刺鍼刺戟の程度に就て説明せよ
- 一、鍼の交感神經に及ぼす影響に就て述べよ (以上鍼術)
- 一、再施灸と白血球増多症との關係を述べよ
- 一、胃アトニー症に對する灸治法如何 (以上鍼術)
- 一、消毒用石炭酸水の使用方法に就て
- 一、皮膚の完全なる消毒方法如何 (灸術)

山口縣 (昭和四年五月)

- 一、四肢の皮下を走る神經及び血管に就て説明せよ
- 一、膀胱の位置、形狀及び其の作用に就て記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、反射の原理を説明し刺鍼刺戟の反射作用を述べよ
- 一、氣管枝喘息の原因、症候及び鍼治處方を述べ併せて其の療法理論を説明せよ
- 一、消毒法に幾種ありや、各其の消毒法の優劣を挙げよ (以上鍼灸術共通)
- 一、灸の病體作用に就て述べよ
- 一、子宮内膜炎の原因症候及び灸治處方を述べ併せて其の療法理論を説明せよ

長崎縣 (昭和四年五月)

- 一、腋窩を通過する血管神經の名稱を記せ
- 一、脊髓官能の區別に就て記せ

福岡縣 (昭和四年春)

- 一、心臟の生理的機能
- 一、坐骨神經の起始、經過及び皮下に現はれた部位
- 一、石炭酸、アルコール、昇汞水は何倍にて用ふるか
- 一、アルコール、昇汞の稀釋法
- 一、消毒の必要なる理由如何 (以上鍼灸術共通)

福井縣 (昭和五年四月)

- 一、上肢前面の皮下靜脈を圖解せよ
- 一、沃度丁幾の消毒力を問ふ
- 一、酒精を使用して鍼具消毒方法を明記せよ
- 一、睡眠中人の手に刺戟を與ふる時、不隨意に或る運動をなすは如何なる作用か及その主要中樞所在部を述べよ

静岡縣 (昭和四年五月)

- 一、大瀾、乘風、鯉戸の位置及びその部に於ける筋神經血管の關係を記せ
- 一、吃逆の原因症候及び之に對する鍼治法を記せ
- 一、藥品による鍼の消毒方法の順序を記せ
- 一、施術者の手指及び被術者の部位の消毒方法及び其の順序を記せ (以上鍼灸術共通)

- 一、胸部に於ける筋肉の名稱
- 一、反射機能とは如何 (以上鍼灸術共通)
- 一、鍼術の最も效を奏する胃の疾患を挙げよ
- 一、鍼術の不適應症竝に頸部に於ける穴名を述べよ (以上鍼術)
- 一、腹腔内消化器の位置を問ふ附慢性胃腸疾患に對する施灸點を問ふ
- 一、灸治の適應症を列舉せよ (以上灸術)

北海道 (昭和五年三月)

- 一、坐骨神経の起始及び分佈を問ふ
- 一、人體に於ける瓦斯交換に就て記せ
- 一、坐骨神経痛の鍼治に際しその施鍼點を解剖學的名稱を以て記せ

宮崎縣 (昭和五年六月)

- 一、膝關節を構成する筋の名稱及び此の部を通過する血管神經の名稱を記せ
- 一、淋巴及び淋巴腺に就て説明せよ
- 一、化學的消毒とは如何、二三の例を擧げて之を説明せよ (以上鍼灸術共通)
- 一、腦充血の原因及び症候竝に之に對する刺鍼法を記せ
- 一、横骨、四滿、環跳、顛息の解剖的部位竝に禁穴、要

穴の別を記せ (以上鍼術)

- 一、舉丸炎の症候及び之に對する灸治法に就て記せ
- 一、白環俞、日月、漏谷、少海の解剖的部位竝に禁穴、要穴の別を記せ (以上灸術)

鳥取縣 (昭和五年春)

- 一、咀嚼筋の名稱及び作用を問ふ
- 一、肝臟の位置、形狀及び生理的作用を問ふ
- 一、消毒の方法及び主なる消毒藥の稀釋法を問ふ (以上鍼術)
- 一、後頭神經痛、喘息、胃アトニー、腸痛の原因、症候施鍼穴名其の解剖的部位を問ふ。實地刺鍼 (以上鍼實地)
- 一、胸廓の上孔には如何なるものを通ずるか
- 一、唾液の化學的成分其の作用を問ふ
- 一、消毒の方法及び主なる消毒藥の稀釋法を問ふ (以上灸術)

酸水は何%に當るや (以上鍼灸術共通)

長崎縣 (昭和五年五月)

- 一、頸動脈の所在及び肩胛筋に分佈する神經の名稱を問ふ
- 一、迷走神經の作用を記せ
- 一、腦充血の原因、症候、鑑別及び之に對する刺鍼法を記せ
- 一、外丘、人迎、承光の位置及び其の部に於ける筋血管神經の關係を記せ

- 一、消毒方法の種類を記せ
- 一、化學的消毒藥の調製方法を記せ (以上鍼術)
- 一、大腿に分佈する神經の名稱と其經過を記せ
- 一、血液の生理的作用を記せ

- 一、會陽、府舍、交信の位置及び其の部に於ける筋血管神經の關係を記せ

廣島縣 (昭和五年四月)

- 一、刺鍼の際注意すべき事項 (以上鍼術)
- 一、肝臟の位置及び形狀
- 一、消化液の名稱及び作用
- 一、免疫の生ずる理由 (以上灸術)
- 一、左記の筋の起始、停止を記せ  
梨子狀筋、縫匠筋
- 一、淋巴腺の機能を記せ
- 一、胃痙攣、胃潰瘍、神經性腸痛、盲腸炎、膽石痛、腎石痛
- 一、以上の疾病に於て各其の腹痛の特徴及鍼灸の禁忌、適應を述べよ
- 一、次の部位を述べ之に分佈する神經を擧げよ  
太乙、中瀆、京門、秩邊、臂臑
- 一、アルコールの殺菌作用を説明し、且二十五倍の石炭

- 一、灸術の神經機能に及ぼす作用に就て記せ
- 一、施術に際し行ふべき最も有效なる消毒方法を記せ
- 一、皮膚の消毒方法を記せ (以上灸術)

奈良縣 (昭和五年五月)

- 一、横隔膜神經の起始、經過、分佈を記せ
- 一、肩胛筋の名稱、起始停止竝に分佈する血管神經を記せ
- 一、小兒鍼の效果に就て知る所を記せ
- 一、胸椎各側(但し第一側線)に於ける穴名を挙げ且つ其應用する疾病と之が奏效する理由
- 一、消毒の目的を記せ
- 一、手指の消毒方法を記せ (以上鍼術)
- 一、腋窩の形成竝に其部に於ける血管神經の關係を記せ
- 一、手の陽明大腸經に於ける經穴中殊に眼の疾患に應用するもの三つを挙げて其部位を記せ

- 一、消毒の種類を述べよ
- 一、「フォルマリン」の消毒上の適用、竝に其優劣點を挙げよ (以上灸術)

東京府 (昭和五年三月)

- 一、聽器の構造を記載せよ
- 一、消化液の種類及び作用を詳記せよ
- 一、消毒用昇水水の使用法に就き記せ
- 一、鍼具の完全なる消毒法 (以上鍼術)
- 一、脊髓神經に就て
- 一、血液の生理的作用を述べよ
- 一、消毒用石炭酸水の使用法に就て
- 一、皮膚の完全なる消毒方法如何 (以上灸術)

北海道 (昭和五年三月)

- 一、坐骨神經の起始及び分佈を問ふ

- 一、人體に於ける瓦斯交換に就て記せ
- 一、坐骨神經痛の鍼治に際しての施鍼法を解剖學的名稱を以て記せ
- 一、施鍼の禁忌症狀を問ふ
- 一、創傷傳染病とは何ぞや
- 一、十種傳染病とは何ぞや (以上鍼術)
- 一、三叉神經の起始及び分佈を問ふ
- 一、人體に於ける新陳代謝に就て知る所を記せ
- 一、半身不隨症の灸治に際し施灸點を解剖學的名稱を以て答へよ
- 一、火傷に就て知る所を記せ
- 一、理學的消毒法とは何ぞや
- 一、消毒薬として昇水水を使用し得る場合及び其使用時に於ける注意を記せ (以上灸術)

大阪府 (昭和五年四月)

- 一、上腸間膜動脈の起始、經過及其枝別を記せ
- 一、體温の調節は如何にして行はるゝや
- 一、豫防衣と書籍類に行ふ可き理學的消毒方法を詳記せよ
- 一、酒精の殺菌作用を述べ且つ手の消毒に適する稀釋度を問ふ (以上鍼灸術共通)
- 一、刺鍼を避くべき場所及び場合を挙げ併せて其理由を問ふ
- 一、天髒、絡却、氣海俞、飛陽及び衝門の禁穴の區別を詳記せよ (以上鍼術)
- 一、腦充血、肺結核、脚氣に對して施灸の效ある理由を詳記せよ
- 一、腎臟、胃倉、通谷、脾關の解剖的部位竝に應用病名二三を記せ (以上灸術)

京都府 (昭和五年四月)



- 一、肝臓の構造竝に作用を記せ
- 一、上膊部に於ける筋肉の名稱竝に上膊神経と上膊動脈の経過を記せ

- 一、煮沸消毒法竝に應用に就て記せ
- 一、消毒薬液の倍数及び%の意義を例を擧げて説明せよ
- 一、鍼術に依る刺戟限度は如何なる方法にて定むるや
- 一、頰車、筋縮、命門、陽谿、不容の位置を骨を標準として説明し且此穴を應用する主な疾病一二を擧げて説明せよ

- 一、灸の本態に關する解説に就て二三學者の所感を問ふ
- 一、各種疾病に對する日常最も使用する經穴及び部位五つを擧げ且其醫治的應用に就て述べよ

鹿兒 島 縣 (昭和五年四月)

- 一、肋膜(胸膜)に就て左の各項を説明せよ  
位置、區分、胸縱隔腔(竇)肋膜腔

- 一、滋養品(營養品)及び嗜好品に就て知る所を記せ
- 一、理學的消毒に就き用途上其優劣を擧げて説明せよ
- 一、ヘッド氏帶の意義竝に之れが經穴との關係に就て記せ

- 一、刺戟刺戟程度を定むべき要件に就て述べよ
- 一、腸疝痛に刺戟の效ある理由竝に之に對する鍼治法に就て述べよ
- 一、名灸とは何か、近代醫學上よりの見解を述べよ
- 一、神經衰弱に對する灸治法竝に施行上の注意を述べよ

島 根 縣 (昭和五年四月)

- 一、上膊を繞る主なる動脈淺靜脈竝に神經の名稱
- 一、膝臟の位置、形狀竝に機能
- 一、後頭部に深刺して卒倒する事あり其理由及處置
- 一、筆瘻の刺戟法竝に刺戟點
- 一、三%石炭酸水五百瓦の製法及び石炭酸使用上の注意

- 一、術者の手指消毒法を詳記せよ
- 一、施灸に際して注意すべき要點
- 一、不眠症の施灸點

愛 知 縣 (昭和五年四月)

- 一、交感神経に就て知る所を記せ
- 一、呼吸は如何にして行はるゝや其目的を問ふ
- 一、七〇%のアルコールと千倍昇末水との消毒上の效力如何

- 一、慢性腸加答兒に就き鍼術の適否を定め、適當と認むるものには、鍼術治療の目的及び其施術部位を記せ
- 一、腹痛時の施鍼につき其效害を述べよ (以上鍼術)
- 一、舌に分佈する神經の名稱及び其の領域を問ふ
- 一、動靜脈の區別
- 一、灸術を施すに際し消毒の必要あれば其場合を擧げ且つ理由を併記すべし

- 一、灸の生血器官に及ぼす影響に就き其理由を説明すべし
- 一、慢性股關節ロイマチスに對する療法及び奏效の理由 (以上灸術)

德 島 縣 (昭和五年四月)

- 一、甲状腺の位置、形狀構造及び其の機能を問ふ
- 一、尿の性状竝に腎臟に分佈する神經の名稱及び其の機能を問ふ
- 一、消毒の必要なる所以竝に消毒薬の種類及び其溶解方法を述べよ (以上共通)
- 一、膀胱麻痺の原因症候及び其灸治法を問ふ
- 一、小海、神門、陽谿の三穴を求め之れに施灸する時は如何なる作用を現すや (以上灸術)

- 一、神經性下痢症の原因症候及び鍼治法を問ふ
- 一、陰都、幽門、石關の三穴を求め之に施鍼する時は如何

何なる作用を現すや (以上鍼術)

福岡縣 (昭和五年四月)

- 一、迷走神経の経過及び分佈
- 一、筋肉中に折鍼せば如何なる障碍を起すや
- 一、麻痺及び知覺脱失の中樞性と末梢性との鑑別
- 一、リゾール水に就て記せ (以上鍼術)
- 一、本年三十八歳の未亡人でヒステリー性の婦人なるに昨夜突如として臍を中心とした腹痛發作が起り顔色は蒼白となり脈搏頻數となつて患者は臍を強壓して上半身を屈してゐる其病名と療法を併記せよ (以上鍼術實地)

- 一、肺動脈に就て知る所を記せよ
- 一、灸痕の生ずる理由
- 一、水腫に就て知る所を記せ
- 一、施灸部の化膿する原因とその豫防法 (灸術)

- 一、本年五歳の女兒生後半年頃より腸を害し一度全快したが半年程前から少しづつ悪く二週間程前から毎朝定つて下痢をなす。而して右腸骨窩に腫瘍あり之を強壓すればグーと音が聞ゆる腹部が膨滿して體が瘦せる食慾不振其病名と療法を問ふ (以上灸術實地)

佐賀縣 (昭和五年四月)

- 一、淋巴腺の構造及び淋巴管との關係
- 一、腎臓の機能に就きて述べよ
- 一、膀胱麻痺の原因、症候及び鍼灸療法灸治法
- 一、破傷風とは何ぞ鍼灸治療の可否如何
- 一、フォルマリンの性状並に應用

山口縣 (昭和五年五月)

- 一、五官器の名稱と構造を簡單に述べよ
- 一、胃に分佈する神経の名稱

一、消毒法に何種ありや其特徴を挙げよ

(以上鍼灸術共通)

一、(イ)鍼の醫治的效果

(ロ)脾關、痞根、脾俞、風門、風池

一、肋膜炎の原因、症候、豫後、療法並に治癒する理論

(以上鍼術)

一、大迎、曲澤、百會、陽谿、三里の採穴

一、三里に單刺、雀啄、振顫、廻旋、橫刺 (捻鍼、管鍼)

一、灸の豫防的效果ある理由

一、築賓、伏兔、盲兪、附分、頭維、命門

一、肋膜炎の原因、症候、豫後、療法並に治癒する理論

(以上灸術)

一、本年三十八歳の男子平常健康體なるに昨夜宴會に行

きて今朝になつて熱候三八、ホロセが出来て全身か

ゆい

一、膝關、小海、角孫 (以上灸術實地)

千葉縣 (昭和五年五月)

一、肩胛筋の名稱及び三角筋の起始、停止、作用分佈する神経

一、胃の位置及び生理的作用

一、消毒の目的並に施鍼に臨みての消毒法

一、鍼の醫治效用

一、瘰癧門、天柱、肺俞、心俞の部位 (以上學說)

一、齒痛に對する刺鍼點 (實地)

一、痛痛に對する刺鍼法 (實地)

高知縣 (昭和五年五月)

一、筋の興奮性に就て知る處を記せ

一、脾臓の位置、形狀及び構造を記せ

一、倍數と%の關係を記し例を舉げて之を示せ

一、左記の事項を記せ

- (イ)消毒とは何ぞ
- (ロ)消毒方法の效を奏する理由 (以上鍼灸共通)
- 一、胃愈、腎愈、委陽の解剖的部位を説明して之を應用する二三を挙げよ (以上鍼術)
- 一、陰萎病の原因、症候、鍼治法を記せ
- 一、脚氣八處の灸穴に就て知る所を記せ
- 一、灸點と血壓との關係を記せ

神奈川縣 (昭和五年三月)

- 一、前膊に於ける主要なる動脈の名稱
- 一、肺臟の作用を記せ
- 一、誘導刺鍼と興奮刺鍼の治療的價值に就て例を挙げて説明せよ
- 一、腰部に於ける刺鍼法並に刺鍼點を挙げよ
- 一、金屬類を消毒するに適當なる藥品の名稱
- 一、被術者の皮膚を消毒する方法 (以上鍼術)

- 一、坐骨神經の分佈
- 一、小腸の作用を記せ
- 一、背部正中線に相當する穴名及び其解剖的部位を記せ
- 一、灸的温熱刺戟が遠心神經、求心神經に及ぼす作用如何
- 一、普通に用ひる消毒藥の名稱三種以上を挙げよ
- 一、消毒方法の種類 (以上鍼術)

大阪府 (昭和五年九月)

- 一、輸尿管の位置、形狀及び各部の名稱を記せ
- 一、神經は如何なる用をなすやを問ふ (以上共通)
- 一、折鍼の防止並に折鍼したる場合の處置を詳記せよ
- 一、京門、清冷淵、客主人、血海、天池の部位並に應用病名を挙げ其中に禁鍼穴あらば之を示せ (以上鍼術)
- 一、灸の血行に及ぼす作用並に其應用及び方式を記せ
- 一、豐隆、内關、瘧根、腹哀の解剖的關係禁灸穴の別を述べ併て其應用病名を問ふ (以上鍼術)

- 一、日光消毒の方法並に其の效力を記せ
- 一、クレゾール水の製法並に本消毒藥の長所に就て記せ (以上鍼灸術共通)

沖繩縣 (昭和五年九月)

- 一、迷走神經の徑路
- 一、水溝(人中)、鬼官、鬼客廳(庫房)、五里の解剖的位置を記せ
- 一、正中神經麻痺の療法
- 一、何度の酒精が消毒藥として效力あるか (以上灸術)
- 一、淋巴管と靜脈との生理的差違
- 一、百會、和髎、三焦愈の解剖的位置を示せ
- 一、ヘッド氏帯の檢出法
- 一、石炭酸水稀釋度に就き消毒の效力に關係あるや、若しありとせば其理由 (以上鍼術)
- 一、百會、瘧門、兪府、神道、神堂、臍子髎、曲垣の指

壓、分佈神經、經名

- 一、膀胱麻痺の原因、應用穴名、指壓
- 一、鍼の生理的作用、灸の生理的作用 (實地)

青森縣 (昭和五年九月)

- 一、(イ)腋窩を構成する筋肉の名稱を記せ
- 一、(ロ)ブーバルト氏靱帶の下を通過する主なる血管神經の名稱を記せ
- 一、皮膚の機能を問ふ (以上鍼灸術共通)
- 一、腹部の疾患中特效あるもの禁すべきもの、及適應症と然らざるものと鑑別し難きものを問ふ
- 一、腦充血の治療法及び肋間神經痛の手技並に注意すべき點を問ふ (以上鍼術)
- 一、蒸氣消毒法と熱氣消毒法との異なる點を記せ
- 一、石炭酸水の調製法及び應用に就て記せ (以上鍼灸術共通)

- 一、地平鍼及び鉛直鍼
- 一、尺骨神經麻痺に對する鍼治療法及び其效ある理由 (以上鍼術實地)
- 一、灸治と不適應症を問ふ
- 一、黃疸の灸治法を記せ (以上灸術)
- 一、四華患門の部位竝に筋神經の名稱
- 一、後頭神經痛の壓痛點と其の要穴の部位 (以上灸實地)

東 京 府 (昭和五年九月)

- 一、肋膜に就て記載せよ
- 一、皮膚の生理的作用を述べよ
- 一、フォルマリン水を使用する消毒法に就て記せ
- 一、布片類の理學的消毒法如何 (以上灸術)
- 一、視器の構造を問ふ
- 一、呼吸作用を述べよ
- 一、刺鍼の消毒法に就て記せ
- 一、木製品の消毒法如何 (以上鍼術)

岡 山 縣 (昭和五年九月)

- 一、囊狀靱帯に就て
- 一、知覺神經に就て
- 一、頑固な吃逆に對する刺鍼點
- 一、禁鍼の穴を挙げ其理由を説明せよ
- 一、蒸氣消毒に適せざる物品を挙げよ
- 一、手指の消毒に用ゆる藥品を挙げよ (以上鍼術)
- 一、皮膚の構造
- 一、坐骨神經の皮膚經過に就て
- 一、禁灸の穴を挙げ其の理由を説明せよ
- 一、腦壓の引下けに對する灸治法を問ふ
- 一、熱を用ふる消毒法を挙げよ
- 一、昇汞と石炭酸との稀釋法を問ふ (以上灸術)

滋 賀 縣 (昭和五年十月)

- 一、胃疾患と施灸療法に就て
- 一、左記經穴の部位  
天突、關元、命門、俠白、殷門 (以上灸術)
- 一、三%石炭酸水調製法及び應用に就て
- 一、理學的消毒法に就て詳記せよ (以上鍼灸術共通)

奈 良 縣 (昭和五年十月)

- 一、顔面神經の起始、經過竝に分佈を記せ
- 一、血液の性状及び成分に就て記せ
- 一、施灸部皮膚は如何なる變化を生ずるや
- 一、腰部に存する經穴名と其部位竝に應用する疾病を記せ
- 一、如何なる條件を具備する藥品が消毒藥として最も適當なるや
- 一、防疫用石炭酸の性状竝に其應用を述べよ (以上灸術)
- 一、腹部動脈幹の起始、經過竝に枝別を記せ

- 一、腋窩とは如何なる處をいふや、及び之を構成する諸筋の名稱
- 一、施鍼を避くべき部位を問ふ
- 一、肋間神經痛の鍼治法竝に胸筋「ロイマチス」との鑑別
- 一、煮沸消毒に適する物品の名稱及び其方法 (以上鍼術)
- 一、上肢に分佈する主なる神經の名稱
- 一、灸治の作用竝に施灸を避くべき部位を記せ
- 一、腰痛を起す疾病名稱及び其灸治穴名を問ふ
- 一、灸痕の處置如何(消毒を含む) (以上灸術)

京 都 府 (昭和五年十月)

- 一、股神經の經過に就て
- 一、脾臟の構造竝に生理的作用を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、鍼の血液に及ぼす作用を記せ
- 一、肩井穴の經名部位取穴法及び刺鍼上の注意竝に應用する疾患を記せ (以上鍼術)

- 一、肝臓の位置、形状及び作用
- 一、迷走神経に刺戟を與へ得べき適當なる部位(經穴)を示し且つ其理由を説明せよ
- 一、三叉神経痛に應用する經穴名と且つ其部位を記せ
- 一、鍼術を行ふ際消毒の必要なる理由を説明せよ
- 一、蒸氣消毒方法を詳記せよ (以上鍼術)

島 根 縣 (昭和五年十月)

- 一、結核豫防に灸療の効果ある理由
- 一、腹部の禁鍼禁灸及び其解剖的部位 (以上灸術)
- 一、喘息に對する要穴名並に其解剖的部位
- 一、急性筋肉ロイマチスの刺鍼法 (以上鍼術)
- 一、頸部を通過する血管神経の名稱
- 一、腎臓の位置及び作用
- 一、熱による消毒方法の種類を挙げ簡単に説明せよ
- 一、消毒薬としてのアルコールに就て

- 一、三ツクレゾール水四百瓦の製法 (以上鍼灸術共通)

廣 島 縣 (昭和五年十月)

- 一、斜頸の種類及び刺鍼の目的 (以上鍼術)
- 一、氣管枝喘息の灸治點及び目的 (以上灸術)
- 一、上膊に於ける血管神経の直接皮下に發する部位を記せ
- 一、腹腔内臓の名稱並に位置を記せ
- 一、左の穴の部位、之に循る神経の名稱
- 一、陽綱、大都、腹哀、郛門、聽會
- 一、アルコール、石炭酸、昇汞の應用
- 一、消毒の必要なる理由を問ふ (以上鍼灸術共通)
- 一、神経痛にして壓痛點を欲くものありや否や
- 一、下腿前側に寸六一番鍼にて無管刺鍼せしむ
- 一、胸部、腹部禁灸穴名
- 一、灸の血管神経に及ぼす影響 (以上實地)

徳 島 縣 (昭和五年十月)

- 一、關節の種類及び其構造を記せ
- 一、脾臓の生理的機能を説明せよ
- 一、脊髓に於ける神経中樞の種類並に其所在を問ふ
- 一、理學的消毒法を説明せよ (以上鍼灸術共通)
- 一、皮膚鍼が胃腸に及ぼす影響如何
- 一、萎縮腎の原因、症候並に之に施鍼すれば如何なる影響ありや (以上鍼術)
- 一、身柱、肺俞、肩井の部位並に之に施灸せば肺臓に對し如何なる影響ありや
- 一、陰萎症の原因、症候及び灸治法 (以上灸術)

福 井 縣 (昭和五年十月)

- 一、上肢前面の皮下靜脈を圖解せよ
- 一、沃度丁幾の消毒力を問ふ

- 一、酒精を使用する鍼具消毒方法を明記せよ
- 一、睡眠中の人の手に刺戟を與へる時不隨意に或る運動をなすは如何なる作用か及び其主要中樞所在部を述べよ
- 一、坐骨神経麻痺は如何なる疾病か
- 一、半身不隨症の原因を問ふ (以上鍼術)
- 一、淋巴液とは如何なるものをいふか
- 一、消化腺の構造を問ふ
- 一、灸痕より丹毒を起す事なきか有れば其豫防方法を記せ
- 一、理學的消毒方法を挙げよ
- 一、温熱は身體組織に如何なる影響を與へるか
- 一、腎臓炎の原因及び症狀を問ふ (以上灸術)
- 一、末梢神経麻痺に對する鍼治法
- 一、頭痛に對する灸治法 (以上實地)

三 重 縣 (昭和五年十月)

- 一、心臓に分佈する神経の作用
- 一、消化器の種類及び作用に就て
- 一、血液成分に及ぼす鍼の影響
- 一、瘰癧に對する鍼の治療的價値
- 一、法定傳染病に對し蒸氣消毒の方法
- 一、鍼術の消毒方法 (以上學說)
- 一、便秘の原因症候療法 (實地口答)
- 一、承山の指壓刺鍼、同穴の筋肉神経の名稱 (以上鍼實地)
- 一、臑とは如何なるものか
- 一、分泌物の種類
- 一、瘰癧に對し灸の效ある理由
- 一、喘息に對する治療法及び經穴名
- 一、消毒用昇汞水の製法

- 一、灸を施す時の消毒方法 (以上灸學說)
- 一、脚氣病の原因、症候、療法
- 一、風池、合谷の指壓及び應用病竝に犢鼻、照海の指壓 (以上灸實地)

福 岡 縣 (昭和五年十月)

- 一、股動脈の起始、經過及び神経との關係
- 一、肺臟、心臓、胃に來る神経を挙げよ
- 一、腹部に於ける禁忌症を述べよ
- 一、膀胱麻痺の鍼療法 (以上鍼術)
- 一、四十二歳の男子、事務員從來時々三角筋三頭腓筋腓腕攣骨筋の疼痛があつたが、一週間前から持続性の痛みとなり運動の節激痛が起つて不能となる、病名と療法を問ふ (以上鍼實地)
- 一、總頸動脈と外頸動脈の起始、經過、枝別を述べよ
- 一、腓腸神経に就て

- 一、副神經麻痺の症狀と療法
- 一、痔核症の灸療法 (以上灸術學說)
- 一、七歳の小兒、元來腺病體質であるが既往症に百日咳がある、毎年季節の變り目に一週間位咳嗽をする、本年も其咳嗽が朝夕殊に夜間に多く灸がよいといふ話であるからとて求めて來た、病名と療法を問ふ (以上灸實地)

和 歌 山 縣 (昭和五年十月)

- 一、プーバルト氏靱帯とは如何、竝に其下を通過する主なる血管神経の名稱を問ふ
- 一、左記に就て答へよ
  - (イ) 神経の傳達機能とは何ぞ
  - (ロ) 小腦の機能を問ふ
- 一、手術局部の消毒は如何にせば完全なりや、其方法順序を記せ

- 一、理學的消毒方法に就き各優劣の點を詳記せよ (以上鍼灸術共通)

- 一、上膊部に於ける穴名を列舉し其禁鍼を示せ
- 一、神経性心悸亢進の原因、症候及鍼療法を問ふ (以上鍼術學說)

- 一、上膊部に於ける穴名を列舉し其禁灸を示せ

- 一、脚氣(神経性)の症狀及び灸療法を問ふ(以上灸術學說)

- 一、神經痛に對する施鍼法

- 一、膀胱疾患に對する施鍼法

- 一、氣管枝疾患に對する施灸法

- 一、脊髓疾患に對する施灸法 (以上實地)

熊 本 縣 (昭和五年十月)

- 一、胸廓を構成する骨竝に胸腔内臟器の名稱を挙げよ
- 一、脾臟の生理的作用を記せ
- 一、左の二項に就きて知る處を記せ
  - (イ) 交感神経の所在、分佈

(ロ)大腿に分佈する血管

- 一、消毒薬の種類及び藥品に就て使用法を詳記せよ
- 一、施術上消毒不完全の場合には如何なる障碍を起すものなるや
- 一、手の五里、正營、肩井、懸鐘の解剖的部位竝に其經名を問ふ (以上鍼灸術共通)
- 一、刺鍼を施し能はざる部位を問ふ (以上鍼術)
- 一、灸の血液に及ぼす影響を記せよ (以上灸術)
- 一、深腓骨神経の部位竝に徑路にある穴及び刺鍼
- 一、黄疽の灸治の適否 (以上實地)

秋田縣 (昭和五年十月)

- 一、二頭膊筋、三頭膊筋、内膊筋の起始、附着及び作用
- 一、腎臓の位置、構造及び生理的作用
- 一、顔面神経麻痺の症状及び療法
- 一、急性筋肉ロイマチスの症状及び療法 (以上鍼灸術共通)

兵庫縣 (昭和五年十一月)

- 一、横紋筋と滑平筋との區別
- 一、中樞性麻痺と末梢性麻痺との差を問ふ
- 一、用鍼の種類及び鍼の使用法の特徴を問ふ
- 一、脾神経痛に對する刺鍼上の注意如何
- 一、消毒の必要なる理由を記せ (以上鍼術)
- 一、皮膚の作用を問ふ
- 一、肩の凝の成因を述べよ
- 一、灸術の醫治的效用を問ふ
- 一、胃アトニー(胃衰弱)に對する施灸法如何
- 一、煮沸消毒につき注意すべき事項を記せ (以上灸術)

福島縣 (昭和五年十月)

- 一、皮膚の構造及作用
- 一、交感神経の分佈及び作用

一、消毒とは如何其の目的

- 一、蒸氣消毒に就て
- 一、消毒薬の名稱及び石炭酸の稀釋法
- 一、灸痕化膿したる時の處置
- 一、刺鍼に消毒せざれば如何なる危害ありや
- 一、肋間神経痛の症候、鍼灸治療法
- 一、腹部正中線の穴名其部の神経、脈管禁穴を挙げよ
- 一、折鍼は如何なる場合するや、又折鍼時の處置 (以上鍼灸術共通)
- 一、階段の灸を問ふ
- 一、刺鍼法と拔鍼法 (以上鍼灸術實地)

山形縣 (昭和五年八月)

- 一、肘窩を構成する筋の名稱及び之を通過する主なる血管神経の名稱を記せ
- 一、延髓の位置、形状及び諸中樞を記せ

一、天柱、大迎、章門の部位、經名を記せ

- 一、後頭部に於ける經穴の名稱及び其部位を記せ
- 一、皮膚消毒薬品の名稱及び其使用法を記せ (以上鍼術)
- 一、腰部禁穴の名稱及び位置を實地に指壓せよ
- 一、刺鍼手技 (以上鍼實地)
- 一、頭蓋及び顔面を構成する骨の名稱を問ふ
- 一、遠路旅行の際身體の内何れの部が最も疲労するか、其筋肉の名稱を問ふ
- 一、後頭に於ける禁灸穴の名稱及其位置を問ふ
- 一、灸痕部より侵入し易き傳染病名及び其の豫防法を問ふ (以上灸術)
- 一、貧血、瘰癧の施灸法
- 一、膝關節附近にある禁灸穴を實地に指壓せよ (以上灸實地)

北海道 (昭和五年九月)

- 一、大胸筋及び三角筋の起止、停止竝に分佈神経を記せ
  - 一、消化作用に就て知れる處を記せ
  - 一、知覺神経枝に對する鍼灸の生理的作用に就て記せ
  - 一、上肢に於ける刺鍼點を解剖學的名稱を以て記せ
  - 一、鍼の消毒方法を問ふ
  - 一、昇汞を消毒薬として使用する際の注意を述べよ  
(以上鍼術)
  - 一、二頭膊筋及び長腓骨筋の起始、停止竝に分佈神経を問ふ
- 問ふ
- 一、發汗作用と神経機能との關係を記せ
  - 一、灸治の適應症及び禁忌症を挙げよ
  - 一、坐骨神経痛の灸治療法
  - 一、施術部の消毒方法
  - 一、左記傳染病々原菌の侵入門を問ふ  
(イ)腸チフス (ロ)丹毒 (ハ)デフテリア (ニ)赤痢  
(以上灸術)

長野縣 (昭和五年十月)

- 一、鎖骨の位置、形狀、聯接に就て記せ
  - 一、腹部諸筋の名稱及び作用を述べよ
  - 一、小腸に於ける消化作用を記せ
  - 一、半身不隨とは如何なる病か
  - 一、肋間神経痛に對する刺鍼點及び灸點の解剖的部位を記せ
  - 一、法定消毒薬四種を挙げ其の鍼灸施術に際しての使用方法を記述せよ (以上鍼灸術共通)
  - 一、坐骨神経痛に對する處置と刺鍼 (鍼實地)
  - 一、神経衰弱の症候及び處置、治療穴の指壓 (灸實地)
- 山口縣 (昭和五年十一月)
- 一、胸腔内臟器各種の位置及び作用
  - 一、坐骨神経の起始、經過

- 一、消毒の目的及び消毒法の種類
- 一、鍼灸療法を經穴に基く理由、竝に結核症に對する治療的價値を問ふ (以上鍼灸術共通)
- 一、次に示す穴名の解剖的部位竝に其の摘要を問ふ  
前頂、雲門、會陽、承扶、築賓、三陰交、曲差、迎香
- 一、膀胱麻痺の原因症候療法 (以上鍼術)
- 一、咽頭加答兒に對する灸治法と禁灸穴を挙げよ
- 一、子宮内膜炎の原因症候療法
- 一、肘關節部の經穴名と部位指壓 (以上鍼實地)
- 一、臍より命門に至る横線上の經穴名を述べよ  
(以上鍼灸術共通)
- 一、肺炎に刺鍼せば如何なる徵候を呈するか
- 一、受験者自己の下腿に一鍼、委員の下腿に一鍼せしむ  
(鍼實地)

富山縣 (昭和五年十月)

- 一、脚氣の灸治法
  - 一、偏頭痛の症候及び灸治法 (以上灸術)
  - 一、尺骨神経麻痺の症候及び刺鍼法
  - 一、胃擴張の症候及び刺鍼法 (以上鍼術)
  - 一、筋肉の種類及び作用
  - 一、動脈血、靜脈血
  - 一、理學的消毒法を問ふ
  - 一、アルコールの性状及び應用 (以上鍼灸術共通)
- 愛知縣 (昭和五年十月)
- 一、腋窩を構成する諸筋の名稱及び位置
  - 一、皮膚の作用
  - 一、横隔膜痙攣の原因及び症候
  - 一、陽交、勞宮、中極の解剖的部位及び血管、神経に就て記せよ (以上鍼術)
  - 一、人體に於ける主要なる關節の名稱及び其の種類



- 一、神經の反射作用とは如何及び其例
- 一、灸術を施すに當り如何なる消毒を必要とするか
- 一、尿道加答兒の原因及び症候竝に療法を記せ
- 一、顔面頭蓋部に於ける禁灸の經穴名を列舉せよ  
(以上鍼術)
- 一、坐骨神經麻痺は如何なる疾病か
- 一、半身不隨の原因を問ふ (以上鍼術)
- 一、便秘に對する治療法を問ひ刺鍼の深さと目的を問ふ
- 一、股神經痛の治療法、何れも部位を述べ指壓せしむ、股神經痛に刺鍼せしめ刺鍼の度合と深さとの手技を問ふ (以上鍼實地)
- 一、淋巴液とは如何なるものをいふか

山 梨 縣 (昭和五年三月)

- 一、上膊筋の名稱竝に起始停止を述べよ
- 一、三叉神經の分佈區域を述べよ

- 一、淋巴腺の作用及其の主なる所在を問ふ
  - 一、化學的消毒法に就て述べよ
  - 一、左の經穴の解剖的位置を述べよ  
百會、大迎、肩外、三陰交 (以上鍼灸術共通)
  - 一、腦溢血の原因、症候及療法 (鍼灸)
  - 一、肋間神經痛の原因、症狀及療法 (鍼術)
- 福 井 縣 (昭和五年四月)
- 一、左の位置を問ふ  
(1) モーレンハイム氏窩 (2) 股輪 (3) パルトリン氏腺
  - 一、内呼吸と外呼吸との區別を問ふ
  - 一、アルコールを以てする鍼具の消毒方法を詳記せよ
  - 一、施鍼に際し消毒せざる場合に發する疾病の種類及療法を問ふ
  - 一、撓骨神經麻痺の症狀を問ふ
  - 一、狭心症の原因及症狀を挙げよ (以上鍼術)

秋 田 縣 (昭和五年四月)

- 一、眼窩を構成する骨の名稱を挙げよ
- 一、動脈血と靜脈血との區別を問ふ
- 一、消毒と清潔の差異を記せ
- 一、熱の消毒的作用に就て記せ
- 一、黄痘とは如何なる疾病か
- 一、股神經痛の原因及症候を問ふ

埼 玉 縣 (昭和五年四月)

- 一、上膊の筋肉及之に分佈する神經の名稱を記せ
- 一、心臟の位置及機能を問ふ (以上鍼灸術共通)
- 一、脚氣に對する施術方式を問ふ
- 一、胃痛に對する鍼治法を記せ
- 一、麻痺及痙攣に刺鍼の有效なる理由を記せ
- 一、消毒の必要なる理由を記せ (以上鍼術)
- 一、灸治の有效なる理由を記せ
- 一、施灸の禁忌症を記せ

熊 本 縣 (昭和五年四月)

- 一、半身不隨症に對する施術上の注意を問ふ
  - 一、消毒の必要なる理由を記せ
  - 一、大腿に於ける筋肉の名稱及其の起始附着
  - 一、心臟の位置、構造及機能
  - 一、脚氣の症候及鍼、灸術を記せ
  - 一、胃瘕の症候及び鍼、灸術を記せ (以上鍼灸術共通)
- 熊 本 縣 (昭和五年四月)
- 一、泌尿器とは如何なるものか竝に腎臟の位置、形狀を記せ
  - 一、唾液の消化作用を問ふ
  - 一、消毒薬の種類及び手指消毒の順序方法
  - 一、第五肋間の穴名を挙げよ
  - 一、前頸部に於ける穴名及び禁鍼禁灸穴名を問ふ  
(以上鍼灸術共通)

靜岡縣 (昭和五年四月)

- 一、坐骨神經の徑路を記せ
- 一、胃の位置及び形狀 (以上鍼灸術共通)
- 一、知覺脱出に對する鍼治法
- 一、胃痙攣を起し易き場合、又は之に最も奏效する刺鍼點を問ふ (以上鍼術)
- 一、慢性胃加答兒に對する施灸點及び其有效なる理由
- 一、灸の生理的作用を問ふ (以上灸術)

滋賀縣 (昭和五年四月)

- 一、關節とは如何に其の種類を記せ
- 一、動脈血と靜脈血との區別を問ふ
- 一、刺鍼の際注意すべき事項
- 一、肝臟の位置及形狀
- 一、消化液の名稱及作用
- 一、灸痕の生ずる理由

佐賀縣 (昭和五年五月)

- 一、神經組織とは何ぞや
- 一、皮膚の分泌に就て記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、肋膜炎の症候及び灸治を記せ (灸術)
- 一、流行性耳下腺炎の症候及び鍼治を記せ (鍼術)
- 一、神經性心悸亢進の原因、症候並に灸治如何 (灸術)
- 一、脊髄癆の原因、症候と鍼治の適否 (鍼術)
- 一、アルコールと石炭酸との應用上の差異如何 (鍼灸共通)

臺灣臺北州 (昭和六年三月)

- 一、腦神經の名稱を挙げ且運動知覺の區別を示せ
- 一、左の穴の經名を示し且解剖的位置を記せ
- 一、曲池、三里、翳風、腎兪、客主人、大椎
- 一、顔面神經麻痺の症候及び療法を記せ
- 一、消毒藥の種類及び其用法を記せ (以上鍼灸術共通)

山梨縣 (昭和六年三月)

- 一、脚氣に對する鍼灸治療法を記せ
- 一、三里、懸鐘に刺鍼せしむ (以上鍼灸實地)
- 一、咀嚼筋の名稱並に起始停止
- 一、胃の位置、形狀及び分佈神經の名稱
- 一、交感神經の構造並に作用
- 一、陽白、百會、水泉、曲池、三陰交の解剖的部位
- 一、消毒の意義並に鍼術に關する消毒法 (以上鍼灸術共通)
- 一、撓骨神經麻痺の原因、症候、療法 (鍼術)
- 一、夜尿症の原因、症候、療法 (灸術)
- 一、夜驚症の原因、症候、並に療法、前膊、腰部刺鍼、孔穴指壓 (以上鍼灸術共通)

茨城縣 (昭和六年四月)

- 一、腦神經の名稱及び機能を上方より順述せよ
- 一、消毒藥の具備すべき條件如何

大阪府 (昭和六年四月)

- 一、大腿筋の起始點、作用、並に血管を問ふ (以上鍼術)
- 一、皮膚の構造を圖解せよ
- 一、尿につきて知る處を述べよ
- 一、アルコール消毒について述べよ (以上灸術)
- 一、副神經の起始、經過及び同神經の分佈する筋の名稱を記せ
- 一、淋巴液とは如何、其の效用を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、刺鍼の各手技を挙げ、之を詳記せよ
- 一、曲池、承筋及び痞根の三穴に就て知る處を列記せよ (以上鍼術)
- 一、灸の化膿する理由及び化膿を防止する方法を列記せよ
- 一、玉枕、天井、陷谷、氣穴、陰市の解剖學的部位並に禁穴の區別及び其中三穴の應用を記せ (以上灸術)
- 一、消毒の目的を記せ

- 一、酒精は如何なる作用により細菌を死滅せしむるやを問ふ (以上鍼灸術共通)
- 一、顔面神経麻痺の鍼治法
- 一、胃痛に對する鍼治法 (以上鍼實地)
- 一、偏頭痛の灸治法
- 一、下痢に對する灸治法 (以上灸實地)

兵 庫 縣 (昭和六年四月)

- 一、食物消化吸収の主要を説明せよ
- 一、血液の性状成分を問ふ
- 一、ヘッド氏帯に刺鍼せば治療上如何なる影響を與へ得るか
- 一、神経痛に對し鍼の奏效する場合を問ふ
- 一、蒸氣消毒に就て知る處を詳記せよ (以上鍼術)
- 一、體温は如何にして調節せらるるか
- 一、分泌と排泄の區別を例を擧げて説明せよ
- 一、灸の心臟機能に及ぼす影響を問ふ

- 一、筋ロイマチスの灸治法如何
- 一、瓦斯消毒に就て詳記せよ (以上灸術)

福 井 縣 (昭和六年四月)

- 一、頸中央部の横断面を圖解せよ
- 一、眼の物體を明視し得る理由を問ふ
- 一、舞踏病の症狀を問ふ
- 一、鍼術施行に際して行ふべき最も有效なる消毒法を順序的に記せ
- 一、副神経麻痺の原因及び症狀を問ふ (以上鍼術)

京 都 府 (昭和六年四月)

- 一、心臟の内部所見を記し併せて各部分の作用を記せ
- 一、前膊前側(淺層)筋の名稱を擧げ其起始停止部並に其筋肉に分佈する筋肉の名稱を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、肋膜炎の灸療法に就て左の事項を述べよ
- (イ)施灸の時期 (ロ)施灸の目的 (ハ)施灸の部位

- (穴名及び其の部位) (ニ)其他必要事項
- 一、灸痕化膿の防止法如何 (以上灸術)
- 一、胸部刺鍼法及び刺鍼上注意すべき事項を擧げよ
- 一、足の太陽膀胱經の中、大腿及び下腿にある經穴の部位と名稱

- 一、理學的消毒法の種類、各消毒の際の注意
- 一、手指消毒の目的及び其順序と方法を記せ (以上鍼灸術共通)

埼 玉 縣 (昭和六年四月)

- 一、頭部に存在する血管、神經及び筋の名稱を記せ
- 一、交感神經の機能を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、施灸部化膿は如何なる場合に起るや
- 一、灸の禁忌部位を記せ
- 一、灸治の血管、神經に及ぼす作用を記せ
- 一、消毒を施す理由を記せ (以上灸術)

- 一、鍼術は如何なる疾患に適すや
- 一、鍼術の禁忌すべき部位及び場合を記せ
- 一、誘導刺鍼は如何なる場合に應用するや
- 一、消毒を施す理由を記せ (以上鍼術)

香 川 縣 (昭和六年四月)

- 一、正中神經の經過分佈如何
- 一、消化器の名稱及び其作用
- 一、施術に際する消毒法を詳記せよ
- 一、咀嚼筋に就き詳記せよ。及び神經の名稱と經過如何
- 一、臍に接近せる穴名を順序に従ひ十穴を列べ
- 大迎、五里、心兪、臑中、大敦の部位
- 一、鍼の刺戟の強弱につき詳記せよ
- 一、胃痙攣の灸療法の目的及び方法

徳 島 縣 (昭和六年四月)

- 一、腹腔内に存在する各臓器の名稱及び位置、形狀竝に腹腔内を通過する主要なる血管の名稱を問ふ
- 一、小腸の化學的消化作用を記せ
- 一、施術の際消毒の必要なる所以を述べ消毒藥の種類竝に其の溶解法を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、施鍼の血管竝に血液に及ぼす影響を問ふ (以上鍼術)
- 一、三里、五里の部位を記し、竝に此部に施灸すれば如何なる作用ありや (以上灸術)

愛知縣 (昭和六年四月)

- 一、膀胱の構造及び分佈する神経
- 一、胃の生理的作用
- 一、消毒藥の名稱及び其濃度
- 一、局所療法の適應症と其奏效の理由
- 一、神経痛と神経炎との區別、何れが適應症なるか及び奏效する理由 (以上灸術)

福岡縣 (昭和六年四月)

- 一、大腿中央を横斷すると如何なるものを切るや
- 一、體温の調節機能を問ふ
- 一、石炭酸、昇汞、酒精の消毒上の優劣を記せ
- 一、猿手(熊手)鷲手の原因(如何なる神経の疾患か)治療穴名
- 一、前腹壁より刺鍼して奏效する胃疾患及び其理由及禁忌症を問ふ (以上鍼術)
- 一、白血球の作用及び生成に就て
- 一、膀胱麻痺の原因及び灸治法
- 一、灸を禁すべき部位を記せ
- 一、腰痛に對する灸治法を挙げよ (以上灸術)
- 一、慢性神経性頭痛症
- 一、三十七歳の人妻、無職、貧血性、左半頭痛及び左眼充血す、壓痛點なし、右診斷、目的及び療法、穴名

試問指壓せしむ (以上灸實地)

- 一、腹部に於て腹膜外にある器官の名稱、位置及び機能を問ふ
- 一、胃擴張の鍼治法
- 一、足の陽明胃經に屬する禁鍼穴名及び其解剖的部位を記せ
- 一、施鍼に際し、術者は如何なる準備を要するか (以上鍼術)
- 一、ランニング選手、外股皮下神経痛、鍼二分間以内 (以上鍼實地)

石川縣 (昭和六年四月)

- 一、(イ)交感神経に就て知る處を記せ
- 一、(ロ)腸の位置各部の名稱及構造機能を記せ
- 一、各種消毒法の長所短所を記せ
- 一、咳嗽に對する鍼灸治法 (以上鍼灸術共通)

滋賀縣 (昭和六年四月)

- 一、背部に分佈する筋の名稱を問ふ
- 一、顔面神経麻痺の症狀及鍼治法
- 一、消毒藥の種類及び其使用法 (以上鍼術)
- 一、腎臓の位置及び機能
- 一、胃痛に對する穴名
- 一、昇汞水使用時の注意 (以上灸術)

和歌山縣 (昭和六年五月)

- 一、胃の位置及び各部の名稱竝に神経を問ふ
- 一、皮膚感覺の性質に就て述べよ
- 一、消毒藥には常に水分を必要とする理由を詳記せよ
- 一、化學的消毒の鍼灸營業者として使用する範圍及び利害 (以上鍼灸術共通)
- 一、小兒斜差の灸穴に就て知る處を記せよ

- 一、夜盲症の原因、症候、療法 (以上灸術)
- 一、玉枕、神門、箕門の解剖的部位及び禁鍼穴を問ふ
- 一、常習便秘の原因、症候、療法 (以上鍼術)
- 一、横隔膜痙攣の原因、症候、鍼治法
- 一、腸痛の原因、症候、痛痛の種類
- 一、曲池に刺鍼一寸行ふ (以上鍼實地)
- 一、肋間神経痛の原因、症候、鑑別、治療法
- 一、黄疸の原因、症候、治療法
- 一、肝愈、膽愈、脾愈の取穴 (以上灸實地)

奈良 縣 (昭和六年五月)

- 一、尺骨神経の起始、經過及び分佈を記せ
- 一、胃の構造竝に其機能を記せ
- 一、鍼術に依る誘導法とは如何且つ其の手技を説明せよ
- 一、手の指に有する經穴の名稱、部位竝に應用する疾患を挙げよ

鹿兒 島 縣 (昭和六年五月)

- 一、刺鍼時に於ける消毒の必要なる理由を説明せよ
- 一、クレゾール水の特質を記し、併せて其應用を述べよ (以上鍼術)
- 一、胸部淺層筋の起始、停止竝に之に分佈する神経を記せ
- 一、心臓の構造竝に其機能を記せ
- 一、風池、神封、大横、臂臑、大敦の部位と應用する疾患を挙げよ
- 一、灸の治療的作用に就て記せ
- 一、理學的消毒法の二種に就て記せ
- 一、昇汞水の調製法竝に應用を述べよ (以上灸術)

- 一、骨の構造竝に其主要成分に就き其大要を挙げて説明せよ
- 一、尿の分泌竝に排泄に就き其大要を記せ

承山、上謬、日月、痞根 (以上灸術)

佐 賀 縣 (昭和六年六月)

- 一、腸管の位置、構造竝に各部の名稱を記せ
- 一、蛋白質の消化を記せ
- 一、側腹部に於ける經穴の名稱と解剖學との關係を記せ
- 一、胃擴張の症候竝に其鍼治法及び灸治法を記せ
- 一、フォルマリンの性状及び應用を記せ (以上鍼灸術共通)

栃 木 縣 (昭和六年五月)

- 一、僧帽筋の起始、停止及び分佈する神経の名稱
- 一、皮膚の構造及び效用を記せ
- 一、鍼術に消毒の必要なる理由及び術者の手指と被術者の患部は何れを先に消毒するや
- 一、鍼術に用ゆる消毒薬二三の名稱及び製法を記せ (以上鍼灸術共通)

- 一、消毒の目的及び人體に應用せらるべき消毒薬品の名稱を記せ
- 一、治療鍼の細大長短と刺戟との關係に就て例を挙げて説明せよ
- 一、左に示す經穴の位置及び解剖的所見竝に該穴に知覺過敏帶の發見するは何疾患の場合なるや  
風門、附分、魄戶、屋翳、身柱、諍譖、臑中、巨闕
- 一、夜尿症に對する鍼治療法の可否及び其理由を述べよ (以上鍼術)
- 一、唾液腺及び唾液に就き知る所を記せ
- 一、筋肉疲勞の原因竝に恢復法に就て説明せよ
- 一、喀痰の處置及び日光消毒に就て説明せよ
- 一、施灸の補體竝に調理素作用に及ぼす影響如何
- 一、肺結核に對する施灸の奏效する時期竝に應用せらるる穴名を記せ
- 一、左の穴の部位竝に解剖的所見を述べよ

岩手縣 (昭和六年五月)

- 一、前脛骨動脈の起始經過分佈を示せ
- 一、體温の調節を記せ
- 一、肋間神経痛に對する鍼灸治療法
- 一、腹水の原因、症候及び鍼灸治療法 (以上鍼灸術共通)
- 一、肩胛下神経痛及び腸痛の原因症候及び鍼灸治療法 (鍼は刺し灸は穴を壓す) 消毒藥の調査及び使用時の注意 (以上鍼灸實地)

長崎縣 (昭和六年五月)

- 一、頸部に存在する神経の名稱を記せ
- 一、延髓の機能を記せ
- 一、靈墟、陰包、顳髻の位置及び其の部に於ける筋、血管、神経との關係を記せ
- 一、鍼術の神経機能に及ぼす作用に就て記せ

- 一、防腐法、制腐法、消毒法の區別を記せ
- 一、鍼の消毒に必要な消毒藥の名稱並に其の稀釋方法を記せ (以上鍼術)

- 一、顔面神経の經過を記せ
- 一、皮膚の生理的作用を記せ

- 一、腋門、帶脈、目窓の位置及び其部に於ける筋、血管、神経の關係を記せ
- 一、咳嗽を伴ふ疾病を灸術の適應するものと、適應せざるものとに別けて列記せよ

- 一、昇求水の調製法並に其の使用上の注意を記せ

- 一、灸痕より侵入し易き傳染病の名稱並に其の豫防方法を記せ (以上灸術)

長野縣 (昭和六年五月)

- 一、腋窩を構成する筋の名稱を各部につき外側より記せ
- 一、充血と鬱血との差異及び之等に因る病名を記せ

- 一、皮膚の生理的作用を記述せよ

- 一、左記の經穴の解剖的位置を記せ

三焦俞、小腸俞、少海 (灸術)

靈臺、五里(上肢)、志室 (鍼術)

- 一、常習便秘に對する鍼灸治法を記せ

- 一、消毒と清潔との意義を簡明に記せ (以上鍼灸術共通)

群馬縣 (昭和六年五月)

- 一、鼻腔を構成する骨の名稱を記せ

- 一、横隔膜の裂孔を通過する血管及び神経を問ふ

- 一、肝臓の生理的作用を問ふ

- 一、齒痛の刺鍼法を記せ

- 一、筋肉中に折鍼せば如何なる障害を起すや

- 一、膀胱麻痺の鍼治法を問ふ (以上鍼術)

- 一、腋窩を構成する筋の名稱、通過する血管神経を問ふ

- 一、迷走神経の起始及び分佈する内臓を示せ

- 一、皮膚の生理的作用を示せ

- 一、筋肉に發する病は何なるや

- 一、大腿に於ける禁灸穴を挙げよ

- 一、月經痛に對する灸治法を記せ (以上灸術)

宮崎縣 (昭和六年六月)

- 一、泌尿器官の名稱及び尿の分泌機能に就て記せ

- 一、三叉神経の分佈に就て詳細に説明せよ (以上鍼灸術共通)

- 一、消毒の方法及び主なる消毒藥の稀釋法を問ふ

- 一、胃痙攣、胃潰瘍、神経性腸痛、盲腸炎、膽石痛、腎石痛、以上の疾病に就て各々其腹痛の特徵及び刺

- 鍼の禁忌適應を述べよ

- 一、腋中、靈臺、大迎、幽門の解剖的部位並に禁鍼要穴の區別 (以上鍼術)

一、尿道加答兒の灸治法並に施灸部位穴名如何 (以上灸術)

東京府 (昭和六年三月)

- 一、循環器の名稱及び機能は如何
- 一、胃の機能及び之に分佈する神経の名稱
- 一、石炭酸水の濃度及び消毒用途に就て記せ
- 一、煮沸消毒方法を述べよ (以上鍼術)
- 一、上膊筋の名稱
- 一、三叉神経の徑路、及筋との關係
- 一、昇汞水使用時の注意如何
- 一、消毒方法の種類を問ふ (以上灸術)

秋田縣 (昭和六年五月)

- 一、胸廓を構成する骨の名稱及び联接
- 一、肝臓の構造及び生理的作用

一、脚氣の症狀及び鍼灸治療法を記せ

一、坐骨神経痛の症候及び鍼灸治療方法を記せ

一、アルコール及び昇汞水の使用方法及び溶解法

一、且つ使用に際しての兩者の優劣を述べよ

一、頸部に於て禁鍼穴ありや、ありとせば其の穴の名を述べよ (以上鍼灸術共通)

一、頸部任意の場所に取穴して雀啄術及び單刺術を施せ (以上鍼實地)

一、前膊任意の箇所に取穴して艾灸をつけよ (以上灸實地)

高知縣 (昭和六年五月)

- 一、淋巴及び淋巴腺に就て知る所を記せ
- 一、血管腺(内分泌腺)の種類、其の作用を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、膽俞、膝關の位置並に筋、血管、神経の關係を記せ
- 一、膽石症の症狀、鍼治法を記せ (以上鍼術)
- 一、蒸氣消毒とは何ぞ、其の要約注意を記せ

岩手縣 (昭和六年月不詳)

- 一、頸部に於ける貴要血管に就て記せ (鍼術)
- 一、上膊神経の徑路及び其枝別に就て記せ (灸術)
- 一、脾臓の位置、構造及び機能を問ふ
- 一、坐骨神経痛の原因症候及び療法如何
- 一、下腹部に於ける穴名及び其の部位を記せ
- 一、鼓腸の原因及び症候、其の療法に就て記せ (以上鍼灸術共通)

山形縣 (昭和六年八月)

- 一、下腿後側筋の名稱を記せ
- 一、赤血球の生理的作用を記せ
- 一、膝關窩に於ける穴名及び部位を記せ
- 一、下腿部に激痛ある患者の鍼治に就て如何なる方法を取るか

一、瓦斯消毒法に就て知る處を記せ (以上鍼灸術共通)

一、奇穴の著名なるもの三四を挙げ、併せて風市の部位主治を記せ

一、氣管枝喘息の症候、灸治法を問ふ

一、耳下腺炎の原因、症候、鍼治法

一、小兒急性脊髓前角炎の原因、症候、鍼治法 (以上鍼實地)

一、階段の灸の取穴法

一、神経性心悸亢進の原因症候灸治法 (以上灸實地)

静岡縣 (昭和六年月不詳)

- 一、腸の構造及び諸腺の名稱を問ふ
- 一、消毒薬の種類稀釋度 (以上鍼灸術共通)
- 一、太陽叢の部位
- 一、腸痙痛に於ける鍼治法 (以上鍼術)
- 一、喘息の灸治法
- 一、上髌、曲池、膝眼の部位、應用の範圍 (以上灸術)

- 一、化學的消毒法に手指の消毒法を記せ (以上鍼術)
- 一、刺鍼の手法、頸部髮際に於ける穴名禁鍼を實地に就て指示せよ
- 一、上膊諸筋の名稱を問ふ (以上鍼實地)
- 一、分泌物排泄物に就て記せ
- 一、足背及び足趾に於ける灸穴名及び部位を記せ
- 一、腦溢血患者の施灸の時期及び穴名を記せ
- 一、灸治に應用する消毒藥の名稱及び其用法を記せ (以上灸術)
- 一、施灸方法、臍の上下左右に於ける灸穴名及び禁穴名を實地に就て指示せよ (以上灸實地)

鳥 取 縣 (昭和六年九月)

- 一、上肢の動脈及び靜脈を説明せよ
- 一、腹腔内臓器の名稱及び其機能
- 一、鍼術者の使用する主なる消毒藥を挙げ其稀釋法を記せ

- 一、「アルコール」、「酒精」の區別を述べよ
- 一、酒精の消毒藥として奏效する理由如何 (以上鍼術)
- 一、鍼は血管に如何なる作用をするや
- 一、妊娠時に刺鍼を禁すべき部位と理由、及び其穴を指壓せしむ
- 一、三叉神經痛に對し刺鍼點及び指壓せしむ (以上鍼實地)
- 一、胸部を構成する骨の名稱、及び胸腔内に存在する臓器の名稱
- 一、顔面神經の經過及び其の分佈する器官を説明せよ
- 一、内務省令鍼術灸術營業取締規則中施鍼時に對してのみ消毒規定ありて施灸時に對し之のなき理由を述べ、若し消毒の必要あらば其方法に就き詳述せよ
- 一、理學的消毒法と化學的消毒法とを説明せよ (以上灸術)
- 一、脚氣の原因、症候及び脚氣八處の穴指壓

- 一、肺結核の初期に於ける灸治法及び灸の奏效理由

- 一、副辜丸炎の原因灸治點指壓 (以上灸實地)

北 海 道 (昭和六年九月)

- 一、門靜脈の特徴及び經過を記せ
- 一、延髓の自働的中樞及び名稱を記せ
- 一、鍼の興奮作用を説明せよ
- 一、便秘症に對する療法の大意を記せ
- 一、刺鍼後に於ける小隆起及び紫斑を呈せる理由を記せ
- 一、鍼により媒介せらるゝ傳染病の名稱を記せ (以上鍼術)
- 一、總頸動脈の經過を記せ
- 一、肺循環を説明せよ
- 一、遺尿症に對する療法の大意を記せ
- 一、灸治に於ける直接刺戟療法の作用を説明せよ
- 一、化膿菌の傳染徑路及び之によりて惹起せらるゝ疾病

の名稱を列記せよ

- 一、飛沫傳染病の名稱を列記せよ (以上灸術)

東 京 府 (昭和六年九月)

- 一、泌尿器の名稱
- 一、運動を主宰する神經の名稱
- 一、クレゾール石鹼液に就て記せ
- 一、器具の消毒方法如何 (以上鍼術)
- 一、上膊筋の名稱
- 一、皮膚の生理的作用
- 一、蒸氣消毒は如何なるものに適するか
- 一、消毒とは如何なることをいふか (以上灸術)

青 森 縣 (昭和六年九月)

- 一、上膊骨に起始停止する筋の名稱、及び各筋に分佈する神經の名稱を記せ



- 一、血液運行の原因を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、灸痕の化膿せる處置法を問ふ
- 一、胃加答兒に對する壓痛點と要穴を記せ (以上灸術)
- 一、清潔と消毒の異なる點を記せ
- 一、フォルマリンの調製法及び應用に就て記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、鍼術に於て最も有效なる主なる病名を擧げよ
- 一、利尿筋の麻痺症狀に對する鍼治法と要穴を記せ (以上鍼術)

德 島 縣 (昭和六年十月)

- 一、脾臓の位置、形狀及び其構造を記せ
- 一、頭蓋底を構成する骨の名稱及び腦神經の種類を記せ
- 一、榮養素に就て説明せよ
- 一、自働中樞の種類並に其位置を記せ
- 一、クレゾール水及び昇汞水の溶解法並に使用上の注意を記せ

- 一、顔面神經麻痺の症候並に之に對する施鍼の主治穴を擧げ其奏效の理由を記せ (以上鍼灸術共通)

宮 城 縣 (昭和六年十月)

- 一、三叉神經の起始分佈及び作用
- 一、血壓に就て知る處を記せ
- 一、炎症に對し鍼灸施行の可否
- 一、施鍼並に灸治禁忌の部位を擧げよ
- 一、脚氣病の徵候及び其處置法を問ふ
- 一、業務上常に多く用ゆる消毒藥三種を擧げ其使用方法を詳記せよ (以上鍼灸術共通)

富 山 縣 (昭和六年十月)

- 一、腎臓の位置、形狀並に機能
- 一、消化液の名稱及び分泌する臓器を記せ
- 一、皮膚の傳染病に就て記せ

- 一、消毒法の種類を詳記せよ (以上鍼灸術共通)
- 一、身體に刺鍼の及ぼす影響を記せ

- 一、腓骨神經麻痺の原因及び刺鍼法 (以上鍼術)

- 一、灸の身體に及ぼす影響を記せ

- 一、慢性腸加答兒の灸治法 (以上灸術)

- 一、胃下垂の症候治療穴、坐骨神經痛の症候と治療穴、

顔面神經麻痺の症候と治療穴、耳鳴の症候と治療穴  
(以上鍼灸術實地)

島 根 縣 (昭和六年十月)

- 一、迷走神經の起始、經過分佈
- 一、横紋筋及び平滑筋とは何ぞや、及び其例各二を擧げよ (以上鍼灸術共通)
- 一、腰部刺鍼に際し留意すべき事項
- 一、腦出血後の半身不隨症に對する刺鍼法及び主治穴 (以上鍼術)
- 一、灸の醫治的效用一般を述べよ

- 一、腦出血後の半身不隨症に對する施灸法及び主治穴 (以上灸術)

- 一、(イ)消毒の意義

(ロ)三%クレゾール水五百瓦中にはクレゾール何瓦含有するや

- 一、理學的消毒法の種類 (以上鍼灸術共通)

- 一、鼻加答兒に對する刺鍼の部位、瘰癧炎に對する治療方法、肩背に一鍼をする (以上鍼實地)

- 一、眼瞼縁炎に對する施灸點、月經不順及び過多症に對する治療方法 (以上灸實地)

大 阪 府 (昭和六年九月)

- 一、正中神經の起始、經過を詳記せよ
- 一、血壓に就て問ふ
- 一、煮沸消毒の方法を詳記せよ
- 一、消毒藥としての昇汞水の利害を述べよ (以上鍼灸術共通)

- 一、鍼の分量(刺鍼の度)と其應用を問ふ
- 二、膝關節の周圍にある穴名を挙げ其中四穴に就き解剖的關係を述べ禁鍼穴あらば是を指摘せよ(以上鍼術)
- 一、灸術の疾病豫防に對する價値を述べよ
- 一、肩外俞、志室、中極、陽池、京門の五穴に就き知る所を列記せよ(以上灸術)
- 一、小兒夜驚症に對する鍼療法
- 一、腰部に於ける鍼療法(以上鍼實地)
- 一、脚氣の灸治療法
- 一、月經困難症の灸治療法(以上灸實地)

愛 知 縣 (昭和六年十月)

- 一、交感神経の所在及び分佈を問ふ
- 一、血液循環を説明せよ
- 一、鍼術に要する消毒薬を列挙し其用法を明示せよ
- 一、胃の收縮を起すに足る可き刺鍼部位と同部の興奮術

に由つて治癒し得べき疾病を挙げよ

- 一、神経衰弱の主徴六つを挙げ且つ其鍼治法の目的につき説明せよ(以上鍼術)
- 一、脊柱骨の數及び區別を問ふ
- 一、手指の完全なる消毒法を問ふ
- 一、慢性腸加答兒灸治療法の施灸部位と、其目的及び奏效の理由を挙げよ
- 一、左記穴名に就き解剖的部位及び血管神経、並に禁灸の部位を問ふ  
水泉、委中、五樞、肩貞、陽池、厥陰俞(以上灸術)
- 一、三角筋ロイマチスの刺鍼部位一穴を挙げて、一鍼せよ、其手技、奏效理由を述べよ、神経痛の素因、消深の部位、同第一鍼、同部刺鍼刺戟の奏效する病名を問ふ(以上鍼實地)
- 一、擔骨神経麻痺の灸點部位、奏效の理由。白血球の活

動を停止する温度、赤血球の形を變化する温度、ヘモグロビンと酸素と化合し易き温度、小兒身柱の部位と奏效する疾病(以上灸實地)

三 重 縣 (昭和六年十一月)

- 一、神経の刺戟物とは如何
- 一、腹筋の名稱と血管神経に就て
- 一、鍼術の施行上經穴の可否及び其理由
- 一、補瀉迎隨とは如何
- 一、下記器物の消毒法(セルロイド製玩具、書籍、箸、湯呑)
- 一、フォルマリンの消毒的價値(以上鍼術)
- 一、腹筋に就て
- 一、頸部を通過する血管神経の名稱
- 一、灸の結核病竈に及ぼす影響
- 一、心臟疾患に對する灸の治療的價値

一、煮沸消毒法

一、唾液の消毒法(以上灸術)

栃 木 縣 (昭和六年十月)

- 一、上膊筋の名稱と分佈する神経の名稱を問ふ
- 一、膝蓋腱反射の起る理由
- 一、消毒法の種類
- 一、鍼術に用ゆる消毒薬二三の名稱と稀釋度及び利害得失を問ふ(以上鍼術)
- 一、顔面神経の起始經過及び分佈を問ふ
- 一、神経の傳達機能に就きて
- 一、灸痕化膿時の處置を記せ
- 一、灸の施術に消毒の必要なる理由と消毒薬の二三の名稱(以上灸術)

茨 城 縣 (昭和六年十月)

- 一、腦髓神經に就て
- 一、心臓の位置、形状、機能を問ふ
- 一、消毒用クレゾール水の%量及び其溶解法 (以上鍼術)
- 一、上肢關節に就て
- 一、消毒薬の名稱
- 一、交感神經の機能 (以上灸術)

沖 繩 縣 (昭和六年十月)

- 一、上膊中央の斷面の筋肉と神經に就て記せ
- 一、血液の凝固作用
- 一、常習便秘の原因、治療法
- 一、腸チフスの鍼治療法
- 一、頬車、上關、肩井(膊井)、乘風の解剖的位置を記せ
- 一、アルコールの消毒法の效力を記せ (以上鍼術)
- 一、舌下腺に分佈する神經と筋肉を記せ
- 一、血壓に就て記せ

- 一、常習便秘の原因、治療法
- 一、腸チフスの灸治療法
- 一、玉堂、或中、神藏、紫宮の解剖的位置を記せ (以上灸術)

長 崎 縣 (昭和六年十月)

- 一、昇汞水にて消毒する場合を記せ
- 一、下肢に分佈する血管神經の名稱並に其經過
- 一、迷走神經の作用を記せ
- 一、天鼎、血海、築賓の位置及び其部に於ける筋血管神經の關係を記せ
- 一、鍼術の血液に及ぼす作用に就て記せ
- 一、鍼の消毒に際し理學的消毒と化學的消毒の優劣を記せ
- 一、鍼の消毒方法を記せ (以上鍼術)
- 一、肝臓の位置及び其機能を記せ

福 岡 縣 (昭和六年十月)

- 一、頸部を通過する血管及び神經の名稱
- 一、肘關節に於ける血管及び神經の經過並に相互の關係
- 一、肩井の部位並に血管神經との關係並に肩井の刺鍼に就て記せ

一、末梢神經に對する刺鍼の作用 (以上鍼術)

一、臨牀 本年二十八歳の既婚婦人、一週間前より婦人

病にて醫師にかゝり居りしに醫師は卵巣炎と診斷して現在に於ても猶ほ卵巣腫脹を認め、治療中なるに左、大腿内側より稍々前側に寄りたる部に痛を覺え特に下腹部に近き部分を壓す時は、痛み甚だしといふ、夜間に少し忘れ氣味あり稍々間斷性に痛む之が病名と鍼治方法を記せ (以上鍼術)

一、咀嚼筋の名稱及び之を支配する神經

一、腸管の運動作用に就て

- 一、内關、靈臺、輻筋の位置及び其部に於ける血管神經の關係を記せ
- 一、腸加答兒に對する施灸法を記せ
- 一、酒精の消毒に最も有效なる調製法を記せ
- 一、灸點後の消毒方法を記せ (以上灸術)
- 一、自體適宜の穴に刺鍼、角孫穴の位置 (以上鍼實地)
- 一、齒疾患の施灸法、絲竹空の位置 (以上灸實地)

佐 賀 縣 (昭和六年十月)

- 一、筋肉の構造及び筋膜との關係を記せよ
- 一、心尖搏動の起る理由
- 一、急性熱性傳染病の種類及び傳染徑路
- 一、黃疸の原因、症候並に灸治法 (以上灸術)
- 一、氣管枝喘息の原因症候鍼治法
- 一、刺鍼時に於ける注意事項
- 一、灸治療法に類する治療效果 (以上鍼術)

- 一、灸治の血管神経に及ぼす影響
- 一、夜尿症の原因及び灸治點 (以上灸術)
- 一、臨床 本年五十歳の男子、農業、本年九月末から左膝關節部に痛みを覚え、坐して起立の際に特に痛み膝關節の内外を押せば痛み内側に於て甚だし、膝蓋骨を上下に動かす時は少しキシル様な音を聞く、其際同骨の内面が痛む、安座時には餘り痛みぬ患部は少しく腫脹して居り、自動的にも他動的にも動く時痛む、患部は少しく温かし、右の診断をなし病名と灸治方法を示せ (以上灸實地)

鹿 兒 島 縣 (昭和六年十月)

- 一、外分泌及び内分泌につき知る處を記せよ
- 一、嚥下運動に就き説明せよ
- 一、フォルマリン消毒の方法及び其應用に就て説明せよ (以上鍼灸術共通)

- 一、ヘツド氏帯發現部検査法並に左記經穴の部位及び神經分佈の状態を述べよ

陽綱、盲俞、三陰交、天臑、陽谿、肩井

- 一、次の各項に就き述べよ

(イ) 鍼の無感的刺戟の治療的價値

(ロ) 鍼の連續的刺戟と斷続的刺戟との治療的價値

(ハ) 刺戟刺戟の身體組織の異なるに依り其感受性に

差異を生ずる理由

- 一、頸髓炎の主徴及び之に對する鍼治療法の可否 (以上鍼術)

- 一、大赫、志室、光明、四瀆の部位及解剖的所見を述べよ

- 一、艾柱の大小、壯數並に施灸技術の巧拙は治療上如何なる影響を及ぼすや簡単に記せ

- 一、胃及び腸下垂症の症狀並に灸治法如何 (以上灸術)

兵 庫 縣 (昭和六年十月)

- 一、督脈經中の胸部腰部にある經穴の名稱と部位及び取穴法を問ふ (以上鍼術)

- 一、次記の病症に對する施灸療法の價値如何

胃擴張、腹膜炎、脊椎カリエス、副癩丸炎

- 一、艾柱に就き知る所を記せ (以上灸術)

- 一、蒸氣消毒の目的を達するに必要な條件を記せ

- 一、昇水の使用上注意を要する點と其の理由 (以上鍼灸術共通)

滋 賀 縣 (昭和六年十月)

- 一、横紋筋と滑平筋とに就き述べよ

- 一、煮沸消毒法及び之に適する物品を記せ

- 一、神経性嘔吐の鍼治穴名 (以上鍼術)

- 一、血液の生理的作用

- 一、半身不隨の原因及び其灸治法

- 一、皮膚の消毒法 (以上灸術)

- 一、脈搏は如何にして起るか
- 一、肋間神経痛の症狀及び其類症鑑別を問ふ
- 一、頭痛に對する鍼の效果如何
- 一、腸蠕動に對する鍼の影響如何
- 一、理學的消毒法に就て説明せよ (以上鍼術)
- 一、腦神経の名稱を記せ
- 一、白血球に就て知る所を記せ
- 一、灸の疾病に對する豫防的效果如何
- 一、喘息に對する灸の效果如何
- 一、濕熱消毒法に就て記せ (以上灸術)

京 都 府 (昭和六年十月)

- 一、肝臟の位置、形狀、構造並に作用を記せ
- 一、腋窩を構成する筋肉の名稱並に之を通過する神経血管の名稱と位置を記せ (以上鍼灸術共通)
- 一、便秘に對する應用經穴名と其奏效の理由如何

奈良縣 (昭和六年十月)

- 一、腋窩動脈の起始經過、竝に靜脈神經との關係を記せ
- 一、肺臓の位置、竝に作用 (以上鍼灸術共通)
- 一、神經痛に對し鍼術の奏效する理由
- 一、曲垣、四瀆、筋縮、血海、水泉の部位竝に各其の應用すべき主なる病名 (以上鍼術)
- 一、胃の疾患に於けるヘツド氏帯に一致經穴名と其の部位
- 一、肺結核に於ける施灸の時期と之に應用する經穴名、竝に其の奏效する理由を説明せよ (以上灸術)
- 一、消毒の意義を説明し併せて消毒藥の種類を擧げよ
- 一、クレゾール水の性状應用竝に優劣點を擧げよ (以上鍼灸術共通)

石川縣 (昭和六年十月)

- 一、腎臓の位置、形状、構造、機能如何
  - 一、上肢の主なる血管の經過如何
  - 一、副神經麻痺の症狀鍼灸治法如何
  - 一、(イ)三%石炭酸水四〇〇瓦の調製法如何 (以上鍼灸術共通)
  - 一、(ロ)日光消毒に就て述べよ (以上鍼灸術共通)
- 福島縣 (昭和六年十月)
- 一、胃の作用及び腸管各部の名稱
  - 一、心臓の位置、形状及び機能を述べよ
  - 一、消毒藥二三の名稱、使用法、稀釋度
  - 一、消毒の必要な所以を述べよ (以上鍼灸術共通)
  - 一、偏頭痛の症候及び治療法
  - 一、鍼の生理的作用
  - 一、灸の血液に及ぼす作用
  - 一、五虎の灸
  - 一、實地刺鍼雀啄術、振顫術 (以上鍼灸實地)

福井縣 (昭和六年十月)

- 一、下腿の皮下に分佈する神經及び靜脈を圖解せよ
- 一、脱尿及び排尿の神經的關係を述べよ
- 一、顔面神經麻痺の症狀を述べよ
- 一、脊髓癆は如何なる症狀なりや
- 一、沃度丁幾と酒精の消毒上の優劣を記せ
- 一、石炭酸による鍼具の消毒方法を明記せよ (以上鍼術)
- 一、腸の蠕動作用と呼吸作用との關係を述べよ
- 一、灸治の適應症及び不適應症に就て説明せよ
- 一、胃痙攣と子宮痙攣との區別を問ふ
- 一、灸痕化膿の原因を詳記せよ
- 一、消毒上純酒精と稀酒精と何れが效力大なるか其の理由を問ふ (以上灸術)

岐阜縣 (昭和六年十月)

- 一、膝關節を通過する血管、神經の名稱を擧げよ
  - 一、尺骨神經の經過及び分佈に就て
  - 一、消毒藥揀定の要件 (以上鍼灸術共通)
  - 一、迷走神經に及ぼす鍼術の作用及び肩胛部にある孔穴名、竝に解剖的位置を擧げよ
  - 一、鍼の刺戟とは如何、是が治療上に及ぼす次の事項を説明せよ
    - (イ)刺戟の種類 (ロ)刺戟の長短 (ハ)刺戟の強弱 (以上鍼術)
  - 一、鎮痙法として灸術の可否、及び其の理由
  - 一、尿失禁症に對する灸の可否、及び其理由竝に竹杖穴の解剖的位置と其主治效用を問ふ (以上灸術)
- 長野縣 (昭和六年十一月)
- 一、上膊骨に起始停止する筋の名稱
  - 一、呼吸の機械的作用に就て記せ

- 一、盲腸及び蟲様突起の位置(外表より見たる)作用を記せ
- 一、治療中の患者にして赤痢病なりと知りたる場合鍼灸術者の取る可き處置如何
- 一、鍼灸術の疾病に對する治療的作用に就て知る處を記せ
- 一、清潔、消毒、滅菌 (以上鍼灸術共通)

佐賀縣 (昭和七年春)

- 一、骨の主成分と化骨作用
- 一、胃の運動に就て (以上鍼灸共通學說)
- 一、刺鍼の手法を説明せよ
- 一、氣管枝擴張の症狀、鍼治 (以上鍼灸學說)
- 一、灸痕化膿の原因竝に處置
- 一、動脈硬化症の原因、灸治 (以上灸術學說)
- 一、痘瘡と水痘の鑑別竝に痘瘡の傳染徑路

- 一、消毒藥の鑑別
- 一、腕關節ロイマチスの灸治法
- 一、靈道、温溜、陽谷の部位 (以上實地)

茨城縣 (昭和七年春)

- 一、腦髓に就て記せ
- 一、神經の傳導性を區別し簡單に説明せよ
- 一、昇汞、石炭酸に就て記せ (以上鍼術)
- 一、下肢の關節に就て記せ
- 一、皮膚感覺の種類を擧げよ
- 一、消毒用クレゾール水の製法 (以上灸術)

長野縣 (昭和七年春)

- 一、膝關節を通過する血管神經の名稱
- 一、僧帽筋の起始停止
- 一、背部の禁鍼灸穴を擧げて其解剖的部位を記せ

- 一、鍼灸術の治病に效果ある理由
- 一、三叉神經に對する刺鍼及び施灸の解剖的部位
- 一、法定傳染病と鍼灸施術との關係を記せ (以上鍼灸共通學說)
- 一、鍼灸術に使用する主なる消毒藥の名稱及び稀釋度をいへ
- 一、坐骨神經痛に對し刺鍼又は施灸の部位を經穴名を唱へつゝ指壓せしむ
- 一、大腸俞に刺鍼し強刺戟を與へる (以上實地)

山口縣 (昭和七年春)

- 一、項部を構成する筋肉、血管、神經の名稱を擧げよ
- 一、胃の位置、形狀及び其機能を問ふ
- 一、消毒藥の名稱及び稀釋方法を問ふ (以上鍼灸共通學說)
- 一、禁鍼の部位及び場合を問ふ
- 一、折鍼の原因と結果を問ふ (以上鍼術學說)

一、灸の循環器系に及ぼす影響

- 一、施灸の巧拙は其結果上如何なる差異を生ずるか (以上灸術學說)
- 一、或人汽車に乗つて旅行す、汽車の窓に肘を枕にして一眠りし、覺て目を覺して見たるに小指と環指が動かぬ何れが如何になりしや
- 一、手の尺側に在る經穴名
- 一、足の下巨虛に鍼一寸刺鍼、廻旋術及び雀啄術 (抜鍼は試験委員がなす) (以上鍼術實地)

- 一、大後頭神經に刺戟を與へる穴名一穴を答へよ
- 一、天柱の解剖的部位、筋と神經、脈管
- 一、尺骨神經に只一穴を以て刺戟を與へるに何れの穴を取るか
- 一、擔骨神經に只一穴を以て刺戟を與へるに何れの穴を取るか

- 一、曲池の部位、筋肉、神經、脈管

- 一、上巨虚の部位、筋肉脈管
- 一、脾胃神経に一穴を以て刺戟するには何れを選ぶか
- 一、坐骨神経に一穴を以て刺戟するには何れを選ぶか
- 一、鄭門の部位 (以上灸術實地)

熊 本 縣 (昭和七年四月)

- 一、背筋の名稱を列挙せよ
- 一、血壓に就て知る處を記せ
- 一、化學的消毒方法と理學的消毒法とに就て各其例を擧げて説明せよ
- 一、手指の消毒方法を詳記せよ (以上鍼灸共通學說)
- 一、沈靜法、誘導法、反射法を説明せよ
- 一、鍼術を禁すべき場合 (以上鍼術學說)
- 一、誘導法に就き知る處を説明せよ
- 一、灸の大小壯數を定むる場合如何 (以上灸術學說)

朝鮮京畿道 (昭和七年三月)

- 一、皮膚の分泌作用を問ふ
- 一、胸部に就て記せ
- 一、脊髄勞の原因、症狀を記せ
- 一、一般に使用せらるる消毒藥三種を擧げ、各特徴並に稀釋度を問ふ
- 一、鍼治の禁忌症を擧げよ

高 知 縣 (昭和七年五月)

- 一、口腔に就て知る處を記せ
- 一、觸覺とは何ぞ知る處を記せ (以上鍼灸共通學說)
- 一、風門、尺澤の解剖的位置及び筋血管神經との關係
- 一、神經性消化不良の原因鍼治法を記せ (以上鍼術學說)
- 一、蒸氣消毒方法に就て知る處を記せ
- 一、衣類、寝具、敷物、布片等の消毒方法を記せ

(以上鍼灸共通學說)

- 一、脚氣八處の灸穴に就て知る處を記せ
- 一、遺尿症の症狀灸治法を記せ (以上灸術學說)

兵 庫 縣 (昭和七年四月)

- 一、血液は如何にして淨化せらるるか
- 一、消化液の定義及び種類を問ふ
- 一、次に就き鍼術の適否を問ふ
- 一、(イ)肋膜炎 (ロ)肋間神経痛 (ハ)胸筋ロイマチス (ニ)喘息
- 一、ロイマチスに對する鍼の效果如何
- 一、昇汞を消毒藥として使用上の注意 (以上鍼術學說)
- 一、血液の有形成分を記せ
- 一、淋巴腺の官能如何
- 一、腹に對する灸の影響
- 一、咳嗽に對する治療方針如何

一、理學的消毒に就て詳記せよ (以上灸術學說)

北 海 道 (釧路警察署) (昭和七年四月)

- 一、三叉神經の起始、經過
- 一、麻痺と癱瘓に就て記せ
- 一、胃瘰癧に對する刺鍼點を解剖的部位を以て記せ
- 一、創傷傳染病に就て
- 一、誘導刺戟の特技に就て
- 一、刺鍼時の消毒順序方法 (以上鍼術學說)
- 一、尿の分泌作用に就て知る處を記せ
- 一、皮膚の構造並に生理的作用に就て記せ
- 一、腰痛に對する施灸點を擧げよ
- 一、傳染性皮膚疾患に就て記せ
- 一、皮膚消毒に適せる藥品名を擧げ使用法を記せ
- 一、遺尿症の灸治法を述べよ (以上灸術學說)

埼玉縣 (昭和七年四月)

- 一、胸鎖乳嚙筋の起始、停止作用
- 一、迷走神経は何れに分佈するや (以上鍼灸共通學説)
- 一、頸部に刺鍼の際注意すべき點を記せ
- 一、横隔膜痙攣に對する刺鍼點
- 一、腎臟炎に刺鍼の可否
- 一、施術せんとする場合如何なる順序に消毒をなすや (以上鍼術學説)

- 一、施灸後(施灸部位の)皮膚に起る變化
- 一、遺尿に對する灸治點
- 一、腦充血に對する灸治點と其解剖的部位
- 一、手指の消毒法 (以上灸術學説)

静岡縣 (昭和七年四月)

- 一、上肢に分佈する主なる神経の名稱及び徑路
- 一、呼吸の生理的作用 (以上鍼灸共通學説)

- 一、胃痙攣に對する鍼治法
- 一、頸部禁鍼穴名あらば挙げよ (以上鍼術學説)
- 一、灸の奏效する理由
- 一、下肢の施灸經穴と其適應症 (以上灸術學説)

滋賀縣 (昭和七年四月)

- 一、前頸部に在る筋の名稱
- 一、常習頭痛の鍼治法
- 一、肩胛部の穴名
- 一、鍼具及び刺鍼部の消毒法 (以上鍼術學説)
- 一、股動脈の起始、經過、枝別
- 一、腰部にある穴名
- 一、胃擴張の灸治法
- 一、リゾールの性狀及び使用法 (以上灸術學説)

徳島縣 (昭和七年四月)

- 一、唾液腺の位置、形狀及び構造
- 一、尿の成分一日の排泄量並に腎臟に分佈せる神経の名稱

- 一、「フォルマリン」消毒法を問ふ (以上鍼灸共通學説)
- 一、偏頭痛の類症鑑別法並に之が施鍼に際し用ふる經穴を挙げ其奏效理由を記せ (以上鍼術學説)
- 一、石門、曲骨の部位並に之に施灸すれば奏效著明なる疾病一を挙げ理由を記せ (以上灸術學説)

大阪府 (昭和七年四月)

- 一、腋窩動脈の起始、經過、枝別を記し、併せて靜脈及び神経との關係を述べよ
- 一、呼吸運動に就て記せ (以上鍼灸共通學説)
- 一、痙痛の種類其特徵並鍼術の適否及び理由
- 一、左の五穴に就き詳述せよ
- 一、關元、箕門、懸鐘、青靈、水分 (以上鍼術學説)

- 一、灸術の意義を問ふ
- 一、氣舍、肩貞、陽谿、維道、合陽穴の解剖的部位、取穴法、及び應用 (以上灸術學説)
- 一、蒸氣消毒の方法を述べ之に適當なる消毒物品二三を挙げよ
- 一、金屬消毒に適當なる消毒藥に就て (以上鍼灸共通學説)

京都府 (昭和七年四月)

- 一、心臟の構造及び其の作用に就き記せ
- 一、下肢に於ける主要なる神経、血管の經過 (以上鍼灸共通學説)
- 一、頸の前部及び側部にある經穴名並に刺鍼上の注意
- 一、神經痛に鍼術奏效する理由と坐骨神經痛に用ふる經穴名 (以上鍼術學説)
- 一、督脈經中に存する禁灸穴及び部位
- 一、急性關節ロイマチスに對する施灸療法に就て左記事



項を記せ

(イ) 施灸時期

(ロ) 施灸量(施灸點數及び壯數)を定むるに何を標準とするや

(ハ) 施灸部位、經過、豫後等に就き治驗例の一を舉げて説明せよ (以上灸術學說)

一、消毒とは如何、竝に清潔との區別

一、乾熱滅菌法を詳記し此方法を適用する物品名を舉げよ (以上鍼灸共通學說)

愛 知 縣 (昭和七年四月)

一、迷走神経は何れに分佈するや

一、皮膚の重要な機能を問ふ

一、無水酒精と普通酒精との消毒力の差異

一、習慣性頭痛と偏頭痛中より何れか其一つを撰びて目的を異にする鍼の處方三種を記せ

- 一、胃痛に際して起る運動及び反射に就て(以上鍼術學說)
- 一、腦神經の名稱
- 一、血球の種類及び生理的作用
- 一、石炭酸、アルコール、昇末水、リゾールの稀釋度
- 一、便秘を來す疾病中より灸治に適するもの及び其奏效する理由を記せ
- 一、臨牀上子宮及び膀胱の疾患につき疼痛放散の差異 (以上灸術學說)

大 分 縣 (昭和七年四月)

一、肩脚關節を構成する筋、骨竝に其の部を通過する血管、神經に就て記せ

一、腎臟及び副腎の生理的作用を記せ

一、百會、天樞、商陽、豐隆の部位、解剖的關係竝に適應症 (以上鍼灸共通學說)

一、鍼の大、小、長、短に應じ施術上特に留意すべき要

件如何 (以上鍼術學說)

一、藥液消毒に就て三例を舉げ詳記せよ

一、熱氣消毒とは如何 (以上鍼灸共通學說)

一、灸の種類竝に其施術方法に就て説明せよ (以上灸術學說)

香 川 縣 (昭和七年春)

一、坐骨神經の起始經過及び枝別

一、腹腔内臓器の名稱及び相互の位置

一、消毒藥五種を舉げて説明せよ

一、灸の神經に及ぼす作用

一、太陽神經叢に就て

一、偏頭痛に對する鍼治法

一、懸顛、懸釐、孔最、痞根、足の三里

一、水突の部位及び取穴法 (以上學說)

一、身柱、三陰交、合谷に灸して如何なる疾病に效くか (灸術實地)

一、鍼の誘導作用とは如何 (鍼術實地)

福 井 縣 (昭和七年四月)

一、交感神經の所在及び分佈を詳記せよ

一、小腦の位置及び其作用

一、痛痛を來す疾患を舉げ其の主なる差異を問ふ

一、炎症に施鍼の可否を述べよ

一、脊髄癆の主要症狀を詳記せよ

一、沃度丁幾の消毒的效果ある理由を述べよ (以上鍼術學說)

一、咀嚼に關與する筋の名稱及び各筋の作用

一、内分泌とは何ぞや

一、妊婦に點灸の可否を詳述せよ

一、癲癇とは如何なる疾病か

一、消毒上石灰は如何なる價值あるか

一、ヒステリーの症狀 (以上灸術學說)

- 一、膀胱麻痺と撓骨神経痛の鍼療法 (鍼術實地)
  - 一、四頭股筋ロイマチスの灸療法 (灸術實地)
- 新 潟 縣 (昭和七年四月)
- 一、神経痛に對する鎮靜法
  - 一、胃痙攣と膽石痛の鍼療法
  - 一、尺骨神経麻痺の刺鍼法
  - 一、下腿に於ける穴名全部の名稱
  - 一、後頭部に於ける刺鍼の注意 (以上灸術)
  - 一、灸の生理的作用
  - 一、胃痙攣と膽石痛の灸療法
  - 一、肩背部に於ける神経痛の灸療法
  - 一、腹部内臓器の名稱、位置、内分泌に就て (以上鍼術)
  - 一、消毒の必要なる理由及び消毒薬品の調製法並に應用
  - 一、側頭部に於ける筋、神経、脈管の關係 (以上共通)

東 京 府 (昭和七年三月)

- 一、(イ)喉頭の構造
- (ロ)泌尿器の名稱ミ尿に就て述べよ
- 一、(イ)鍼灸器具の消毒方法を問ふ
- (ロ)クレゾール石鹼液に就て (以上鍼術學説)
- 一、(イ)肋膜の所在及び構造
- (ロ)淋巴管系統と淋巴腺との作用
- 一、(イ)消毒方法の種類を述べよ
- (ロ)石炭酸と昇末を比較せよ (以上灸術學説)
- 一、神経性心悸亢進症に對する刺鍼の目的及び部位
- 一、曲垣、肩外の部位
- 一、後頭部に適宜刺鍼せよ、而して雀啄、震顫、廻旋術を順次行はしむ (以上鍼術實地)
- 一、灸の神経に及ぼす作用並に血液に及ぼす作用
- 一、背部正中線に在る穴名及び部位
- 一、偏頭痛の原因、症状、灸が效くや否や穴名をいへ (以上灸術實地)

- 山 梨 縣 (昭和七年三月)
- 一、心臓の位置及び分佈する神経の名稱
  - 一、脊髄の機能
  - 一、腹部諸筋の名稱及び起始停止
  - 一、鍼術の消毒法
  - 一、顔面神経麻痺の原因、症状、鍼治點
  - 一、四白、長強、瘰癧、合谷、巨闕の解剖的部位 (以上鍼術學説)
  - 一、食道痙攣の原因、症状、鍼治點
  - 一、膝關節神経痛の原因、症状、鍼治點 (以上鍼術實地)
  - 一、口腔の消化作用
  - 一、呼吸の種類及び目的
  - 一、腎臓の位置、作用
  - 一、後頭神経痛の原因、症状、灸治點
  - 一、化學的消毒法とは如何

石 川 縣 (昭和七年四月)

- 一、大迎、陽白、神封、大椎、陽陵の解剖的部位 (以上灸術學説)
  - 一、神經性嘔吐の原因、症状、灸治點
  - 一、膀胱痙攣の原因、症状、灸治點 (以上灸術實地)
- 一、内分泌腺に就て知る所を記せ
- 一、頸部中央横断面の解剖的所見
- 一、左の經穴の部位に禁鍼を問ふ
- 命門、肩井、神闕、上巨虚、顛會
- 一、慢性胃加答兒の鍼療法を記せ
- 一、左の消毒方法を記せ
- (1)鍼及び鍼管、唾壺 (2)術者の手指 (3)白衣 (4)治療室 (5)患部
- 一、灸の効果ある理由並に血液に及ぼす影響
- 一、下齒痛に對する鍼療法、施鍼點の部位、血管の關係

- 一、血液の生理的作用 (鍼術實地)
- 一、灸は施灸後血液に如何なる作用あるや (灸術實地)

長崎縣 (昭和七年四月)

- 一、盲腸竝に蟲様突起の部位を記せ
- 一、動脈血と靜脈血との區別を記せ
- 一、天井、中都、地倉の位置及び其の部に於ける筋、血管、神經の關係を記せ
- 一、腺病質の小兒に對する刺鍼法を記せ
- 一、施術に際し鍼の消毒不完全の場合如何なる傳染病を起すか其病名と症狀を記せ (以上鍼術學說)
- 一、勞宮の採穴 (鍼術實地)
- 一、坐骨神經の起始竝に其經過を記せ
- 一、腎臟の生理的作用を記せ
- 一、完骨、天谿、飛陽の位置及び其の部に於ける筋、血管、神經の關係を記せ

奈良縣 (昭和七年五月)

- 一、消化器病中より灸術の適するものと適せざるものとを區別して列記せよ
- 一、消毒法の意義を記せ (以上灸術學說)
- 一、慢性全身貧血とは何か及び其治療法を問ふ (灸術實地)
- 一、咽頭の構造竝に嚥下作用に就て説明せよ
- 一、頸動脈の起始、分岐竝に神經との關係 (以上鍼灸共通學說)
- 一、麻痺に對する刺鍼の方式竝に其の奏效理由 (以上鍼術學說)
- 一、身柱、腰眼、至陰、後谿、大赫の部位と其の應用する疾患 (以上灸術學說)
- 一、大迎、曲垣、三陽絡、大巨、委中の部位 (以上灸術學說)
- 一、灸の大小、壯數を定むる標準如何 (以上灸術學說)
- 一、消毒の意義を説明し消毒と殺菌の區別

- 一、石炭酸の性状、調製法竝に應用上の利害を記せ (以上鍼灸共通學說)
- 一、偏頭痛の種類、症狀、刺鍼點
- 一、肩上に刺鍼せしむ
- 一、股神經痛の原因、症狀、壓痛點、刺鍼點大腿前内面に刺鍼せしむ (以上鍼術實地)
- 一、書癢の種類、症狀、灸治點
- 一、下腿外側の經穴名竝に三里と下巨虛と飛陽とを正確に取穴せしむ (以上鍼術實地)

三重縣 (昭和七年五月)

- 一、心囊の作用
- 一、三叉神經の起始、經過、枝別
- 一、小陽三焦經の禁鍼穴名及び部位
- 一、小兒鍼の効果
- 一、石炭酸の調製方法

島根縣 (昭和七年四月)

- 一、無水酒精の効果 (以上鍼術學說)
- 一、皮膚の機能
- 一、白血球の作用
- 一、大陰脾經の禁灸穴名解剖的部位
- 一、血壓亢進に對する效果
- 一、日光消毒の時間
- 一、湯呑、重箱、セルロイド玩具の消毒法 (以上灸術學說)
- 一、腸疝痛の原因症狀治穴
- 一、肩井に刺鍼 (以上鍼術實地)
- 一、「チブ」の灸とは何ぞや取穴法を問ふ
- 一、天衝、頰車、蠡溝、手の五里、少府の五穴の部位及び取穴法 (以上灸術實地)
- 一、頭蓋骨及び顔面骨の名稱と骨相互の關係を記せ
- 一、正中神經の起始、經過及び其枝別を述べよ

(以上鍼灸共通學說)

一、鍼術施術上の注意事項

一、顔面神經麻痺に對する鍼治點を擧げ且つ鍼治療法の禁忌症を問ふ (以上鍼術學說)

一、灸の神經に及ぼす影響

一、偏頭痛に對する穴名と艾の製法を問ふ (以上灸術學說)

一、理學的消毒方法の種類及び其方法優劣

一、(イ)三十三倍クレゾール水四百瓦の調製方法を問ふ

(ロ)酒精を消毒用に使用する場合の注意事項 (以上鍼灸共通學說)

一、撓骨神經麻痺の治療法竝に其刺鍼法 (管鍼撓鍼) (鍼實地)

一、胸鎖乳嘴筋麻痺の治療法竝に取穴

一、腸疝痛の治療法竝に取穴 (灸術實地)

福岡縣 (昭和七年四月)

一、脊髓の機能を記せ

一、鎖骨下動脈の起始、經過及び分枝

一、腹痛患者に對する處置竝に臍の上下左右に近接せる經穴を擧げよ

小兒の夜泣きに對する鍼治に就て (以上鍼術學說)

一、左記の事に就て説明せよ

(一)肺活量 (二)淋巴 (三)腸液 (四)股輪

(五)滑平筋

一、體温の發生及び調節作用

一、灸に對する過敏症に就て

一、慢性貧血に對する灸治法 (以上灸術學說)

一、本年廿五歳になる中等度の體質の看護婦にして十日ばかり病人看護の爲め非常に働いた、突然朝起きたる時右の乳嘴突起の近くより鎖骨の内端にかけて筋肉が引きつり斜頸を來し首を動かすと痛みが増して動かさぬ時も少し疼痛があり、乳嘴突起より三厘少しく赤く腫れ、熱はない。其診斷と治療法如何

(以上鍼術實地)

一、本年十五歳になる大工の弟子にして弟子入りしてよ

り十五日ばかり鋸ひき、カンナ削り等して、腰部、

上肢等に痛みがあつた、特に、突然右の拇指の第二

節の背面より、腕關節の後面に行く筋肉に疼痛があ

り、前膊撓側も疼痛がある、特に拇指第二節より三

厘ばかり筋が赤發腫脹して、無理に拇指を動かすと

疼痛が増しクチ、と音がする。右の診斷と治療法

(以上灸術實地)

## 第十編 參考編

## 法規 及び 關係法規

## 鍼術灸術營業者取締規則

(明治四十四年八月  
內務省令第二號)

- 第一條 鍼術又は灸術營業を爲さんとする者は試験合格證書又は地方長官の指定したる學校若しくは講習所の卒業證書を添へ住所地の地方長官(東京府に於ては警視總監以下之に做ふ)に願出て免許鑑札を受くべし
- 第二條 精神病者傳染性の疾患ある者又は素行不良と認むる者には免許鑑札を交付せざるものとす禁錮以上の刑に處せられたる者には免許鑑札を交付せざることあるべし
- 第三條 鍼術又は灸術の試験は地方長官之を舉行す試験科目は左の如し
- 一、人體の構造及主要器官の機能並に筋と神經脈管の關係
  - 二、身體各部の刺鍼法及び灸點法並に經穴及禁穴
  - 三、消毒法大意
  - 四、鍼術又は灸術の實地
- 第四條 四箇年以上鍼術又は灸術を修業したる者に非ざれば試験を受くることを得ず

- 第五條 鍼術を施さんとするときは鍼、手指、及手術の局部を消毒すべし
- 第六條 營業者は何等の方法を以てするを問はず流派名又は卒業したる學校講習所の名稱若しくは修業の證明を與へたる教師の氏名を除く外業務上其の技能施術方法又は經歷に關する廣告を爲すことを得ず
- 第七條 鍼術又は灸術營業者は瀉血、切開其他外科手術を行ひ若しくは電氣烙鐵の類を用ひ又は藥品を投與し若しくは指示を爲すことを得ず
- 第八條 營業者其の住所地を他の道府縣に移したるときは十日以内に鑑札を添へ後の住所地の地方長官に届出べし前項の場合に於て後の住所地の地方長官は其旨前の住所地の地方長官に通知すべし
- 第九條 營業者免許鑑札の毀損亡失したるときは其の事由を記し二十日以内に住所地の地方長官に再下附を願出べし族籍、氏名に變更を生じ又は生年月日の訂正を要するときは其の事由を記し二十日以内に鑑札を添へ地方長官に書換を願出べし
- 亡失したる免許鑑札を發見したるときは直に之を地方長官に提出すべし
- 第十條 營業者廢業したるときは二十日以内に免許鑑札を返納すべし若し鑑札を返納すること能はざる事由あるときは其の事由を届出べし
- 營業者死亡し又は失踪の宣告を受けたるときは戶籍法に依る届出義務者より二十日以内に免許鑑札を返納すべし
- 第十一條 營業者第二條に該當し又は業務上犯罪若しくは不正の行爲ありたるときは住所地の地方長官は期日を定めて其の

營業を停止し又は免許を取消し免許鑑札を返納せしむることあるべし

本條の取消處分を受けたる者と雖も疾病治療し又は改悛の情顯著なるときは再免許鑑札を交付することを得

第十二條 免許鑑札を受けずして營業を爲し若しくは停止中營業を爲したる者又は第六條第七條に違背したる者は五十

圓以下の罰金に處す

第十三條 第八條第一項第九條又は第十條に違背したる者は科料に處す

附 則

本令は明治四十五年一月一日より之を施行す本令施行前政廳に於て交付したる免許鑑札其の他の免許の證は本令に依り交付したる免許鑑札と看做す

### 所謂施行細則とは

著者曰 各府縣の取締施行細則は大同小異であるから、大阪府の分を掲げて參考とする

大阪府鍼術灸術營業取締規則施行細則

第一條 鍼術灸術の免許鑑札を受けむとする者は族籍、住所氏名、生年月日を具し資格證明書並戸籍謄本及び規則第

二條の疾患に關する醫師の證明書を添へ當廳に差出すべし

第二條 鍼術、灸術試験を受けむとする者は族籍、住所、氏名、生年月日を具し履歷書並に修業に關する師の證明書、醫師の健康診斷書を添へ當廳に願出べし

第三條 鍼術、灸術の試験は毎年二回舉行す試験の日時場所は之を告示す

第四條 試験は學說、實地に區別し學說試験に合格したる者に非ざれば實地試験を受くることを得ず

第五條 學說試験は筆答とす但し盲人に限り口頭試験を行ふ

第六條 試験に合格したる者は合格證書を附與す

第七條 鍼術營業者鍼指及手術の局部を消毒するときは左の藥品の一に依るべし

一、五十倍 石炭酸水

二、五十倍 「リゾール」 溶液

三、百倍 「フォルマリン」 溶液

四、局方稀酒精

第八條 營業者就業中は常に鑑札を携帯すべし警察官吏の求めあるときは之を提示すべし

第九條 鑑札は他人に貸與すべからず

第十條 營業者出張所を設けたるときは五日以内に所在地の警察官署に届出べし

第十一條 營業者住所を移したるときは鑑札を添へ五日以内に移轉地の警察官署に届出べし

第十二條 鍼術、灸術營業取締規則及本則に規定せる願届並に鑑札の返納は所轄警察官署を経由すべし

第十三條 本則第七條、第八條、第九條、第十條、第十一條に違背したる者は科料に處す

附 則

第十四條 本則は明治四十五年一月一日より施行す

### 鍼灸療院の名稱差支へない

去六月鍼術並に灸術及按摩營業者にして鍼灸療院又は按摩療院等の文字を用ひ標札或は旗類を掲げ居るものもあり該營業者にして療院等の文字を使用するは穩當ならざるか、と山口縣知事より内務省衛生局長宛て意見を求めたるに對し衛生局長の結果「差支無し」旨回答ありたるが今回同様なる伺ひを宮城縣知事より内務省宛て寄せ來れるを以つて去月二十四日附(大正十四年)を以て回答を發したり、其の照復の全文は別記の通りである

衛發第七六二六號 大正十四年七月八日

内務省衛生局長宛 宮城縣知事上田萬平

鍼灸營業取締に關する件照會

標記營業者にして鍼灸療院等の文字を用ひ標札を掲げ居るもの、取扱に關し山口縣知事の伺に對し去月十九日付貴局衛醫第八三九號を以て差支無之旨回答したる趣通牒有之候所管内の同業者にして右に類似せる鍼灸科醫院の標札を掲げ居るもの有之本件も略同様に付支障なき様にも解せられ候も一面より考ふるときは恰も醫師の開業場所を表示せるものに紛はしきものにして本文を使用するは穩當ならずとも被認取締上聊か疑義相生じ候條至急何分の御意見承知致度此段及照會候也

衛醫第一〇四四號 大正十四年七月廿四日

宮城縣知事宛 内務省衛生局長

鍼灸營業取締に關する件回答

七月八日衛發第七六二六號を以て御照會に係る標記の件山口縣知事へ回答の通御取扱相成度候

### 灸術營業取締の疑義

京都府下に於て灸術免許を受けざる者にして灸術を行ふものあり、其の範圍につき疑義を生じ、内務省宛て照會せる。「灸術營業取締に關する件」は去る七月六日附回答と同時に各地方長官宛通牒を發したるが其の照復の全文左の通りである。

衛醫第八一六號 大正十五年七月八日

應府縣長官宛 内務省衛生局長

灸術營業取締に關する件通牒

本件に付京都府知事に左記の通回答候條爲通牒候也

左 記

衛第五五三號 大正十五年六月十八日

内務省衛生局長宛 京都府知事

灸術營業取締に關する件照會

管下に於て灸術免許を受けずして左記の如き施術を爲すものあり、右は内務省令に所謂灸術と認め取締るべきものなりや、尙又灸術に非らざるものと認むるときは本年四月十九日一四衛醫第一七八七號御回答に依る第二の行爲に付無免許者が之を爲すも何等法令に抵觸するものに非らずと存せられ候へ共、本件に關し大正十年十月廿八日衛醫第七八九號御回答文中の「法令の規定に抵觸せざる限り灸術營業者に於て該特許器を使用するは放任相成可然と存候」とあり、之に依れば灸術の免許を受けざるものが該特許器を使用する事は之を放任すべきに非らずと解し得るに就ては其取扱は何れに則り取締るべきものなりや聊か疑義相生じ候條至急何分の御回答相煩度此段及照會候也

◎同

島根縣にては「灸術營業取締に關し」疑義を生じ去る大正十五年十一月二日附内務省衛生局長官宛て左の如き照會を寄せた。

灸術營業取締に關する件照會

島根縣知事より内務省衛生局長宛

鍼術灸術營業取締規則に所謂灸術に就いては大正十年六月十七日衛第六三三八四號並本年六月十八日衛第五五二二號を以て京都府知事伺出に對する御回答及大正十四年七月十七日衛第七三三三號を以て宮城縣知事伺出に對する御回答の次第も有之候處灸術免許を受けずして左記の如き施術を爲す者有之其の施術方法は艾にあらざるものを使用する點は京都府伺出のもの同一なるも直接火を點じたるものを使用する點に於て相違あり、而て宮城縣伺出のもの

とは直接火を點じたるものを使用する點は同様なるも艾にあらざるものを使用する點に於て相違あり右各御回答の趣旨は艾を用ひざる斯の種施術は之を省令に所謂灸術と認むべきものにあらずと解せられて従て是等の施術は之に鍼術灸術營業取締規則を適用せられざるものと思料せらるゝも差掛り取締上聊か疑義相生候條至急御意見承知致度此段及照會候也。追て御參考の爲め器法藥草現品一個添付致置候。

記

一、被術者たる患部の上に着衣二枚位と紙を八重位に折りたるものを敷き其の上より器法藥草下部の一端に火を點じたるものを以て押へ間接に温熱を皮膚に與ふる行爲。

該照會に對し内務省衛生局にては各課長の意見を徴したる後、去十五日附山田衛生局長の名にて左の如く島根縣知事宛て回答を發したり。

灸術營業取締に關する件回答

内務省衛生局長より島根縣知事宛

十一年二月衛第五三四五號を以て御照會に係る標記の件は灸術と認め難く此段及回答候。

灸術營業取締に關する件

(昭和三年九月 例規衛第九一八四號)

今般内務省衛生局長より標記の件に關し兵庫縣知事と別紙寫の通り照復せし趣き通牒越候條參考に資せらるべし (別紙)



通 牒 (八月二十四日衛醫第九一八號)

本件に關し兵庫縣知事の照有に對し別紙の通回答候條此の段及通牒候  
(兵庫縣知事照會) 八月九日發第三六九號  
管下に於て標記營業免許を受けず部民の信仰心を利用し左の行爲を爲すもの有之右類似行爲に付ては大正五年一月十三日付衛發第六號本縣警察部長照會に對し同月十七日付衛生局醫務課長の回答も有之候得共取締上聊か疑義相生じ候條至急貴局の御意見承知致度關係書類及現品添付此段及照會候也

記

一、弘法大師御夢想相傳藥草灸無料施術をなすの名目の下に單なる紙片を以て製したる藥草一本を代八十錢にて賣付け別紙廣告の通被施術者の着衣上より患部に紙片を充て藥草に火を點じ患部に轉々數十回打付け紙布片を隔て、間接に温熱を皮膚に與ふる行爲  
追て別紙は御回答の節御返戻相成度申添候也「別紙省略」

(衛生局長回答) 八月二十四日衛醫第九一八號

八月九日衛發第三六九號を以て御照會に係る標記の件は省令に所謂灸術と認むべきものは無之と存候

### 柔道整復術業者の診斷書

(鍼灸家の參考にも)

柔道整復術業者の診斷書交付に關し警視總監より内務省宛て照會を發したるに對し、去る十一月十三日回答を發し越えて十七日各地方長官宛て左の如く通牒を發したり。

衛醫第一三九三號 大正十五年十一月十七日

各地方長官宛 内務衛生局長

柔道整復術業者の診斷書交付に關する件通牒

本件に關し警視總監の照會に對し別紙の通り回答候條此段及通牒候

甲衛第三六三號の二大正十五年十月七日

内務省衛生局長宛 警視總監

柔道整復術業者の診斷書交付に關する件照會

柔道整復術業者にして診斷書を作成交付したる事實有之候處右は醫業の範圍に屬する行爲と被認候へ共聊か疑義相生じ候條左記各項に對し至急何分の御回報相煩度

記

- 一、柔道整復術業者は診斷を爲すことを得るや
- 二、柔道整復術業者に於て診斷を爲し得るとせば其の作成交付したる診斷書は醫師の交付する診斷書、死屍體檢案書若くは産婆の交付する死産證書死胎檢案書と同様に取扱ふべきものなるや

衛醫第一三九三號 大正十五年十一月十三日

警視總監宛 内務省衛生局長

柔道整復術業者の診断書交付に関する件回答

十月七日甲衛第三六三號の二を以て御照會に係る標記の件左の通及回答候

- 一、柔道整復術を行ふ者當然件ふ場合の外診断を爲す事を得ず
  - 二、柔道整復術の施術に關する事項の證明を爲すは差支なきも診断書を作成交付する事を得ず
- 以上。右は參考の爲に、こゝに採録しておく。

### 鍼灸營業の廣告に關する件

大正十五年大阪府知事照會

灸術營業者にして左記の如く技能療法と認むべき廣告をなすもの有之規則第六條に抵觸するものと被認候へ共聊か疑義相生じ候條貴局の御意見御回示相煩度候

記

○はり専門

- 一、小兒病科。
- 一、神經痛科。
- 一、婦人病科。
- 一、リウマチス。
- 一、肺肋膜病科。

衛生局長回答 (二月二十一日)

七月七日衛第五九七五號を以て御照會に係る標記の件規則第六條に違反するものは認められず此段及回答候

著者曰。其後に於て大審院の右と稍々異りたる判決例もあるから注意を要する。

廣告をじやうとする人は廣告の原稿を一度所轄警察署に見せて相談すれば安全である。

### 附小論文

以下採録せる數篇は多くは著者が、機關雜誌其他の専門雜誌に發表した斷片的論文である。同志の參考ともならば幸甚である。

### 皇漢醫學の源泉に就て

廖温仁醫學博士は多大の苦心を拂つて、**素問**を研究し之を結論して、

(一) **内經** **素問** **靈樞** は支那秦漢時代の名醫が、黄帝及び岐伯の名を假りて著述したものであつて、今より二千有餘年前の古典で支那に於ける醫道の原流で、且又最古のものであると。

(二) 皇漢醫道の金科玉條である、**素問** は皇漢醫學の基礎學であつて、儒學の五經や四書と同等の學的地位にあるものであると。

(三) 支那では南北朝の暗黒時代に散佚してしまつたが、後代隋の世に楊上善が、時の帝の勅を奉じて**素問經**を撰び、そして註した、これが所謂**黄帝内經太素**である。

(四) けれども更らに後に**素問**も**黄帝内經太素**も兵火の爲に烏有に歸したが、唐の人、王冰**素問**の殘簡を得て、恣に之を種本として詐爲し、陰陽五行五運六氣の説等を交へて、編次等をも改め、自註を加へて世に傳へたので宋代以後の學者、此偽りの素問をのみ見て、**素問**の眞本を知る人がなかつたといふ。

(五)ではあるが、天、此東方大八洲瑞穂の國に幸ひして、眞實の太素經は、嘗て日本に舶載して、丹波の頼基に鈔せられ、今や其古鈔本は京都御室の仁和寺の寶庫に藏せられて國寶となつてゐる。(昭和三年四月)

### 同 身 寸 の 新 意 義

同身寸の靈樞骨度篇に七尺五寸と記す、骨度篇に謂ふ所の寸尺今日存する所の其何れにも非ざるは無論の事であるが、余が淺學なる其度器が如何なるものなりしかを知り得ざるは遺憾の極みであるが、余身長現今の曲尺にて五尺三寸二分、之を余が拇指の末節即ち第二節の横徑を曲尺で實測して見ると丁度曲尺の七分ある。

故に此七分を以て、余が身長を分割して見ると

一寸七分

即ち一拇指横徑を一寸として七尺六寸となる。

但し曲尺の八分を以つて一寸とし、又一拇指横徑を以て一寸となすの古人先哲の便法、人を欺かざる也矣の感が深い。無論個人によつて夫れ夫れ指幅身長共に大同小異あつて一概にいふべからざるはいふまでもない、體格、身長共に大なれば指幅又太かるべく、體格、身長小なれば指幅も細かるべきは普通である、さればこそ所謂同身寸と名付けたのであらう。

### 微 忱

春の歩みもまだ迎々しき彌生八日の朝まだき

天津日繼の流れを汲ませ給へる

久宮祐子内親王殿下は神去り給ふた。

やんごとなき、竹の園生の

陛下様方の御悲嘆は拜察するだに涙の限り、尊くも畏き極みである。

久宮様かりそめに病づき給ふや天下の名醫達、妙方を奉り、靈藥を獻じ、現代科學の精粹を誦めて尙及ばざらん事を怖れ、心を傷め神を勞し、至誠を致して形容憔悴枯瘦したのであつたが

神召し給ふ事遽かにして

久宮様は還らせられぬ天路遙けく御輦を進めさせ給ふたのである。悲哉。我等草莽の微臣慟哭久しうして氣を失したのである。

御加療の上に於て萬遺憾なかりしは勿論の事であるが、我等皇國醫道の傳統と幽玄の技術に參する鍼灸醫として、國法、制度の規に違ひ、小兒鍼を奉る事を得ざりしは千秋の恨事である。

冀くは宮内省の侍醫寮官制が改められて、

竹の園生の風たゞならぬ時、恐れ多き事にはあれど、一隅に奉仕して、傳統と經驗とに即して幽玄の妙術を體得したる人格の高士をして、西洋醫術の博士達と力を協せて涓滴の赤誠を表し得るよう致したきものである。 微臣  
哀悼の微忱を捧ぐるに急に於て章句亂る。 恐々謹言。(昭和三年四月)

## 今日の治療界の趨勢

所謂特殊療法に關する廣告が、新聞雜誌の廣告欄に毎日の様に現はれる。婦人雜誌の如きは其本分はいつの間にかどこへやら、偏に通俗醫學講座の觀がある。

醫學的知識の大衆化とでも謂はうか、大學の講壇の街頭化とでも言はふか、近代社の通俗醫學講座が、大當りに當つて再度の會員募集をするやら、通俗醫學雜誌が毎月數萬部を發行して翳羽が生へた様に飛んでいつたり、精神療法だ、正氣療法だ、岡田式正座療法だ、椎骨矯正術だ、精常療法だ、大橋液注射だ、自強術だ、心身統一術だ、抵抗療法だ、斷食療法だなどと、とても十指を屈してまだ足りない特殊療法の流行振りである。

そして一面には醫育統一の結果として醫學博士が數へ切れぬ程輩出するかと思へば、其反對に醫育統一を裏切る様な醫學專門學校が續々として設立せられつゝある。

實に現代治療界の趨勢も又旺んなる哉である。

何故そういふ現象を呈すかを考察して見ると實は今日迄一般醫師を、大衆はあまり頼りすぎた。醫者も醫學者もあまり醫學や藥物の効果を過信してゐたが、現代の洋法で治らぬ病氣が澤山にあるのに今更らの様に醫學者は自らかへり見て愕然とした。一般大衆は一般醫學の通俗化によつて、醫學醫療の内容と實質とが案外當にならぬものである事を觀破した。そこでさてこそ所謂普通の醫學や療法に勝る治療法もがなと期せずして大衆は漁り出した。あつたあつた前記の如き種々なる療法を發見した、けれども一つとして未だ全幅の信頼を捧げて生命を倚托するに足る療法を見出し得

ない。

焦慮につぐに焦慮を以てして、遂に我傳統と實驗の久敷奏效の確實なる、鍼灸醫術が實に手近な所に萬病の苦惱を接

くべく嚴存して居る事に氣が付いたのである。かくして皇漢醫學復興の機運は今や全國に動き、我鍼灸醫術は大學の研究室にまで其雄姿の一端を現はす事になつたのである。

治療界の權威は我鍼灸醫術である事を同業と共に祝福しやう。(昭和三年八月)

## 專 門 綜 合

吾人の身體は低級なる系統解剖學の如く、各機關が獨立せるものではない。然るに治療のみが所謂専門分科に走れるは變態的の現象といはねばならぬ。

醫師の専門科名が日毎に特種化して新聞の廣告面を賑はすはまだしも、低劣なる空虚の文字を駢べて特種療法の技能を所有せるが如く暗示せる廣告が多いのは噴飯の至りである。

殊に夫等の醫師の治療費は廣告料を轉嫁して患者の負擔と爲すが故に、治療費の如きも診察料、特別高價藥、特別注射、曰く何、曰く何と、累加して余が知れる淋疾患者は一度に十七圓を仕拂つたといふ事である。

要するに之等も又、春秋の筆法を以てすばくだらぬ専門分科の罪である。

専門なるが故に智識、技能、經驗共に深からんと考ふるが如きは實に誤れる皮相の觀察である。試みに肺臟を身體外

に生存せしめて見よ、眼球を身體外に於て生活せしめて見よ、神經を腦外に生存せしめて見よ、墮死すべきは論ずるまでもあるまい。又膿胸、盲腸炎等は内外兩科に跨り、妊婦の内臓の疾患は内科と婦人科とに交渉を持つものである。吾人の身體は各組織が綜合統一されたものであつて、決して其一部分のみを以て單獨生活を爲し得るものではない、従つて疾病も全體の機能に綜合的障礙を來すは、子宮内膜炎の患者が胃部停滯、食慾不振、嘔氣、便秘、肩の凝り、頭痛、上衝、不眠等の一般症狀や内科的症候を呈するに見ても分明である。

さればこそ一般醫界は専門分科の迷盲より今や醒めんとして、大同病院、市民病院、北野病院等綜合病院が續々出現しつゝある。

我鍼灸醫術は療病行爲も技術も綜合單純化する學術であつて、近代科學の弊と糟糠とを嘗めたり、後塵を拜したりするものではない。萬病單一化の科學の精粹と、宇宙渾一の哲理とに立脚せるものである。實に萬古不易の綜合統一的醫術である、我等同業が此至高至妙の靈術を天職とするは定に同慶に堪へない。(昭和三年九月)

### すべての疾病は鍼灸醫術の適應症である

微毒の療法として水銀劑や沃度劑が效力抜群であることは一般醫家に確信せられてゐた事だが、急速の治癒を望めぬのを遺憾として具眼の士之が研究に従事し、遂にエールリツヒ氏と秦氏とによつて「サルヴルサン」が創製せられ爾來十七年種々と改良をせられたが、陳腐なる微毒即ち腦微毒や脊髓の微毒に對しては効果がなく、又患者によつては種々なる驅微療法すらも寸效のない事實が幾多存在する、然るに又一方には、第一期の微毒、第二期の微毒が、何等の治療

をも加へないのに自然治癒を營む事がある。此等の事實は各々個人の體細胞の個性の相違と、人體細胞の微毒に對する自然的治癒機轉が存在する事とを事實に立證するものである。

又特に注意研究を要すべきは腦微毒、脊髓の微毒等で一般西洋醫療を試みても寸效をも呈せぬ變性微毒が「ヨコネガヘシ」の灸や「打拔」の灸法によつて治癒する事實が屢々存する事である。

明治年間には灸治鍼療といへば官能的疾患のみに卓效がある様に考へて居た一派の鍼灸醫達が相當あつたやうであるが、今日ではさういふ人達は大層減じた。

そこでもう一つ深く考へねばならぬ事は、洋法に絶對的特効藥がないといふ事と、疾病機轉が各々の即ち個人の體細胞の個性によつて異なる事と、鍼灸醫療が時々奇蹟的效果を現はすは決して偶然ではなく、體細胞の個性によつて難病が鍼灸醫療を行へば、必ずしも所謂難病でない場合が相當存在する事とである。

言葉を換へていへば鍼灸醫療が人によつては實に驚くべき所謂特効藥としての卓效を現はす事である。であるから我鍼灸醫術は決して、神經衰弱や、神經痛の如き、官能的疾患にのみ良效を致すものでなく、あらゆる疾病に偉效を奏するものである、此意味に於てあらゆる疾病は我鍼灸醫術の適應症である。(昭和三年十月)

### 壯 數 灸 治 片 々

千金方に曰く。

凡そ壯數をいふは丁壯に従う（註二十歳を丁、三十歳を壯とすると類書纂要）病根の深篤なるは壯數を倍すべく老少羸弱は半を減す可しと、

即ち病ひ重き者には普通に説く所の壯數を二倍にして用ひ、老人や、少年、或は身體瘦せたる者、弱き者には、普通に用ふる壯數を半減せよと言ふ也。

### 艾 炷 の 大 小

千金翼に曰く。

手足皮薄し、炷は小に數は少くす、腹背肉厚し、炷は大に壯を多くすと、現代の科學的舉證も、蓋し此範圍を出づる事能はざる也。

### 髮 際 を 定 む る の 法

明堂下經に曰く。

兩眉の中心（辰井生曰く眉間）の直上三寸を定めて髮際となし、後は大椎の直上三寸を取つて、髮際と爲すと。現今の科學より考ふれば前額髮際不明の者は、前額に横皺壁を生ぜしめて其最上位を以て前髮際となす事を得れども後頭髮際脱落せるものに在りては後頭筋の作用が退化せるが故に前額部の如く皺壁を作らしむること不能なり、故に明堂下經に誌す所を以て範とすれば庶幾は間違ひすくなからん。

### 灸 の 補 瀉

靈樞背俞篇に曰く。

以て火補する者は其火を吹く事母くして須らく自ら減せしむべし、瀉する者は疾に其火を吹て其艾に傳へてすべからく其火を減せしむべきなり、と補瀉は敢て鍼術のみの専有には非ざる也。（昭和四年三月）

## 皇 漢 醫 術 の 復 興

最近たゞに鍼灸醫界とのみいはず、所謂醫界の全體、即ち現今治療界の全權を行使せる療病界の（治療行政上）ローマ法皇一般西洋醫の全體及び、賢明なる大衆の全般を通じて、著るしく何人の耳目にも觸るゝ現象は、科學萬能、獨、英、米の醫學謳歌の聲が、だん／＼と盤居したり、縮小したり、變形したりして、其影を薄くすると同時に、新時代の醫人の單一刺戟療法への轉換（大阪醫大物療科長、長橋教授は日本鍼灸醫會總會の學術講演に際して熱波療法を高唱し子宮筋腫の如きは光線療法によるがよく手術するが如きは時代後れの愚策だとまで極言せられた。）或は皇漢醫道への合流、又は鍼灸黃金時代出現の翹望、などの叫びが甚だしくなつた。

であるから我鍼灸醫家も思ひ思ひに一般治療界への進出が昨今特に眼覺ましい感がある。

けれども又翻つて其實質を検討して見るといさゝか心細い點が可成りに存在して居る事は否まれない。

夫れは第一に一般鍼灸家が鍼灸の今日在るを知つて、據つて、來れる原因の尊とく、古き事、言ひ換へれば、鍼灸の古法と古學を閑却して居る事と、

一致團結、區々たる感情をすて、皇漢鍼灸醫學確立の爲に合流して一大團結を作る精神の微弱なる事とである。  
又皇國の國力充實、國產獎勵は政府の首頭であるが、所謂醫療器械と醫療藥品と、獨、英、米に多數の人を留學せしめて國帑を徒消する點に醒覺せず、結構な國產醫學を當路の事務官等が措いて顧みぬ恐るべき矛盾とである。  
更らに覺めよ。更らに團結せよ。時代は皇漢醫學確立の順風が吹き渡つてゐるのだ。(昭和四年四月)

### 現代灸療範圍の進出

鍼灸醫學を主として官能的疾患の治療に應用するもののみ考へて居る人達が、昭和第四の今頃でもまだ存在する事は我等、眞實に鍼灸を生命とし、鍼灸醫學以外の理學的療法を併用せぬ純鍼灸醫家の立場から考察して見て怪訝に堪えぬ。

博士原志免太郎氏は、灸の研究第四報に於て、灸術が肺結核を治癒せしむる計りでなく、豫防の効果をも舉げ得る事實を、九州大學の研究室から我が一般醫學界に發表せられ、又

博士青地氏は、京都府灸術試驗委員として、或種の皮膚病(即ち癩腫、小なる癬、鶏眼、尋常性疣贅、慢性濕疹等)に灸が實際に適應症で治癒するものである事を、事實と學理の上に立脚せられて「皮膚病中の灸治適應症」を京都府の實地試験に出題せられたのである。

昔しから、或種の外科的疾患や、皮膚病に、旺んに灸治が行はれた事は周知の事實である。

余も亦門下の宮田鍼灸師が、耳前動脈部から淺頰動脈の上に亘つて徑一センチの大きさを有する粘液瘤を發生して

赤十字病院外科にて入院手術を要するとせしものに、余は斷然反對をして聽宮に灸三十壯せしめたるに破壊して治癒し、而かも灸痕は小さき癩痕收縮を残して立派に治癒したる等、其他數十例の實驗を有するものである。時恰かも模範的試驗場である京都府の試驗委員、灸の博士、青地氏の出題に觸れて共鳴更らに深いものがある。

余は聲を大にして我鍼灸醫學は其の應用と實驗が我等の有名、無名の各々我同志によつて其範圍を擴めつゝある事實を諸君と共に喜ぶものである。(昭和四年六月)

### 脚 下 を 見 よ

我鍼灸醫學は軒岐に原を發する東洋固有の醫術である。

衣食住共に異なる西洋人の與り關せぬ所である。

近來所謂科學的研究が尊敬すべき四、五の篤學の博士によつて行ははしたが、鍼灸醫學の諸病に對して偉効あるすべての論理が明確となつた譯ではない。

けれども夫れ等篤學者の御座で民間療法之如くに考へられたる、我鍼灸醫學の效果は晚近急速に具眼の士の注視する所となりたると同時に、鍼灸醫それ自身の研究心をも刺戟した事は甚大である。

「已れを知る者は已れ也」で鍼灸醫學の奇効は我鍼灸醫こそ最もよく夫れを知る筈である。

但し其理論を西洋醫學に求めたならば木に魚を求むる底の脱線に墜入るの滑稽なる破目となるであらう。

實に鍼灸醫學の精華は經絡の學と兪穴の説とに汲めども盡きぬ幽玄が存在する事を忘れぬやうにせねばならぬ。一言

を記して自戒とする。(昭和四年春)

無 題 録

治療とは、個人の生命の維持と発展とを目的として、或種の刺戟を人體に應用する事である。

豫防は治療の前提で、治療は醫學の結論である。

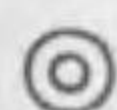
傳によると古來からの支那の醫書五千卷更に現代洋法治療の書幾萬卷、是等の群書が究極の目的は疾病の治療と豫防に他ならないのである。

而して古今の群書には種々なる治療法を記載してゐるは勿論、特に西洋治療の如きは微に入り細を穿ち、精巧なる機械までも種々と考案して應用するまでに立ち至つてゐるが、

不治の疾病と、原因、本態不詳の疾患とは依然として未だ治療學上に残されたる問題である。

乍併東洋の古代に於て原を發せる、鍼灸醫術は簡古にして直觀的なる診斷と、保護的にして且つ簡易の技術とを以て、よく幾多の、所謂難病をも治療し得る事實を何人も否定出来ぬ。

然り残されたる問題を解決し得る唯一の鍵は、古法に立脚して新醫學を吸収同化したる鍼灸醫術を措いて、他に無きことを斷言し得るものである。(昭和四年秋)



俗傳による名灸といふもの、之を實際に試みると奇效を奏する事がよくある。阿是穴、名穴、又は別穴等の秘穴は、こゝにいふ實際的要求の下に古名醫が事毎に實驗に訴へて後世に記録したものが多からうと考へられる。又鍼灸醫に非ざる者が、潛行的に之を傳へたが爲に其傳來が不明の名穴も世にあり得る。

名家灸選に記す所の、俗傳或は一醫家傳といふもの等もそうしたものかも知れない。

乍併淺學短見の士が勝手の場合に勝手の名穴を付けて、之を無知の徒に誇示するが如きは慎まねばならぬ。それと同時に非鍼灸醫の所謂名穴なるものを一言のもとに唾棄して輕蔑するが如きも、吾人鍼灸醫の慎まねばならぬ點である。

要は、虚心、恒懐、之を研究の益に入れてよく練り、よく調べ鍼灸醫道に寄與すること、我等同志の任であらねばならぬ。(昭和六年初夏)

溫 古 知 新

絶對的新しいものは世にあり得ない。

古きものは常に新しいのである。

特に久しき實驗と傳統とに立脚する、我鍼灸醫術は、内經 銅人經 明堂灸經 鍼灸甲乙經 十四經發揮等の古典に汲めどもつきせぬ清新の匂ひがみなぎる。

傳統を切り捨てたならば日本國は無いと同様に、傳統を閑却したならば鍼灸醫術は滅亡して、西洋醫學の一分科となり獨立性を失ふに立至る。



千古不磨の幽玄と、直感的單純とに我鍼灸醫道の生命は常に新しく萌ゆるものである。西洋醫術の理論と推理の光然たるは時計のクローム皮や、金鍍金の黄金佛と同様である。我鍼灸醫道は土中より掘り出されたる古色燦然たる純金佛である。鍍金の黄金佛は年改まる毎に其光りを減じ、掘り出されたる黄金佛は年新なる毎に其光りを加へる。此意味に於て古きものは常に新しい。一言以て卷頭所感を述べて同志に對する挨拶とする。(昭和五年新春)

### 鍼 灸 の 教 育

早稻田大學や慶應大學の如き、事務的にして企業的なる私立學校には純真なる學術と、一面に於ては企業的に流る、一種の矛盾とを免れ得ぬ許りでなく、結果として其卒業生は商品的傾向を有する事實を如何とも成し得ぬものである。學校が現代化すればする程、講堂が大きくなればなる程、純真な鍼灸醫養成の理想とは遠ざかつて當然の歸決として教育が事務化する事を否定し得ない。神聖なるべき教育に於て學校騒動が送迎に暇のない事實は學校經營の事業化、非人格化を立證するものである。故に余が希ふ所は表面丈けの形式的合理化や、非人格的教育や、マッサージと鍼灸とを混合したやうな卒業生を作る事ではなくして、聖人の教へを遵奉して誠意を以て患者に接する、純粹の皇漢鍼灸醫道に精進し得る優秀なる學と術とを保有する鍼灸醫の養成である。

優秀なる藝術が時代を超越して永久に新鮮である如く、非凡なる先哲が臥薪嘗膽の上、名穴、名灸として型に残した足蹟は單なる事務的教育では味はひ得ないものである。

東方の小國日本が學理の精を極めた西洋に誇り得る唯一無二の國寶は、我鍼灸醫術を措いて他にあるまい(昭和五年冬)

### 鍼 經

靈樞の九鍼十二原篇に據て、張景岳が類經卷之十九鍼刺類篇に記して曰く、

黃帝岐伯に問て曰く、余萬民を子とし百姓(民衆)を養ふて其租税を收む、余其給せずして疾病あるに屬する事をかなしむ。

余毒藥を被らしむる事なく(過劇なる藥を服用せしむる事なくとの意)砭石を用ふる事なく(石鍼を用ゆる如き觀血的手術をなす事なく)微鍼を(毫鍼を)以て其經脈(十四經、三百六十五脈絡)を通じ、其血氣(營衛即ち循環系統、神經系統)を調へ(調節して)順逆出入の會を營ましめんと欲す。後世に傳ふべくして(然り幾千年の今に傳はつて居る)必ず明かに之が法と爲さしめん(古法聖人の道と術とを傳統して永く則となつてゐる) 終て滅びず(名言である) 久敷して絶へず(天地と共に極りない) 用ひ易くして(西洋醫術と比ぶれば實に單純なる技術である) 忘れ難く(鍼の妙が一度其神效を味へる者は忘れ得ないものである) 之が經紀となさん、其章を異にし、其表裏を別ち、之が終始となして各々其形ちあらしめん。先づ鍼經を立つ(靈樞を作る)と。張介賓註して靈樞を即ち鍼經と

名づくと言つてゐる。(醫法同盟會叢集の歸途車上にて、昭和五年冬)

### 古 典 愛 護

假りに今現存する鍼灸圖書の古書の全部が滅盡してしまつたとしたならば、其結果はどうであらふ。數千年の間に亘つて著積されたる、鍼灸に關する知識と經驗の總寶物が消へて無くなり、我鍼灸醫道の進歩は一時に停頓して、各人の短かき人生記憶と經驗にのみ限局してしまひ、之を補ふものとは、各人の單なる經驗の範圍に屬するものゝみで、漠然たる獨斷的のものとなつてしまふであらふ。

我等社會共有の精神的遺産である素靈以後幾千年の思索と經驗の集積たる、寶玉を繼承し、保存し、之を利用し、補足し、擴充し、實際に應用し、校正し、鍼灸の眞價を更らに闡明して、幾久敷子孫に傳へて、子孫の健康と福祉の増進を計らねばならぬ。いふまでもなくそれは我等の重大なる義務である。

特に古學古書に數限りもなき、幽玄なる神祕の潛む鍼灸醫術に於て、一層に其責任は深い。

如此鍼灸醫道と古書經籍とは密接不離の關係にある。

古書や經絡の學說や經穴學を離れて鍼灸の學術は存在し得ない。

願くは讀者諸兄と共に古書經籍を禮讚し愛護したいものである。(昭和六年秋)

### 鍼灸醫學の獨立性

皇漢鍼灸醫學の意義は、人も識る如く今日の欽定醫學、講壇醫學、官設醫學に對する對立的稱呼である、漢法醫學の一分科には湯藥(煎じ藥)を主とする一科目の存する事は勿論であるが漢法醫學の原流である古醫籍內經即ち素問靈樞が、鍼灸の聖典である事はこゝに詳叙する必要のない程それ程、識者周知の事實である。

此幾千年の試鍊と實驗と思索を経たる鍼灸醫術が、我國に於て千幾百年の應用と體驗と改校とを経て(啓蒙的一例を擧ぐれば金鍼の發明管鍼の創始の如く)此所に昭和の鍼灸醫術を展開し、西洋醫學の粹を飽和せしめ獨得の治療領域を明瞭に確保し西洋醫術保護精神の醫育醫政に壓迫されつゝも敢然として或程度の抗爭的對立をなすに立至つたのを祝福せねばならぬ。我等は皇國の光榮と名譽の爲に、業に卒先し嘗てより皇漢鍼灸醫學と命名して、一般大衆及び一般専門醫家に正當の再認識を求むる所以である。(昭和七之元旦)

### 一 考 察

治療實質上の機構として鍼灸は一般醫師と同一の權威者である。之を實際の治療方法に於て考察すると醫師は法規上一切の科學を應用して、治療に従事し、我等は定められたる、鍼術、灸術を以て理學的療法を試むるものである、而して疾病治療の効果は常に殆ど同一である。

けれども一般醫師の教育機關は整然として、文化教育の體系をなして居るが故に、従つて社會的地位が一般の鍼灸醫

よりも高く我鍼灸醫教育機關は廣大なる講堂と複雑なる研究室を持たぬが故に、従つて社會的地位が低きかの觀がある。こうした鍼灸醫と一般醫師との對立はブルジョアとプロレタリアとの對立の如くである。従つて一般大衆が醫師を重視して、鍼灸醫を些か輕視するが如き傾向があるのは慨歎に堪へない。

然るに之を日常業務上の實際に徴すると正反對であるから定に不可思議である。我等の門を訪ふ多くの患者は殆ど其七割迄が、一度一般醫門を叩いて良效を得ずして鍼灸醫の診療室を訪ひ之が治を乞ふて、立所に快癒するものが多いのである、故に鍼灸醫の間には一般醫師以上の信頼と尊敬とを受けてゐる者も相當に存在するのは實に皮肉である。

### 菅沼周圭氏と鍼灸則と其學說

菅沼周圭氏は、後桃園天皇の朝、明和、安永の頃攝津浪華で鍼灸の大醫として四隣に盛名を轟はれた天才兒で、鍼灸の古學派にして、異常なる革新兒であつた事は、世人周知の通りである。

氏は其の學說と主張とを當時醫界に弘布徹底せしめんが爲に、一代の名著『鍼灸則』、『鍼灸治驗』、『鍼灸摘要』などの著述を上梓發兌した。

殊に其の代表作『鍼灸則』は漢文ではあるが、平易簡明で記述適確、當時のあらゆる醫家に愛讀せられたものである。百五十有餘年後の今日『鍼灸則』に示す處の名穴を其まゝ應用して見ると悉く偉效を奏するは『鍼灸則』一卷が不朽の生命ある名著である事を物語るものである。

「鍼灸有<sub>二</sub>功要之經穴<sub>一</sub>故<sub>二</sub>予<sub>一</sub>所<sub>レ</sub>恒<sub>レ</sub>用<sub>レ</sub>者僅<sub>カニ</sub>七十穴<sub>耳</sub>」。

十四經三百六十五穴の中で、眞に效驗の著しいものは甚だ尠いと、そこで氏は臨牀上にいつも極つて用ひた經穴は七十穴だけである。

「以<sub>レ</sub>此七十穴<sub>ニ</sub>而療<sub>レ</sub>諸病<sub>一</sub>不<sub>レ</sub>復<sub>レ</sub>求<sub>レ</sub>他<sub>ノ</sub>經穴<sub>一</sub>固<sub>ニ</sub>違<sub>レ</sub>舊說<sub>ト</sub>然<sub>レ</sub>久<sub>ク</sub>用<sub>レ</sub>施<sub>ス</sub>人<sub>ニ</sub>每<sub>レ</sub>奏<sub>ス</sub>效<sub>ト</sub>」

ただ七十穴を自由自在にあらゆる病患に用ひて萬病を神の如くに治癒せしめたのである、決して七十穴以外の他の經穴は用ひなんだ、それは無論傳統的の諸說とは違つてゐるが、永年の間『鍼灸則』に載せてある處の七十穴の中から、疾病に應じて、撰定して治療をして見ると毎々(全部)難病でも治癒したのである。

「中<sub>レ</sub>心<sub>一</sub>日<sub>ニ</sub>死<sub>ス</sub>」 「中<sub>レ</sub>肝<sub>一</sub>五日死<sub>ス</sub>」

「刺<sub>レ</sub>癰門<sub>一</sub>成<sub>レ</sub>癰之說<sub>一</sub>一切不<sub>レ</sub>取<sub>ス</sub>」

「治門中皆不<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>鍼<sub>一</sub>淺深<sub>一</sub>(中略)當<sub>ニ</sub>依<sub>レ</sub>病<sub>一</sub>輕重<sub>一</sub>耳」

治療編で鍼何寸何分刺、せ又は灸何壯柱へよとなごは説かぬ、それは病氣の輕重によつて刺鍼灸壯の程度が異なるのであるから、實驗に立脚して刺鍼灸壯の程度を宜しく加減すべきである。

「舊說禁鍼禁灸之類<sub>一</sub>一切不<sub>レ</sub>取<sub>ス</sub>」

舊い禁鍼禁灸は全部鍼灸してもかまはぬから禁鍼禁灸説などは用ひない

「予所用之鍼乃毫鍼也而世人好<sub>レ</sub>華<sub>一</sub>以<sub>レ</sub>金銀<sub>一</sub>作<sub>レ</sub>之予只用<sub>レ</sub>鐵鍼<sub>一</sub>以<sub>レ</sub>覺<sub>レ</sub>其效<sub>一</sub>」

鍼は『靈樞』に載する處の九種の古へより、種類が多いが、氏は好んで毫鍼(昭和の現代吾人の使用せるもの)を用ひ

る、けれ共其當時の人々は、華美な事を好んで金銀鍍を用ひた(金鍍は曲眞瀬道三が初めて作つたものである)が、氏は鍍鍍のみを用ひて大層よく利くものである事を覺つた、それで鍍鍍計りを用ひたと。  
以上は菅沼周圭氏の學說の概要である。

大増補 簡明鍍灸醫學  
一名 系統的鍍灸試驗問題詳解 (終)

昭和二年三月十日第一版發行  
昭和二年四月十日再版發行  
昭和三年九月十日改訂第三版發行  
昭和三年三月三日改訂第四版發行  
昭和五年九月五日改訂增補第五版發行  
昭和五年五月十日第六版發行  
昭和七年九月五日第七版印刷  
昭和七年同月十日第七版發行

改訂 增補 簡明鍍灸醫學  
一名 系統的鍍灸試驗問題詳解

定 價 金七圓五十錢也  
書留送料 金四十五錢也

版權者所有

復製不許



著者檢印

本書は單なる試験問題解答集に非ず本書の各項を活版又は謄寫版に、無斷轉載又は翻寫をなす時は出版法に依つて斷然之を摘發すべし

著 者 者 大阪市浪速區鴨町一丁目五八 辰 井 文 隆

發 行 所 大阪市浪速區鴨町一丁目五八 辰井高等鍍灸學院出版部  
振替 大阪三六七六壹番

印 刷 者 堺市中之町西一丁目八番地ノ二 林 駒 吉

印 刷 所 同市中之町西一丁目八番地ノ二 豐 文 堂

關東大賣捌所 東京市本郷區(電話水戸川三五六一六番) 南江堂書店  
春木町三丁目(振替東京一四九番)

關西大賣捌所 京都市中京區(電話本局二〇三〇番) 南江堂支店  
町通御池南木(振替大阪一一五〇五番) 能寺前町壹番地



大阪府前鍼灸術  
試験委員 辰井文隆氏著 (再版)

### 實驗鍼灸病理學 後篇 完

九ポイント活字・菊版 定價 四圓五拾錢  
三百數十頁ソフト舶來 送費 二十一錢  
クロス天金文字入

## 内容 神病 婦人科病 小兒科病 經病 婦人科病 小兒科病

其著作の態度を舉げて見るに、腦溢血(中風、卒中)を記述して八頁を費して、曰く、原因、間接の原因、腦溢血直前の動機即ち、誘因、卒中體質、病理解剖、症狀、卒中發作、半身不隨、經過、診斷、豫後、療法、鍼灸療法の時機、奏效の理由、古文獻(古書の療法)、養生法、後療法、備考、豫防灸法。以上の如く摘發せるが如きは未だ嘗て見ざる所である

本稿は曩きに發行せられたる、實驗鍼灸病理學の續篇にして、久敷其發刊を期待せられし著者苦心の著である。鍼灸醫術を以つて身を立つるにはかならず坐右にをかねばならぬと思ふ。殊に神經病、婦人科病、小兒科病の、診斷と治療を主とした、皇漢鍼灸醫學味饒かにして、しかも最新科學の精華を隨所に織り込み、後藤、時枝、藤井、青地、原諸博士の研究の核心は素より最近の瀧野、太田博士の業績をも同化して、尙且つ、和漢洋の醫學を渾然として融合せしめ、今直ちに實地に應用出来る昭和の鍼灸病理診斷學の完成を見たるは眞に學界の慶事である。専門書としては寧ろ廉なる價を以て受験生諸君及び鍼灸醫家諸氏の機邊に奨む、希くは批判と示教を賜りたい。

内容見本郵券四錢、内容見本丈けでも獨立せる一篇の立派な實驗録である

大阪市浪速區勘助町市電停北へ入ル  
辰井高等鍼灸學院出版部  
振替大阪參六七六壹番

大阪府前鍼灸  
試験委員 辰井文隆氏著 (最新版)

## 圖解經穴學

(並に取穴法解説)

見よ 本書の特色  
取穴法の詳説  
部位の正確  
古部醫聖の傳  
古醫學省孔穴の略  
古部醫學省孔穴の略  
古部醫學省孔穴の略

出典の明確  
豊富なる参考書の参考  
受驗用同時夫以上及び  
禁灸灸穴の廣汎  
禁灸灸穴の廣汎  
禁灸灸穴の廣汎

前名圖解經穴學講義です  
それを改題改訂増補した新版です  
新編活字十二ポイント  
九ポイント混用總カナン  
附圖百數十入り  
總ククロス天共色塗  
菊版參百五十餘頁  
定價參圓八拾錢 送費卅三錢

新式ポイント活字で圖解の多い總フリカナ付の、數回の改訂を経たる經穴學である。凡そ疾病を治療するに其の治療部位を教ゆるものは經穴學である。本書は氏が多年研鑽の勞を續け、稀購の幾多の古書を調べ、新書を漁り、各地の實地家と全國著名の諸士に之を矯し、試驗場では學生に之を試み學理的にして實驗的に且其精髓を闡明して著作せられたものであつて、取穴の方法及び部位の正確なる、治療應用の適切なること等、斷然頭角を抜けるは勿論、内容の充實及び價の至廉とは驚くべき斯界の好著である。其他東京地方の仁の爲に文部省新孔穴も本書によれば皆わかりよく記述してあるから東京方面の人々も無二の好教科書である。又受験生は必ず一讀せねばならぬ。

内容見本  
四錢

發行所 大阪市浪速區勘助町市電停北へ入ル  
辰井高等鍼灸學院出版部  
振替大阪三六七六一番

大阪府前鍼灸術  
試驗委員 辰井文隆氏著

# 圖解鍼 解剖學講義

要見本四錢

改訂増補第九版  
定價 實費  
前篇 二圓  
後篇 二圓  
總頁 四百餘頁  
代金引換謝絶  
送料 三十六錢  
上製總クロース本は各冊實費五十錢増

本書は、斯界の權威者、辰井文隆氏が十數年間一千數百名の子弟を訓育成功せしめられた體験と實地の經驗とに基いて新古今外の群書を參考し、最も簡明にして解り易く、そして要領第一として各項に殆ど圖を入れて説明を加へ、最近の學理は皆採録して著述せられたものであるからこの書を翻せば如何なる初學者も、容易に解剖學が學ばれて實に記憶しやうい、殊に價の低廉なことが又古今無比である、試みに今日までの解剖學書と比較してみると、實用解剖學の上巻一冊の代金で本書は前後二巻が買へて、なほ剩が出る解剖學書としては本書が最も至廉である。

一般の解剖學は普通醫家用として著作せられたものであるが本書は純眞の鍼灸解剖學であつて、筋や臟器の疾病及び、治療に就ての鍼灸點までも、明かに附記して總振假名を付けた斯界唯一の解剖學であるが上に、目下實費分配である。又騰寫版印刷ではあるが、上製紙を用ひて印刷してあるからインキやペンで必要な事を記入する事も自由である。カスレ等は絶対にない鮮明無比世間にあつた騰寫版本とは天と地程違ふ。上製は總クロース金文字入である、今や試験委員としての經驗に立脚して増補したるが故に前版に較べると別著の親である、見本は實費四錢で何人にでも進呈する

鍼灸解剖學の獨學は本書を讀むに限る！

發行所 大阪府浪速區助町市電停北へ入ル  
辰井高等鍼灸學院出版部

振替大阪六九八五番・大阪三六七六一番

杉山和一先生著  
辰井文隆氏頭註 (秘本)

ポケット型クロース本の讀者に限り 特價 一圓  
金文字入 百四十頁 書留送料 十五錢

# 杉山流 選鍼三要集

最新刊  
本文四號活字  
註五號活字

數少本殘

選鍼三要集ニ頭註ヲ加ヘテ翻刻スルニ就テ

- 一、杉山和一先生ハ鍼術中興ノ天才兒デアル、今日一般ニ行ハル、管鍼術ハ實ニ杉山流デアツテ眞ニ先生苦心ノ賜デアラル。
- 一、鍼灸ノ學徒ニシテ先生ヲ知ラヌモノハナイ、先生ガ管鍼發明ノ苦勞ハ實ニ普遍的ニ講談師ノ張扇デマデモ疾呼セラレテイ。
- 一、先生ノ最モ權威アル學術ノ精髓デアル「選鍼三要集」ヲ鉛槧ニ附シ得タノハ余ガ近來ノ快心事デアラル。
- 一、未熟ナル余ガ啓蒙的頭註ヲ加ヘ、句讀點ト振假名ヲ施シタノハ初學者ガ古書研究ノ道案内ノ役ヲ務メタニスギヌ、不遜ハ一般學者ヨリサレタイ。
- 一、成ルベク原本ノマ、ニト忠實敬虔ノ念ヲ以テ原本ノ保存ニ努力シテオイタ。
- 一、杉山和一傳ハ淺田宗伯先生ノ「皇國名醫傳」ノ先生ノ傳記ヲ余ガ假名交リ文トシタモノデアラル。
- 一、元來本書ハ杉山流秘傳ノ名著デ門下ニハ一覽ヲモ禁ジタ徳川時代ノ秘本デアラル。
- 一、目次ハ便宜上余ガ附加シタモノデアラル。
- 一、翻刻者ハ「鍼灸則」出版ニヨツテ古書翻刻ノ體験ヲ得タノデ、本書ノ翻刻ハ「鍼灸則」ノ翻刻ヨリモ好成绩ヲ修メタ事ヲ心私カニ喜ブモノデアラル、尙不備ノ點ハ大方ノ示教ヲ待ツ。
- 昭和四年青葉齋ルノ日

## 次目

- 一、選鍼三要集翻刻ニ於テ
- 一、杉山和一先生之傳 淺田宗伯
- 一、選鍼三要集序
- 一、第一。補、湯、迎、隨、ヲ論ズ
- 一、第二。井、榮、俞、經、合、ヲ論ズ
- 一、第三。虛實ヲ論ズ
- 一、第四。謬鍼ヲ論ズ
- 一、第五。腹、經、穴
- 一、第六。九鍼、圖說
- 一、第七。十五絡、脈
- 一、第八。十四經、穴、並ニ分寸
- 一、第九。鍼灸要穴ノ論
- 一、第十。諸病ノ秘穴
- 一、第十一。治法、禁鍼
- 一、第十二。禁鍼、禁鍼
- 一、第十三。選鍼三要集版

大阪府浪速區市電助町停留所北  
(振替大阪三六七六一番) 辰井高等鍼灸學院出版部

支那(元時代)滑伯仁原著  
日本(文化年間)八田泰興日本譯  
日(昭和年間)辰井文隆頭註

定價 三圓八十錢  
書留送料 拾八錢  
外國朝鮮 五十錢

見本四錢

# 假名讀 十四經發揮

上、中、下、合本  
全一冊

本文四號活字對入り右と左に読み方と  
意譯付、並に頭註入り、繪圖十六面附

菊版(縦七寸五分横五寸)新鑄活字上質紙  
百六十餘頁總布製背と平金文字入

- 一、當出版部は、紀念の爲に四百部の限定版を以て、徳川時代の名著菅沼周圭先生の『鍼灸則』を、又次で杉山和一先生の『選鍼三要集』を各頭註を加へて翻刻し、些か鍼灸界に奉仕する所ありたり。
- 二、今又御大典記念として、我鍼灸醫道の原流、萬古に傳ふべきの名著、支那の元時代(約六百年前)の醫聖滑伯仁著十四經發揮の國譯本を、豪華版として爰に翻刻頒布を斷行したり。
- 三、本書は徳川時代の文化年間、當時の名醫八田泰興が、漢文の原書はともむつかしくして初學者が困るであらふ事に同情して、日本文として假名混りに書き下し、如何なる初學者も読み得る様に爲して且つ其上に左側に字や術語の意味迄も釋したる名著也。
- 四、普通の漢文の『十四經』や、單に漢文の儘で読み方丈の假名を付けた小形の古本は古本屋に時々出て居る事もあるが、本書は甚だ稀なる本也。
- 五、辰井家は祖先より夥き皇漢醫書を藏するの故を以て今回稀本八田泰興の假名付國譯本を撰んで翻刻發行したる也。元來本書は木版の平假名付き本で不鮮明の箇所多かりしを今回別項記載の通り寧ろ贅澤なる活版本となしたる上に更らに初學者の爲に辰井文隆氏が頭註を加へて解釋を施し、堂々たる體裁として四百部限り限定出版したるもの。
- 六、四方好學、眞面目なる皇漢鍼灸醫家の清鑑を待つ。

本書の讀者に限り  
二圓八十錢

發行所 大阪市浪速區市電勘助町停北(振替穴阪參六七六番)  
辰井高等鍼灸學院出版部

## 四百部限定出版 (實費提供) 故菅沼周圭氏著 (後學辰井氏註並に藏版)

(此本見本ナシ)

# 鍼灸則 全一冊

ポケット型、携帯至便  
四號活字と五號活字混用  
總クロリス、背金文字入  
賞費 壹圓也  
普通送料 六錢  
書留 十五錢

鍼灸革新の祖、有名なる徳川時代の鍼灸の大醫、唯一鍼灸の革新家、菅沼周圭氏の不朽の名著である。此書は今を去事  
一百五十七年前後桃園天皇の朝、明和元年の出版であつて、たま／＼原本存する時は鍼灸家が垂涎措く能はざる所の稀  
觀の書である。我辰井學長、三部の和本書肆に永らく依頼註文してやうやく一本を十數圓にて購ひ、學術進歩の爲に今  
回記念として、四百部限り印刷し、實費以下を以て同好の士に頒つものである、此稀世の至寶僅僅かに敷島煙草六個足  
らずの微錢で購ひ得るのである殘部少數賣り切れぬ中に學者一本を藏せよ。

- 内容の一般 鍼灸則序。凡例。鍼灸則七十六。中風。豫防中風。傷寒。
- 內傷。中暑。霍亂。轉筋。濕症。痧。泄瀉。
  - 咳嗽。中寒。嘔吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 諸血。痢。中。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 諸氣。逆。病。寒。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 疝氣。逆。病。寒。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 脚氣。逆。病。寒。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 齒痛。逆。病。寒。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 眼病。逆。病。寒。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 肩痛。逆。病。寒。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 盜汗。逆。病。寒。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 脫肛。逆。病。寒。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 諸蟲。逆。病。寒。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 消渴。逆。病。寒。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。
  - 健忘。逆。病。寒。嘔。吐。暑。霍亂。頭暈。痛。寒。

發行所 大阪市浪速區勘助町市電停留所北へ入ル  
辰井高等鍼灸學院出版部  
振替穴阪三六七六一番



主幹 辰井文隆氏

# 月刊 皇漢鍼灸醫學

年十二回 發行  
每月、十五日發行  
一ヶ年 壹圓半  
特別號一部五十錢

鍼灸は世界一の物理療法で、試験と實驗、我國に於て、千幾百年、昔は典藥の寮に鍼博士があり上は宮廷より下は庶民に至るまで皆鍼灸の偉大なる力によつて病苦を救はれたものである。明治の初年西洋醫學に上下皆心酔して、此結構な醫術を捨て、顧なんだが明治の末年からさる／＼識者が注意する傾向を生じて、三宅博士、三浦博士、田代、吉村、井上、富士川、野田、櫻田、原田、後藤、木村の諸博士や大久保、青柳、中條、岡田、岡本の諸學士之を研究し推獎し、最近では、青地、時枝、瀧野、太田、駒井原博士等が努力して鍼灸の學理を闡明せられた事は周知の實事である。鍼灸は綜合醫學の精華である。「十四經」は萬古不易の大醫學書である。鍼灸の聖典、黃帝の『素問經』『靈樞』は世界醫學の原流である。不肖辰井文隆其一黨と共に、聖經の趣旨を奉戴し、萬民病苦の塗炭の苦惱を救ふべく一本の鍼を一握の艾を以て、『素靈』の聖經を携へ、更に同志を獲んが爲に皇漢鍼灸醫學を創刊したのである。今や同志多く來り集る。鍼灸志望者、崇拜者新進鍼灸醫に實利と實益とな齎すものがあらう。識者の閱讀を待つ。

大阪市長 浪速區 鷗町一丁目  
發行所 辰井高等鍼灸學院出版部  
振替 大阪三六七六一番

實地開業上、研究上、又受験上、今直ちに其儘應用の出る鍼灸雜誌は、雜誌皇漢鍼灸醫學ならふと確信致します。是非貴下の御入會を祈ります。

「皇漢鍼灸醫學」は確實なる基礎の下に毎月發行致します。

- 一、當分の内四六倍版八頁であります。
- 一、從前通り春四月と秋十月は數十頁の立派な特別號を發行致します。
- 一、會費普通號十部と春秋二期の特別號二冊まで一ヶ年壹圓五拾錢であります。
- 一、普通號と特別號とで貳圓とありますが、會員及校外生は壹圓五拾錢であります。
- 一、今直ちに御決心の上
- 一、誌代、壹圓五拾錢也。

振替 大阪三六七六一番 辰井高等鍼灸學院へ拂込んで下さい。  
見本は普通號十錢特別號五十錢で差上げます。

右特に御願ひ旁購讀を御勸誘申し上げます。

會計 部長

## 新版 鍼灸學汎論全

並に獨學受験開業法

大阪府前鍼灸術試驗委員 合格秘訣、受験及開業の實際  
辰井文隆氏 著

何か鍼灸の内容や受験と開業手續きの全般に亘つて、一目でわかる様な小冊子を編纂して、鍼灸志望者の水先案内となり、既に免許を得て開業して居る人の爲には斯學の奥堂に達するの手引ともなるやうに、開業轉居等の場合の諸届書式に至るまでも一つに纏めて置いたなら、どんなにか鍼灸志望者や、鍼灸醫家の便宜であらうと、當日頃考へては居たが、患者の診療や、自己の勉學や、教授や、來客等の爲に寸暇もなく、逸し月日ばかりを送迎して素志を果し得ず、此の幾年を過してしまつた。折柄近來鍼灸醫術の復興につれて毎日の様に「鍼灸はどんな病氣に最もよく眞實利くものか」「鍼灸の獨學開業法はどうすればよいか」「鍼灸の勉強は自信出來たが、受験の時、願書等の書類はどうすればよいか」「鍼灸檢定試験に獨學で合格したが、開業届けの手續きは、どうすればよいか」「鍼灸の開業には、どれだけの資本がいりか」「既に開業して居るが、転居したのだが、届けはどうか」「どの様な書物を讀めばよいか」等々毎日の様に全国各地から五、六十通の照會と問ひ合せを受くる。一般社會はさう云ふ書籍の出現を、希望せられる人が案外に多數である。此事實に刺戟せられて過般來寸暇を得たので書きあげて實費一圓前後の小冊子として今日世に出す事にした。鍼灸に關するすべてを一日に見知らんとする人は是非本書を一讀されたい。

### 内容概略

第一章 緒言 第二章 鍼灸の前途 第三章 鍼灸の歴史 第四章 平安時代 第五章 鎌倉時代 第六章 室町時代 第七章 徳川時代 第八章 明治以後 第九章 大正昭和時代 第十章 現代 第十一章 鍼灸の現勢 第十二章 鍼灸の時代相 第十三章 鍼灸の適應 第十四章 鍼灸の現勢 第十五章 鍼灸の時代相 第十六章 鍼灸の適應 第十七章 鍼灸の現勢 第十八章 鍼灸の時代相 第十九章 鍼灸の適應 第二十章 鍼灸の現勢 第二十一章 鍼灸の時代相 第二十二章 鍼灸の適應 第二十三章 鍼灸の現勢 第二十四章 鍼灸の時代相 第二十五章 鍼灸の適應 第二十六章 鍼灸の現勢 第二十七章 鍼灸の時代相 第二十八章 鍼灸の適應 第二十九章 鍼灸の現勢 第三十章 鍼灸の時代相 第三十一章 鍼灸の適應 第三十二章 鍼灸の現勢 第三十三章 鍼灸の時代相 第三十四章 鍼灸の適應 第三十五章 鍼灸の現勢 第三十六章 鍼灸の時代相 第三十七章 鍼灸の適應 第三十八章 鍼灸の現勢 第三十九章 鍼灸の時代相 第四十章 鍼灸の適應 第四十一章 鍼灸の現勢 第四十二章 鍼灸の時代相 第四十三章 鍼灸の適應 第四十四章 鍼灸の現勢 第四十五章 鍼灸の時代相 第四十六章 鍼灸の適應 第四十七章 鍼灸の現勢 第四十八章 鍼灸の時代相 第四十九章 鍼灸の適應 第五十章 鍼灸の現勢

豪華版 總本皮三方金ソフト仕立  
實費 一圓三十錢・送料 十五錢  
二百餘頁・ソフト總クロス・携帯至便

# 辰井氏藏版拔萃書目 (各見本四錢宛)

書類によつて本の定價に高低あるは、版の新舊と裝訂に並製と特製本とがあるからです

大阪府前鍼灸試験委員 辰井文隆氏著	改訂 七版	簡明鍼灸醫學	一全册	定價 八圓五十錢
同	同	鍼灸學汎論	全一册	定價 四圓五十錢
同	同	解經學講義	全二册	定價 二圓五十錢
同	同	解經穴學	全一册	定價 三圓八十錢
大阪府前鍼灸試験委員 辰井文隆氏著	新	古經穴圖譜	全一册	定價 一圓五十錢
同	同	病理解學	全一册	定價 四圓五十錢
菅沼周圭氏註著	刊新	鍼灸則	全一册	定價 一圓五十錢
杉山和一氏著	解	秘本選鍼三要集	全一册	定價 一圓五十錢
辰井文隆氏註解	皇	漢鍼灸醫學	每月十五日	一ケ年 一圓五十錢
月刊雜誌	訓	釋十四經發揮	全一册	定價 三圓八十錢
古代支那滑伯仁原著 徳川時代八田泰興調 辰井文隆氏註	神	經病學、婦人科學、小兒科學	全一册	定價 四圓五十錢
最新版	實	驗病後學	全一册	定價 四圓五十錢

## 圖書目錄進呈

發行所 大阪市浪速區鳴町一丁目(振替大阪三六七六一番) 辰井高等鍼灸學院出版部

鍼灸術試驗委員長 辰井高等鍼灸學院院長 辰井文隆氏 教授明快懇切

# 高級鍼灸學教授

晝間部アリ 夜間部アリ

本科 二ケ年卒業  
普通科 一ケ年卒業  
受驗科 六ケ月卒業  
講習部 三ケ月卒業  
説明書請求(實費廿錢)

大阪市浪速區市電勘助町停留所北へ入ル

## 辰井高等鍼灸學院出版部

振替 大阪三六七六一番

鍼灸術試驗委員長 辰井高等鍼灸學院院長 辰井文隆氏講述 自宅獨學者の福音

# 鍼灸速成講義錄

獨特の講述 見本附獨學案内進呈 實費卅錢入用

大阪市浪速區市電勘助町停留所北へ入ル

## 辰井高等鍼灸學院出版部

振替 大阪三六七六一番

# 索引

( 1 )

胃	58, 63
陰囊	71
陰莖	72
陰莖體動脈	72
陰莖背動脈	72
陰莖背神經	72
頤神經	124
陰部神経痛	183
陰部股神経	137, 529
いびき	184
咽頭の神経	187
胃の消化作用	188
胃液	188, 192
胃の理學的消化	188
胃の化學的消化	188
胃の機能	188
異化作用	219
硫黄	237, 262
井戸水の消毒	247
衣類の消毒	261
胃腸疾患のヘッド氏帯	282
咽喉疾患のヘッド氏帯	282
遺感覺	305
イウアイン	333, 335
一拵指横徑	348
胃の六つ灸	394
胃に當る穴名	395
胃痙攣の要穴	397
陰陽虚實	412
萎弱	422
胃痙攣	433, 443, 444, 445, 455
胃潰瘍	433, 436, 463
胃加答兒	433, 445
胃性嘔吐	435
胃痛	436, 467
遺傳微毒	438
胃擴張	446, 447, 448

索引 ( 1 )

胃筋弛緩症	449
胃弱	449
胃アトニー	449
胃酸過多症	450
胃酸過剩症	450
胃疾患の禁忌症	450
胃圓形潰瘍	451
胃痛	451
遺尿症	490
陰萎症	493
萎縮	535
異嗜症	562
所謂腦膜炎	566
遺傳性運動失調症	568
遺傳微毒	574
インフルエンザ	607
陰蹠脈	622
陰交	638
陰郛	638
維道	641
胃俞	643
譙謫	644
意舍	644
胃倉	644
陰郛	648
陰廉	652
陰包	652
陰市	652
股門	652
陰谷	652
委陽	653
委中	653
陰陵泉	655
陰白	657
一穴二名ある經穴	661
一穴三名ある經穴	662
一穴四名ある經穴	663
一穴五名ある經穴	663
一穴六名以上ある經穴	664
印堂	664
石川縣試驗問題	773, 812, 822 867, 884, 894

( 2 ) 索引

茨城縣試験問題... 777, 794, 800  
809, 863, 879  
886  
岩手縣試験問題... 821, 870, 872  
所謂施行細則... 902  
一考察... 927

( ロ )

顛頂孔... 15  
肋膜... 77  
肋項軸... 104, 105  
肋間神経... 26, 136  
ロダンカリウム... 187  
六腑... 385  
六腑の穴... 386  
肋間神経痛... 427, 432, 501  
肋間筋ロイマチス... 427  
肋膜炎... 432, 438, 475  
ロツスバツハ氏胃酸過剰症... 450  
ロンベルグ氏症候... 546  
膿胞性結膜炎... 577  
老人性子宮萎縮... 590  
顛息... 632  
顛顛... 632  
勞宮... 650  
漏谷... 655  
顛頂部の孔穴... 659  
肋頭... 671

( ハ )

背部淺層筋... 21  
膊撓骨筋... 28  
齒... 57  
白亞質... 57  
肺胞... 64  
肺臟... 65, 180  
肺門... 65  
肺根... 65  
肺の作用... 66, 180  
排尿作用... 69  
肺静脈... 65, 93, 99, 114  
肺動脈... 65, 93  
肺循環... 99, 116, 172

腓骨動脈... 111  
腓骨榮養動脈... 111  
半奇静脈... 115  
ヴァゴトミー... 132, 442, 585  
膊神經叢... 134  
背部筋名と血管神經の關係  
白血球... 170, 171, 179  
肺動脈音... 174  
膊動... 176  
肺活量... 180  
ハッチンソン氏肺活量計... 180  
麥芽糖... 186, 191  
バラ乾酪素... 188, 190  
排泄... 190, 191  
鼻... 206  
反射制止神經... 211  
反射弓... 211  
反射痙攣... 213  
反射... 213, 218  
發汗作用... 222  
微菌... 232  
バクテリア... 232  
バチルス... 233  
バクテリウム... 233  
鍼とは... 272  
鍼の作用... 273, 297  
鍼は如何なる組織を刺すか... 275  
鍼の効果... 276  
鍼の治療的作用... 276  
鍼の病體作用... 276  
鍼の誘導作用... 276, 277, 278  
280, 281  
鍼の鎮靜作用... 276, 281  
鍼の興奮作用... 276, 281  
鍼が神經機能に及ぼす影響... 277  
鍼の強刺激... 274, 276, 278  
鍼の弱刺激... 273, 278  
鍼の大小長短... 279  
鍼の長さ... 279

索引 ( 3 )

肺臟疾患のヘッド氏帯... 281  
齒の疾患のヘッド氏帯... 282  
鍼の禁忌部位... 289, 291  
鍼の禁忌症... 289, 292  
鍼の適應症... 291  
拔鍼... 288  
鍼の腸管に及ぼす作用... 297  
鍼の刺方... 287, 298  
鍼の天地人三才の法... 302  
鍼の副作用... 304  
鍼の響... 305  
鍼の金質... 306  
鍼が血液に及ぼす作用... 309  
鍼の種類... 311  
鍼が組織に及ぼす變化... 321  
鍼の原理... 323  
鍼が痙攣に對して  
て效ある理由... 323  
鍼の歴史... 326  
原田重雄氏... 329, 334, 360  
原志免太郎氏... 331, 334, 363  
背部禁滅穴名... 397  
白條の穴名... 400  
發病... 414  
ヴァレー氏點... 421  
微毒性關節炎... 431  
肺結核... 437, 438, 475  
はなじ... 441, 442  
汎發性腹膜炎... 459  
肺ヂストマ... 465  
反射性喘息... 473  
肺尖加答兒... 475, 477  
膊神經痛... 500  
腓骨神經痛... 506  
反射性頸痛... 515  
背筋痙攣... 528  
腓骨神經痙攣... 531  
腓腸筋痙攣... 536  
腓腸筋拘攣... 536  
半身不隨... 542  
廢墜症狀... 542, 544  
薄腦膜炎... 566

ハイネメチン氏病... 569  
バルロー氏病... 572  
白内障... 579  
白帶下... 588  
汎發性子宮内膜炎... 588  
バラチフス... 597  
馬飛風... 600  
發疹チフス... 603  
破傷風... 605  
微毒... 610  
ハシカ... 612  
肺俞... 643  
魄戶... 644  
白環俞... 645  
背部正中線の孔穴... 660  
背部側線の孔穴... 660  
八曜... 673  
髮際を定むるの法... 918

( ニ )

二頭膊筋... 28, 30  
尿量... 68  
尿道... 69  
乳房... 76  
乳精蛋白... 188  
乳酸菌... 191  
乳糜管... 191  
尿... 222, 223  
日光消毒法... 236, 254, 255  
乳腺疾患のヘッド氏帯... 282  
妊娠時刺鍼... 316, 396  
にんにく灸... 342  
日哺削熱... 476  
尿道加答兒... 489  
乳腺神經痛... 503  
乳兒榮養法... 550  
乳兒脚氣... 564  
乳兒壞血症... 572  
妊娠中毒症... 594  
任脈經... 621, 627  
乳中... 636  
乳根... 636